



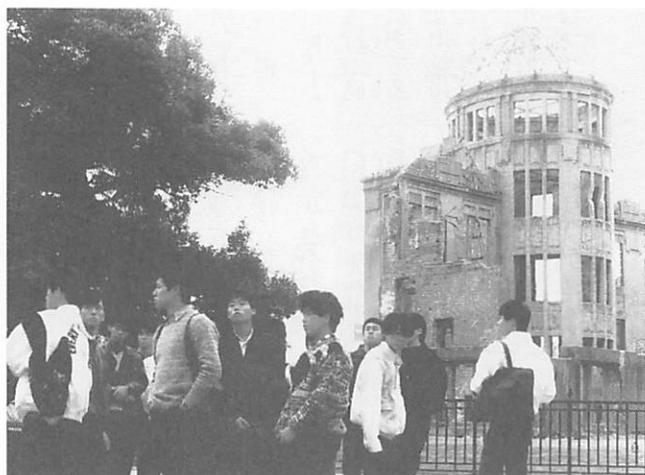
宿のおばさんと別れを惜しむ(1963、本四連絡船)



ダスターコートに学帽の集団(1960)



グループ別見学は修学旅行の
形態を変えた(1986)



広島での平和学習は1984年より始まった(1987)



昔も今もバスガイド
と記念撮影(1998)



嵐山渡月橋前で(1998)

待望の公認50メートルプール完成。

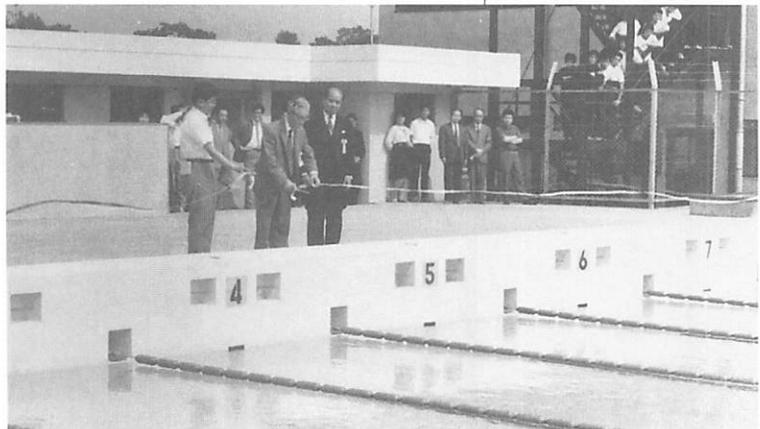
一月八日起工し、約五か月の工期で五〇メートルコース、日本水泳連盟公認プールが六月八日完成した。水深は最深部一・八メートル、最浅部一・二メートル、コース幅一・二メートル、半地下半立上がり式構造。鉄筋の管理棟一棟に更衣室、管理室、便所、浴室、水泳部室、シャワー、水飲み場を備えている。循環式プールで、濾過器を備えて水を浄化し殺菌する方式が取られている。

プール建設の動きはすでに大正期にあった。次いで一九三四(昭和九)年に、創立三十五周年記念事業の一環として計画されたが立ち消えとなり、一九四七年には旧講堂南側の低地を整備して建設用地にあてるまでになったが、立地条件の悪さと川越市水道事業の未整備から実現しなかった。
一九六三(昭和三八)年、プール建設の件が職員会議で決定され、翌年にはプール

建設委員会が組織された。八月には補助金交付の県議会請願が行われ、九月の定例県議会で採択された。第四棟の平屋を取り壊し、五〇メートルをつくることになった。

一九六五年七月には、プール建設補助金の県予算への計上と同年内の着工方につき陳情を行った。総工費二二八六万五〇〇〇円、プール本体の工事費は一五一〇万円だった。一部県の補助金のほかは、本校後援会の学校施設拡充費から支出された。

六月八日、二時からプール開きが行われた。生徒会役員、水泳部員、クラス代表二人がプールサイドに集合し、他の生徒は教室の窓から参加した。山田勝利(中26)水川神社宮司による修祓、学校長と染谷清四郎(中8)後援会長のテープカットの後、泳ぎ初めが行われた。木原光知子、福島滋雄(オリリンピック選手)の滑るような泳ぎ、



小久保校長と染谷後援会長のテープカットによるプール開き

4・8(金)始業式 入学式

5・2(月)新入生歓迎マラソン

8(日)同窓会総会

24(火)中間考査(27日)

28(土)開校記念日

6・8(水)プール開き

15(水)第七回熊高交歓会

28(火)ビートルズ来日のため、生徒に

注意

日本▶日照権認知さる。NHK朝ドラ「おはなはん」人気。共和精糖事件。ビートルズ来日。ひのえうまで出生減。
 世界▶中国文化大革命始まる。ガンジー、チトー、ナセル非同盟3国首脳会議。ウォルト・ディズニー死す。

川口市立高校水泳部員の力強い泳ぎに続いて、東京二階堂高校水泳部員(女子)の華やかな演技が披露された。最後にクラス代表が泳いでプール開きを締めくくった。

最後の新入生歓迎マラソン

五月二日、第一六回新入生歓迎マラソンが行われた。バイパス新設のため、コースが変更された。芳野農協脇の分岐点から、学年別に三方向へそれぞれ約七〇〇メートル後退した地点から同時にスタートした。距離も短縮し、八〇〇メートルで行われた。

翌年から、交通量が多く、同時に一五〇〇人が走ることは難しいなどの理由により中止された。

部室棟建て直し

六月十四日に着工された新部室棟が十月八日に完成した。鉄筋ブロック二階建、一階九室、二階一〇室、建築費四〇〇万円で、全額が後援会から支出された。一階は、暗室(写真部)、山岳、弓道、卓球、蹴球、排球、籠球、庭球、野球。二階は体操、ラジオ、英語、人文科学、航空、古典ギター、応援、弁論、文芸、国文学、JRC、演劇

映視研究の各クラブが使用した。

それまでは、多くの部は旧体育館や旧講堂の片隅、階段下の空き場所、二階踊り場ベニヤで囲まれた小部屋などで活動を続けていた。雨漏り、盗難など管理上の問題があったが、ようやく新部室が完成し、生徒は十月十三日から使用することになった。

ビートルズ来日する

六月二十九日、ビートルズが来日した。翌日から三日間、日本武道館で行われた公演では、熱狂的なファンによる混乱を防ぐため警備は厳戒を極め、会場周辺は動員された警官とともに都内の高校教師が生徒指導のために並んだ。それでも捕縛された少年少女は六五〇〇人を超えたという。

混乱を予想した埼玉県警察は、六月二十七日県学務課を通じて「ビートルズの滞在や公演について、怠学・無断外泊・入場券の詐欺等事故のないように」生徒に徹底するように要請した。本校でも翌日、ホームルームを通じて生徒にその旨連絡した。
 なお、現在本校では外線電話の保留音の曲にビートルズの「レット・イット・ビー」が流されている。

7・8(金)期末考査(〜12日)

10(日)水泳部、少年刑務所プール開き
 に参加

20(水)終業式

21(木)水泳初心者講習会(〜25日)

8・1(月)一年、登校日

11(木)二年、登校日

20(土)三年、登校日

9・1(木)始業式

5(月)一、二年、実力考査

23(金)文化祭(〜25日)

10・9(日)第一九回体育祭

21(金)中間考査(〜25日)

27(木)新聞部、学校新聞コンクール知

事賞受賞

11・3(木)二年、修学旅行(〜7日)

12・10(土)期末考査(〜14日)

15(木)校内球技大会(〜16日)

20(火)校内駅伝大会

24(土)終業式

25(日)スキー教室(〜29日、戸狩スキ

1場)

1・9(月)始業式

2・3(金)三年、学年末考査(〜6日)

9(木)予餞会(柳亭痴茶)

3・1(水)入学志願者学力検査

10(金)第一九回卒業式

17(金)入学許可候補者説明会

24(金)終業式

一学期始業式が四日早まる。 「川高生に暖房は必要ない」。

十月二十四～二十六日に、臨時休業で全校生徒が埼玉国体を見学することにした。

そのため、二学期は例年より四日早く、八月二十八日に始業式を行った。体育祭も例年より一週間ほど早められ、九月二十九日に開催されたが、予選の日程がまったため選手に負担がかかったり、プログラムにも手落ちがあるなど準備不足が目立った。

体育祭で最高の人気をとる仮装行列は、演技制限時間三分で行われ、時間オーバーは失格となる。参加点の他、仮装、演技等の点数によって評価された。例年準備には一人あたり平均五〇円、多いクラスだと二〇〇円をかけている。この年の出し物は、「埼玉国体」(二クラス)や、「フーテン族」(二クラス)など世相を映したのもあったが、全体的には、一年生の仮装に未熟なものが多く、参加点のみのクラスが五クラ

スもあった。

体育祭の問題点もはっきりした。体育祭準備委員の多くが川越市内居住者や、学校に近い者、クラブ活動に不活発な者が推薦され、多数決で強制的に決められたり、立候補も被推薦者もないためホームルーム委員が引き受けたりしている。そのため、準備委員会の開催が不活発になり、クラスへの連絡も徹底しなかった。また、当日も一般種目の棄権者が目立ち、他校の文化祭等へ出かけてしまう者もあった。

新入生歓迎会

新入生歓迎会は四月十五日、体育館で弁論大会が実施され、講堂では演劇「光あれ」が上演された。また、五月六日、市民会館の川越女子高と合同の新入生歓迎音楽会は一二〇名の観客を集めた。第一、第



市民会館での卒業式

- 4・8(土) 始業式 入学式
- 15(土) 新入生歓迎会
- 28(金) 模擬試験 実力考査
- 5・6(土) 新入生歓迎音楽会(市民会館)
- 14(日) 同窓会総会
- 22(月) 中間考査(～25日)
- 28(日) 開校記念日
- 6・9(金) 第八回熊高交歓会
- 7・7(金) 期末考査(～11日)
- 18(火) 校内水泳大会
- 20(木) 終業式
- 8・1(火) 一年、登校日
- 11(金) 二年、登校日
- 21(月) 三年、登校日
- 28(月) 始業式
- 9・2(土) 一、二年、実力考査
- 18(月) 三年、模擬試験
- 23(土) 文化祭(～24日)
- 29(金) 第二〇回体育祭

日本▶四日市ぜんそく公害裁判。美濃部革新都政。グループサウンズ人気。佐藤首相、非核三原則を言明。
 世界▶第3次中東戦争。米、ベトナムで枯葉作戦。カシアス・クレイ徴兵拒否。チェ・ゲバラ、ボリビアに死す。

二部は川越高校と川越女子高の音楽部の合唱、第三部は川越女子高バトンの演技、第四部に箏曲クラブ、第五部は川越高校古典ギター部演奏、最後に、川越女子高マンダリンクラブの演奏と盛りだくさんな内容だった。

生徒の関心事の多様化

東京オリンピックを機に始められた校内美化「三ない運動」は、前年の一九六六年まで、人文科学部、JRC、新聞部などが推進の中心になっていた。内容は清掃徹底、教室に花を飾る、花壇を作る等と、様々であった。しかしこの年はほとんど話題にならなかった。かわって、熊高對抗戦の意義を問い、文化祭を考え直し、修学旅行本来の目的を考え、日本の安全保障を問う等生徒の関心は多様化してきている。「生徒会報」も約二〇ページにわたって、ベトナム戦争特集を掲載。生徒会は投票箱を設置し、「本部だより」を発行した。

「ストーブは設置せず」

生活環境の改善を目指して、一九六一年生徒会役員選挙で、熊本勝美(高14)は教

室に暖房設備を設置することを公約として生徒会長に立候補し、当選した。

当時定時制ではすでにストーブを使用していたので、共用の教室では定時制のものを借り、他の教室には一人三〇〇〜四〇〇円を徴収すれば資金は足りると考えた。しかし、学校側はことはそう簡単ではないと判断した。父母負担軽減ということで生徒からは徴収できない。PT会からの出資は無理だし、どのくらいの生徒が望んでいるかも不明であり、しかも管理上問題ありということと設置は見送られた。

六年後のこの年、ストーブ問題は再燃した。「川越高校新聞」では生徒の要求をもとに暖房設備の設置について再び学校側にたたしたが答えはノーであった。理由は、一、川越は全国的に見てあまり寒いところではない。

二、高校生にもなれば暖房は必要でない。
 三、本校は校舎の大半が木造で危険だ。
 というものであった(川高新聞)。

だが、職員会議の論議を経て、一九六九年には各教室に石油ストーブが備え付けられることになる。時代の趨勢であったといえよう。

- 10・14(土)「同和教育の手引き」学年に各3冊配布
- 22(日)埼玉国体開会式
- 24(火)バレーボール国体見学(市民体育館) 臨時休業
- 25(水)バレーボール、サッカー、野球、陸上、バスケットなど国体見学 臨時休業
- 26(木)バレー国体見学 臨時休業
- 27(金)国体閉会式
- 30(月)中間考査(10/2)
- 31(火)吉田茂国葬 午後休業
- 11・8(水)二年、修学旅行(12日)
- 12・9(土)期末考査(12日)
- 14(木)球技大会(18日)
- 19(火)校内駅伝大会
- 23(土)終業式
- 1・8(月)始業式
- 12(金)模擬試験(13日)
- 20(土)生徒会主催第一回公開討論会
- 2・2(金)三年、学年末考査(6日)
- 6(火)一、二年、実力考査
- 8(木)予餞会(立川談志)
- 16(金)大雪のため臨時休業
- 11(月)第二〇回卒業式
- 12(火)学年末考査(15日)
- 23(土)終業式

政治、社会問題への関心高まる。

前年から、生徒の関心が、生徒会を中心に政治、社会問題に向くようになった。

六月の熊谷高校との交歓会では、参加者が少なく、途中流会にはなったが、公開討論会「平和はいつくるか」を企画したり、十月には生徒会主催の討論会「高校生の自主活動について」が実施されたりした。

「川越高校新聞」は「黎明期の人民の歴史」「高校生の政治活動」を特集した。しかし、一方では川高新聞に学生運動への批判的な論調が現れたり、安保、自衛隊のあつかいに関して新聞部が赤化しているという投書が掲載されたりしている。

川高新聞では学校内の様々な問題を取り上げ、批判の目を向けている。文化祭に関しては、生徒会OBを招き宿泊させたことや、生徒会費、講演会学芸助成費などの「不適切な使用」が問題にされた。文化祭の

内容にも批判が加えられ、文化祭が「本来の姿失う」として、

一、研究内容が一夜づけ、書き写し。

二、説明のみで討論に発展しない。

等と批判している。また、校内美化運動についても一年間の空白を経て再び取り上げ、「川高生が歩く牛乳ビンに当たる」と、乱雑さを嘆いている。

熊谷高校との交歓会も、後始末がいかげんであることから、「美化運動の成果だいなし」と非難されたり、「無意味な年中行事」と批判され、生徒会主催で公開討論会「対熊谷高校戦を分析する」が開かれた。

向上賞は受験教育のゆがみとして見直され、賞状はともかく賞品を贈ることに問題があると批判された。これは、四年後に廃止される。成績優良者の発表、二年生の成績優良者が三年の模試に参加すること等も

4・8(月)入学式

26(金)三年、模擬試験

一、二年、実力考査

5・4(土)新入生歓迎演奏会

12(日)同窓会総会

23(木)中間考査(〜27日)

28(火)開校記念日

6・6(木)第九回対熊高交歓会

7・6(土)期末考査(〜10日)

20(土)終業式

8・1(木)一年、登校日

10(土)二年、登校日

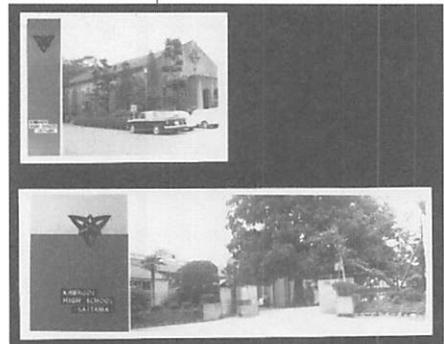
21(水)三年、登校日

9・2(月)始業式

7(土)一、二年、実力考査

10(火)校内水泳大会

17(火)三年、模擬試験



生徒会が販売した
スクールカード

日本▶東大紛争、日大紛争起こる。日本初の心臓移植手術。コント55号大人気。三億円強奪事件発生。
 世界▶ワルシャワ条約機構軍「プラハの春」を制圧。キング牧師、暗殺さる。ソニミ村大虐殺事件。

同じく批判の対象になった。

クラブの全員加入制や、「生徒心得」一三条「生徒は学校内または学校行事中に政治活動をしてはならない」が問題にされる等生徒会の改革を求める声もあがってきた。

生徒会、予算確保へ

前年度からの新入生定員削減のため、生徒会費による収入が減り、生徒会予算が削減された。クラブ活動費、本部運営費とも減少した。本部費用は交歓会費等一部を除いて、文化祭費用、「生徒会報」発行費、事業費は減らされた。この収入減を補うためであろうか、生徒会を通じて朝鮮舞踏団、早大オーケストラのチケット、スクールカードなどが販売された。

こうした動きは翌年の購買委員会の設立につながっていく。主にパン、牛乳の販売管理にあたり、利益を確保し、これを生徒会活動費とするもので、松山女子高校、熊谷高校の例を参考にしたものらしい。

クラス対抗駅伝中止

十二月二十日に予定されていたクラス対抗駅伝は雨のため中止になった。終業式ま

での日数が少ないために日程変更が不可能であり、コースが田舎道のために一度ぬかると回復するまで何日もかかるというのが理由であった。

駅伝は、一九六四年に一時中止され、五年に復活していたが、この年の中止をもって最後となった。翌年からはこれにかわって校内強歩大会が始められた。

大雪で期末考查順延

三月四日は大雪のため、二日に行われた入学志願者学力検査の採点事務にも支障があった。翌五日も交通機関がマヒしたため、一、二年生の欠席が九二名にも上った。おりしも国立一校の入試日にあたり、本校受験生も多大な影響を受けた。

なお、この年は東大、東京教育大などの入試が、前年の紛争のあおりを受けて中止された。

十二日も大雪のため、途中下校させ、学年末考查は順延された。この雪で化学実験室のガラスが三枚破損、くすの木の枝が数本おれ、渡り廊下の屋根がハメートルにわたって傾いた。翌十三日は遅刻者が多く、始業時間を三十分繰り下げた。

- 18 (水) スクールカードの販売、生徒会が扱う(大1000円、小500円)
- 21 (土) 文化祭(22日)
- 10・4 (金) 放課後生徒会討論会「高校生の自主的活動について」
- 9 (水) 第二回体育祭
- 22 (火) 中間考查(25日)
- 23 (水) 明治改元百年祝賀式典(午後休業)
- 30 (水) 向上賞(二年11名、三年12名)
- 11・1 (金) 三年、模擬試験(2日)
- 5 (火) 二年、修学旅行(10日)
- 12・11 (水) 期末考查(14日)
- 16 (月) 校内球技大会(18日)
- 19 (木) 校内駅伝 雨天のため中止
- 24 (火) 終業式
- 1・8 (水) 始業式
- 13 (月) 三年、模擬試験
- 2・3 (月) 三年、学年末考查(6日)
- 5 (水) 突風のため陸上部室兼体育物置が倒壊
- 14 (金) 予餞会(森山良子)
- 3・2 (日) 入学志願者学力検査(国鉄ストのため3・1より変更)
- 10 (月) 第二回卒業式
- 11 (火) 学年末考查(15日)
- 12 (水) 大雪のため下校(考查順延)
- 20 (木) 生徒総会
- 24 (月) 終業式

「生徒心得」が廃止され、 「生徒憲章・生徒規約」が成立。

前年度から課題となっていた「生徒心得」の再検討について、学校側は四月十八日、検討委員八名の教諭を選出し、検討作業に入った。五月二十三日、新たに準備委員会を設けた。同時に準備委員会への生徒の参加も決定した。職員側は検討委員八名がそのまま移行することとなった。

一方生徒側は、四月末から五月にかけて、討論会企画実行委員会主催による、「生徒心得」に関する討論会を開き、五月十九日の生徒総会で、「心得検討のための生徒総会を開く」と、「準備委員会に生徒の参加を要求すること」を決定していた。

六月三日に生徒総会が開催され、

- 1、服装、所持品、礼儀
- 2、校内外生活
- 3、掲示、印刷物発行配布

等に関する規定が問題にされた。引き続き、

六月九日と二十日に生徒総会が開かれたが、定足数に達せず流会になった。協議員会は総会開催のための生徒投票を実施、その結果、総会が最終案が提示されたとき開催することになった。

九月三日、生徒の要求を受け入れた「生徒心得再検討準備委員会」が、生徒二七名と職員八名の計三五名で発足した。準備委員会は、以後一三回開催され十月八日に最終報告案を完成した。同月十一日には最終案説明のHRが開かれた。

十一月二十五日に「生徒心得検討委員会」が発足した。委員は全員生徒で構成され、教師は助言のみ与えることになった。委員は各学年選出四名の計一二名と、全校選出八名の二〇名である。生徒会顧問とは別に、学校側の助言メンバーとして五名の教諭が選ばれた。検討委員会は二五回開催された。

- 4・1(火)第二〇代校長福岡鶴吉氏就任
- 8(火)始業式 入学式
- 18(金)生徒心得検討委員(職員)選出
- 26(土)新入生歓迎会
- 28(月)三年、模擬試験
- 一、二年、実力考査
- 30(水)討論会「生徒心得について」
(5/1、生徒会主催)
- 5・11(日)同窓会総会
- 23(金)中間考査(27日)
- 28(水)開校記念日
- 6・11(水)第一〇回熊高交歓会
- 28(土)松高・浦高・川高、三校対抗水泳大会(本校プール)
- 7・7(月)期末考査(10日)
- 14(月)校内球技大会(16日)
- 15(火)生徒心得検討準備委員会発足
- 19(土)終業式
- 8・1(金)一年、登校日
- 9(土)二年、登校日



日本▶東名高速道路全通。「男はつらいよ」第一作。学園紛争高校に波及。キャッシュカードの利用開始。
 世界▶アポロ11号月面着陸。中ソ国境紛争。アラファト PLO 議長に。ホー・チ・ミン死す。

一九七〇年二月十九日、生徒総会で検討委員会最終案が討議され、翌二十日、投票によって、「心得廃止、生徒憲章と生徒規約を設ける」ことが決まった。投票総数は八四四票で、賛成六七三票、反対一四九票、無効二〇票、棄権二票であった。

これを受けて二十六日、職員会議は「五項目の了解と期待」をつけ、承認した。

三月二十三日、生徒総会で職員会議五項目を付記することを承認し生徒憲章、生徒規約は成立した(資料編参照)。

七十周年記念行事中止

十月二十四日、職員会議で七十周年記念行事について討議され、生徒の意見聴取を行うことが決定した。十二月三日の特別HRに続き、翌四日には協議員会が開催され審議が行われた。結果は次の通りであった。記念行事 する二九 しない四 棄権四 式典 する八 しない三一 棄権三 生徒の意向は、記念行事内容に疑義はあったが、開催そのものに反対ではなかった。十二月十二日、職員会議は、生徒側の記念式典拒否を受け、七十周年記念行事検討委員を選出することを決定、同窓会、生徒

会、PT会の係をもつてあてておることにした。生徒側は十二月八日にHRで討議したあと、十二月十六日に協議員会を開催し、記念行事として①討論会 ②映画会 ③講演会を行うことに決定した。

しかし、一般生徒から疑義が出されたため、十二月二十日に再審議が行われ、二十二日に討論会を開くこととした。

十二月二十日に「全学闘争委員会」が校門に「七十周年記念事業に関する一切の行事、事業を中止せよ」等、六項目要求の看板を立て、三名の生徒がハリストを行った。二十二日の一、二限に各学年のクラスを集めた縦割り討論会、三、四限にクラス別のHRが開催された。午後から協議員会が開催され、「式典、行事、その他一切行わない」ことが決定され、翌二十三日の生徒総会で確認された。一九七〇年一月三十日、PT会、後援会から七十周年記念行事につき校長一任の報告があり、校長は式典行事の中止を決定した。

ただし、七十周年記念事業としての体育館兼講堂の新築は予定通りすすめられ、『七十周年記念誌』の発刊も教職員の努力により実現をみた。

- 21(木)三年、登校日
- 9・1(月)始業式
- 8(月)一、二年、実力考査
- 9(火)校内水泳大会
- 20(土)くすの木祭(21日)
- 10・9(木)第二回体育祭
- 11(土)生徒心得検討準備会最終案 各HR説明会
- 15(水)向上賞授与式
- 21(火)中間考査(24日)
- 11・5(水)二年、修学旅行(9日)
- 25(火)生徒心得検討委員会発足
- 12・1(月)教室ストープ本日よりはじめる
- 11(木)期末考査(15日)
- 19(金)校内強歩大会
- 24(水)終業式
- 1・8(木)始業式
- 2・3(火)三年、学年末考査(6日)
- 一、二年、実力考査
- 16(月)予餞会
- 26(木)職員会議 生徒憲章了承
- 3・2(月)入学志願者学力検査
- 10(火)第二回卒業式
- 11(水)学年末考査(14日)
- 23(月)生徒総会 生徒憲章成立
- 24(火)終業式

創立七十周年記念事業の 新体育館兼講堂完成。

赤レンガの初代講堂は一九三〇(昭和五)年の建設であるが、戦争末期には兵舎に転用され、破損が見られるようになった。一九五三年の校舎改築の際には、四室に仕切り、臨時教室として使用していた。さらに柔道場、剣道場、卓球場等にも使用され、傷みはいつそうひどくなっていた。それに加え、建設当時生徒定員五学年七〇〇名だったものが、一九六七年には三学年一五六〇名と二倍を超え、全校生徒の収容は不可能になった。

一九六七年二月、後援会長、PTA会長、定時制PTA会長、定時制教育振興会長、学校長連署で県議会へ体育館兼講堂建設の請願を行い、同月採択された。翌年三月、定例会会で予算七三〇万円、一九六八、六九年度継続事業として決定された。

一九六八年六月十八日のPTA会・後援会

理事会で翌年の創立七十周年にあわせ、記念事業として推進することを決定した。同月二十六日には、同窓会も加わり本校創立七十周年記念事業推進委員会(委員長、染谷清四郎後援会長)が結成された。

建設規模は二階建、建坪一五〇四平方メートルに決定した。そのほか、正門改修等を含む七十周年記念事業の地元負担金は六〇〇〇万円を超え、後援会で四八〇〇万円、残りを同窓会の募金で負担することとした。

一九六九年四月三日より講堂を解体、五月十日に着工した。翌年三月十六日実施予定の七十周年記念式典の会場にしたいという当初の予定からだいぶ遅れて、竣工式は一九七〇年五月三十日に行われた。

記念事業の一環の正門改修も、同年十二月に完了した。県費支出が認められ、総工費一〇三万四五〇円であった。創立以来四



重層の新体育館兼講堂

- 4・8(水)始業式 入学式
- 25(土)新入生歓迎会
- 5・10(日)同窓会総会
- 14(木)遠足
- 23(土)中間考査(～27日)
- 28(木)開校記念日
- 30(土)体育館竣工式
- 6・9(火)生徒会主催討論会「実力考査を
考えよつ」
- 12(金)球技大会(～13日)

日本▶「よど号」ハイジャック。光化学スモッグ発生。三島由紀夫、市谷自衛隊で自決。日本万国博開催。
 世界▶ビートルズ解散。アラブゲリラ連続ハイジャック。エジプト、アスワンハイダム完成。

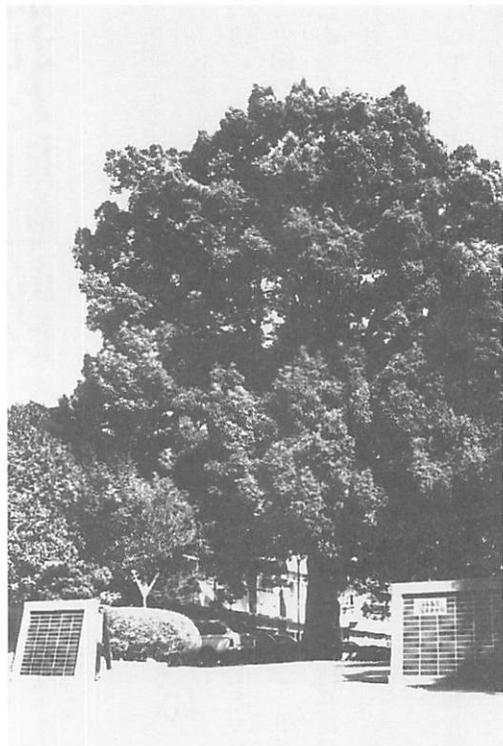
回目の改修であり、数えて五代目にあたる。それまでの縦の門柱形式から、横長コンクリート板形式に変わった。

混乱した生徒会選挙

この年の生徒会役員選挙は混乱した。

十月十九日に協議委員会を開催し、選挙管理委員を選出。二十日公示、二十七日立候補締め切りとしたが、中間試験と重なっていたため生徒の関心も低く、日程を延長し、かつ立候補者をクラスに割り当てざるを得なかった。それでも二十九日には締め切り、三十一日に立会演説会を開き、十一月二日に巡回投票が行われた。

ところが、選出されたばかりの副会長の一人が十一月五日からの修学旅行中に事故で死亡。後任の副会長選出をめぐり、本部側と協議委員会は、副会長席を空席にすることを主張し



コンクリート板形式タイル張りの第5代正門

たが、審査委員会が異議を唱えた。討議の結果、協議委員会で補充選挙を行うことが決定され、一か月たった十二月五日に立候補者に対する信任投票が行われた。

くすの木祭にクラス参加

十月三、四日のくすの木祭には、「クラス参加」と「他校招待」があった。

クラス参加については、文化部の展示発表の停滞を破るものとして、数年前から検討されていたものであった。文化部の中には部の活動が停滞するとの懸念から、反対する者もあった。

- 15 月 実力考査
- 23 火 放課後本校生徒ら約二二〇名が校内で集会後、市内デモへ
- 7・7 火 期末考査(〜10日)
- 20 月 終業式
- 8・1 土 一年、登校日
- 13 木 二年、登校日
- 21 金 三年、登校日
- 9・1 火 始業式
- 10・3 土 くすの木祭(〜4日)
- 10 土 第二三回体育祭
- 23 金 中間考査(〜27日)
- 11・2 月 向上賞授与式
- 5 木 二年、修学旅行(〜9日)
- 7 土 生徒、ホテル佐野にて転落死
- 8 日 修学旅行を中止し帰校
- 12 木 三年、実力考査(〜13日)
- 13 金 一、二年、実力考査
- 12・14 月 期末考査(〜17日)
- 22 火 演劇鑑賞「罪と罰」(体育館)
- 24 木 終業式
- 1・8 金 始業式
- 2・1 月 三年、学年末考査(〜4日)
- 10 水 予餞会(小室等と六文銭)
- 3・1 月 入学志願者学力検査
- 10 水 第二三回卒業式
- 15 月 学年末考査(〜18日)
- 24 水 終業式

学園紛争に揺れた川越高校

一九六八(昭和四三)年に全国の大学で吹き荒れた大学紛争は翌年には高校にも飛び火し、埼玉県内でも川越高校の他に、多くの学校で学園紛争が展開された。生徒の具体的な主張内容に学校による違いはあるが、受験体制の粉砕を叫び、既存の学校秩序の洗い直しを求めるものであった。

川越高校では一九六七、六八年ころからベトナム反戦運動や川高の受験体制批判運動を行う生徒の姿が散見されるようになった。そして六九年の春には卒業式の改革や、生徒心得改正を生徒自身のものにするよう訴える動きが現れた。これらは一部生徒の動きであるが、やがて戦後の川越高校の一大変革につながる学園紛争につながって行くのである。

川越高校で六九年に展開された動きは、基本的に生徒心得改正、七十周年記念行事に関する諸問題、授業検討の三つとしてとらえることができる(本誌206頁参照)。ここでは、いくつかの出来事に表れる生徒の動きと、生徒会、教員の対応を整理しながら、当時の高校生や先生方の思いを伝えたい。

「六項目要求」への対応

七十周年記念行事をどうするかが生徒の中で議論されていた十二月二十日(土)、川高全学闘争委員会を名乗る生徒二名が校長に対して「六項目要求」の交渉を求めた。「六項目要求」とは次の通りである。

- 一、七十周年記念に関する一切の行事事業を中止せよ。
- 二、形式的卒業式を廃止せよ。
- 三、ペーパーテストを撤廃せよ。
- 四、通知表等による評価を撤廃せよ。
- 五、(高校生の政治活動を制約する) 文部省指導手引書・文部省見解に抗議せよ。
- 六、以上を全校集会の場において確認するまで授業を中止せよ。

校長は教頭ほか二名の教師の立ち会いのもとで、全闘委生徒二名との交渉に応じた。生徒が第六項目の即時授業中止・全校集会開催を求めたので、校長は「全学闘争委員会という一部生徒の代表から出された要求で全校集会を開くことはできない。要求は生徒会組織

を通すべきである」と答え、交渉を打ち切った。その直後、全闘委二名の生徒が校長室前に座り込み、ハンストに突入したのである。

担任教師の中止の説得にもかかわらず、ハンストは翌日曜日を経て月曜日も続けられた。生徒会では二十二日(月)に、七十周年行事について協議会やクラス討論を企画していた。この日、校長は「全校生徒の諸君へ」と題して事態の経緯を説明するプリントを配布。生徒に冷静なる対処を求めた。

同日、生徒会本部も「六項目要求」に対する見解を発表。全闘委の問題提起を評価するものの、それを大衆団交的な全学集会で解決するという方法には疑問を示した。だが生徒総会の開催を会長職権で行うことを決め、それが協議員会で可決されたので二十二日午後、ハンストは中止された。

年が明けて一九七〇年一月、学校側も一五に関して検討して「見解」を発表した。卒業式については、前年までであった生徒表彰や来賓祝辞をやめることにした。

生徒の「自由」をどう認めるか

生徒心得改正に関して、生徒の検討委員会の原案が次第に明らかになる中で、それについて一九六九年十二月から職員会議でも議論

されるようになった。

生徒は学校生活上のルールを決めたものと、服装や政治活動の自由等を盛り込んだ「権利宣言」の二部構成にしようと考えた。これに対して二部構成はともかくとして、政治活動の自由を認めると外部の政治的争いが校内に持ち込まれはしないか、さまざまな自由を認めるにあたっての条件の文言をどのように入れるか意見が交錯した。これらについて議論した職員会議は一〇回を数える。結局、二月二十六日、生徒原案をそのまま認めて、学校側の期待や管理権を明記した文言を付記することで職員会議の結論を得た。

三月十六日、十八日、生徒代表と職員との間で、付帯事項をめぐって息詰まる話し合いがもたれた。生徒代表には納得しがたい点もあったが、三月二十三日の生徒総会で付帯事項をつけた「生徒憲章」及び「生徒規約」は承認された。まさに関係する職員、生徒の血のじむような努力の産物だった。

六・二一ロックアウト事件

日米安保条約の自動延長を二日後に控えた一九七〇年六月二十一日(日)に反安保集会の開催が企画され、事前に集會届が学校に提出されたが、職員会議で審議の結果認められ

なかった。理由は他校生の存在が想定されたためと思われる。だが、学校側は、この集会の強行を警戒。当日午後、校門を閉めて職員二〇名ほどをその付近に配置することにした。

午後二時ごろから校門の外に他校生も含んだ集会グループ四〇数名が押し寄せ、中に入る入れないで職員と押し問答をしていた。その間、部活動で来校した生徒は校門脇の土手を越えて自由に校内に入入りしていた。それを見た集会者はいよいよ突入を強行。ヘルメット覆面の者四三名が教員を押しつけ、土手を乗り越えて校内に入りこんだ。その後校内デモ、集会を開いた後、一時間ほどして市内デモに移った。この時学校の外には機動隊が待機していた。

これがいわゆる「六・二一ロックアウト事件」である。この事件の顛末をめぐっては、その後思わぬ事態が発生する。警察当局が、「不法侵入」事件として捜査に乗り出し、関係生徒を事情聴取で呼び出していることが発覚したのである。これに対して学校側は、二十一日のことについてはあくまで教員と生徒との関係で対処すべき問題である旨の文書を作成し、職員の署名を集めて捜査の中止を警察に申し入れた。

学生運動がさかんな時代である。学校内で

生徒の自由な活動をめぐって、教員は生徒との厳しい対応を迫られる一方で、公安当局からは活動家生徒を守らなければならなかった。

「一九七〇年」の高校生

一九六九年から七〇年にかけて、川越高校は大きく揺れた。その中で真剣に議論され、決められたことが今日つながっている。

では当時の川高生がさまざまな問題にすべて真剣に取り組んでいたかといえは、必ずしもそうではない。生徒心得検討委員の選出はあみだくじで決められたし、生徒総会は定数不足で何回も流会した。多くの団体のピラが配られたが、活動家生徒の言葉は、一般の生徒の聞き入れるところでもなかった。

それでも例えば、活動家でもない生徒が「沖繩」の集会に足を運び、また、六月二十三日の反安保集会(これは校内生のみだったので認められた)には一二〇名の生徒が参加くすの木の下で集会を開いた後、シユプレヒコールをあげながら市内をデモ行進。川越駅前で川越工業高校をはじめとする市内他校の生徒と一緒に、ギター伴奏で「友よ」を合唱して散会した。

「七〇年」前後はそういう時代だった。

生徒自治「形骸化」の危機。

「生徒憲章」成立後の一九七〇年三月に、
掲示印刷物管理委員会の設置が、協議員会
によって決められた。委員会は生徒会規約

第七条により、掲示物に許可印を押し、掲
示責任者氏名および団体名、掲示場所、期
間を記録する任務をもっていた。前年度新
学期に委員を募集したが応募者が一人もな
く、各クラスから委員候補を選出しその互
選によって、六月によくやく各学年二名、
計六名の委員が選ばれた。

毎日交代で昼休みに、一人ずつ生徒会室
につめることになっていたが、ほとんど守
られなかった。委員が不在のため無断で印
を押し帳簿に記録するようなこともあり、
そうした不正な掲示物を委員がはがして歩
くこともあった。また許可印のないものが
掲示されたり、正式に許可されたものがは
がされたりもしている。この年四月に協議

員会で対策が協議されたが具体策はなく、
「掲示管理委員会に関する小委員会」を設
け、検討することになった。

五月に委員会の謝罪文が掲示された。
こうした状況について、川高新聞は「生
徒憲章の発足一年にして、生徒自治の形骸
化がみられる」と憂えている。

全学年遠足始まる

四月三十日、全学年遠足が実施された。

クラス別行動で、一年の半数近くと三年の
一部が堂平山へ、一、二年の数クラスが伊
豆ヶ岳、子の権現へ、他は鎌北湖、黒山方
面を選択した。

これまで一九六九年二学期、二年生の修
学旅行期間中に一、三年が遠足を実施した
ことがあったが、翌年は、一年のみだった。
その結果、一九七一年以降一年の二学期

生徒会役員決定

破局からの復興を

どうする「脱生徒会」
磯野・小倉・渡辺の新





磯野 会長
小倉 副会長
渡辺 副会長

川高新聞社 発行
〒550 大阪市東区東船場2-1-1
電話 554-1111

BOOK 太

「川越高校新聞」第100号。題字が現在と違う

- 4・1(木)第二代校長山村良夫氏就任
- 8(木)始業式 入学式
- 24(土)新入生歓迎会(5/1にも)
- 30(金)全学年遠足
- 5・9(日)同窓会総会
- 17(月)全校強歩大会
- 24(月)中間考査(〜27日)
- 28(金)開校記念日
- 6・8(火)実力考査
- 7・9(金)期末考査(〜13日)
- 20(火)終業式

日本▶ドル・ショック。環境庁発足。マクドナルド日本1号店開店。隼石で全日空機、自衛隊機と衝突。
 世界▶バングラデシュ独立宣言。金・ドル交換一時停止。中国、国連加盟。中国、林彪クーデターに失敗。

の遠足は存続したため、一年は年二回遠足を実施することとなった。

生徒会、選挙規定を作成

十月十九日の立会演説会で推薦者の資格をめぐって混乱が起き、選挙規定を作ることになった。そこで、選挙規定原案作成委員会が結成され、公職選挙法を参考にして、全一二章からなる原案を作成、十一月に協議員会にはかられて成立した。

「川越高校新聞」100号発刊

一九五〇年七月に創刊された川高新聞は十二月二十三日付で一〇〇号を達成した。特集記事では一〇〇号を振り返り、「学校の新聞の病理」と題する一教諭の署名記事をあえて掲載している。その記事を要約し紹介しよう。記事は「川越高校新聞」を三つの時期に区分して論じている。

①一九六一年ころまで

学芸欄、就職状況、受験講座、先輩の大字だよりなど、取材対象が広く、執筆者も多くて紙面がにぎやかであった。「言いたい聞きたい」欄への投書や質問とそれへの反論、回答も取り上げられている。校内の

生活は、暴力行為はほとんどなくなったが、「生徒心得」にある常識的な礼儀さえ忘れられている様子が、座談会記事によってうかがわれる。

②一九六二―六七ころ

新聞部員による無記名記事が増えて、外部からの寄稿原稿が少なくなった。

長髪、生徒会の沈滞、校風再検討などが問題にされ、新たなモラルへの模索も見られるが具体策は見えない。こうした中で、

校内問題ではなく、社会、政治問題の記事が増加し、新聞部員の研究、主張を載せる部報に近くなってくる。

③一九六八年以降

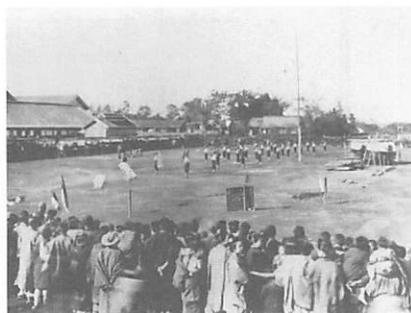
川高新聞の傾向の変化への批判に対して、政治的中立、校内問題重視を公約としてから後も、実際には報道と主張が区別されなくなる。抽象的観念的文章、感情的主張が目立ち、資料選択や引用にもやや客観性を欠く面が見られてきた。

以上、三つの時期を要約した後、川高新聞を「病んでいる」ととらえ、寄稿者、執筆者を発掘し新企画を開発すべきこと、公器としての新聞が川越高校とともにあることを祈り、新たな決意をうながしている。

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 21 (水) 自主セミナー実施 | 10 (金) 第一回総合体育大会(二日目は雨天のため13日に) |
| 8・11 (水) 一、二年、登校日 | 8 (金) 中間考査(〜26日) |
| 21 (土) 三年登校日 | 30 (土) 向上賞授与式 |
| 9・1 (水) 始業式 | 11・2 (火) 二年、修学旅行(〜6日) |
| 10 (金) 校内水泳大会 | 5 (金) 一年、遠足 |
| 10・2 (土) くすの木祭(〜3日) | 10 (水) 三年、実力考査 |
| 10 (木) 雪のため午前中で授業打ち切り | 11 (木) 実力考査 |
| 14 (月) 予餞会(吉田拓郎・泉谷しげる) | 12 (水) 期末考査(〜18日) |
| 3・1 (水) 入学志願者学力検査 | 24 (金) 終業式 |
| 10 (金) 第二四回卒業式 | 27 (月) 草津スキー場へ友人と出かけた一年生二名ガス中毒死 |
| 13 (月) 学年末考査(〜16日) | 1・8 (土) 始業式 |
| 24 (金) 終業式 | 17 (月) 三年、実力考査(〜18日) |
| | 2・1 (火) 三年、学年末考査(〜4日) |
| | 一、二年、実力考査 |



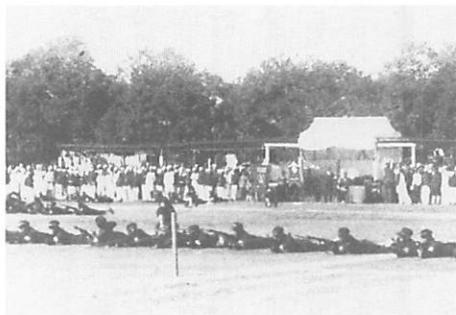
名物となった仮装行列(1918)



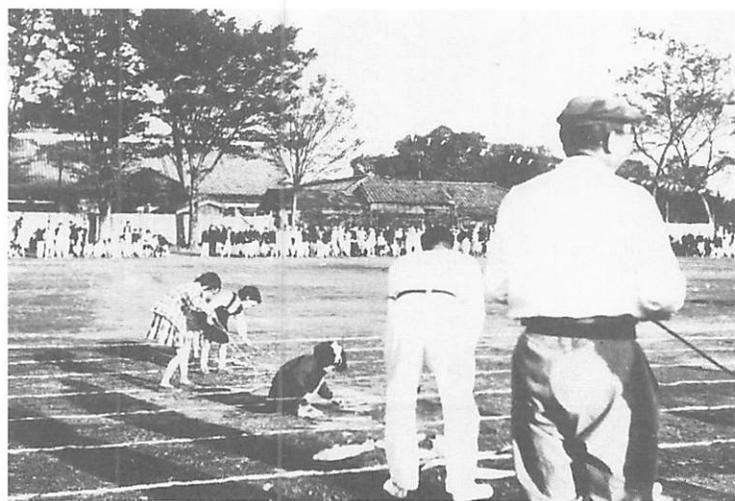
開校当初より地元の観客を集めた(1902)



職員による自転車遅乗り競争(1949)



運動会で模擬戦が披露された(1935年頃)



運動会に招待された子供達の競技(1949年頃)



一等賞のバッジ(1948)



オッ! 女子高生もやってきた(1958)

運動会・体育祭

戦前の運動会は地域の一大行事であり、多くの観衆を集めた。競技種目には国防競技、模擬戦など、軍事色を反映したものも見られる。戦後は、子供達の参加もあるなど、楽しいイベントとなった。その中で、明治時代から続けられた仮装行列は呼び物の一つであった。うだが、一九七一年に陸上競技大会となつてからは競技種目を中心となり、騎馬戦だけがかつての体育祭の雰囲気を与えている。



仮装行列。ここまでやるか！（1963）



時代を反映する仮装行列の数々。女装は定番



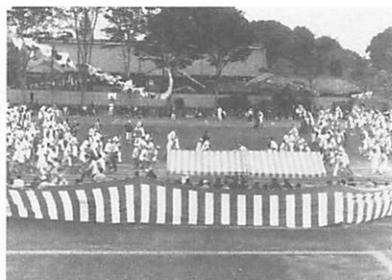
川越女子高バトン部の参加もあった（1969）



各クラスの応援合戦もさかん（1968）



今は川越総合運動公園で行われる陸上競技大会（1996）



横断幕と万国旗の下での騎馬戦（1963）

「市内七高校の交流」をめぐる。

四月二十二日、恒例の新生歓迎会が川越女子高校と合同で開催された。静粛を保つため例年と違い、新入生のみのもので行われた。

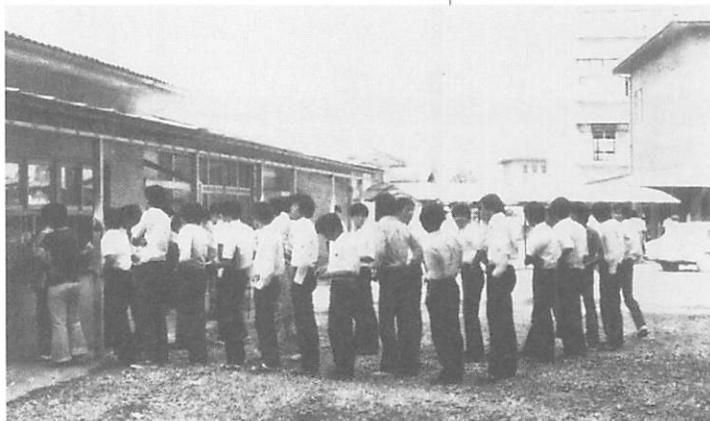
この合同新生歓迎会は三年前に始まったものである。

第一回目は一九六九年四月二十六日、午後一時から、川越市民会館を会場に行われた。川越高校校長、川越女子高校校長代理、両校生徒会会長のあいさつの後、二部にわたって実施された。一部は川高音楽部、女子高バトン部と箏曲部、川高弁論部による落語など、二部は川高古典ギター部、女子高マンドリン部、両校吹奏楽部が出演した。

第二回は一九七〇年四月二十四日、五月一日の二日間にわたって同じく川越市民会館で行われた。

一九七一年、第三回目を迎えると、一部に批判が出た。なぜ川越女子高とやるのか、他の高校が川越市内にも五つあるのに、というのである。この批判は、市内七高校生徒会連合会結成の動きと関係している。これは、女子高と川越工高の提案をもとに、川越高校も参加した動きであった。川越農高、川越商高、星野女子高校、山村女子高校の四校は参加していなかったが、合同新生歓迎会や文化祭のテントと暗幕の貸し借りなどをやろうというものである。十月に発足した新生徒会本部は、新生歓迎会を川越高校、川越女子高校、川越工高の主催で、市内の他の四校の新入生も招待して行うことを検討した。また生徒会連合会に關しては、連絡会議を四回開いたが成立は難しい状態であった。

この年の歓迎会は、川越商高、川越農高



このころ、校舎西側の食堂前に、いつも生徒の列ができた

4・8(土)始業式 入学式

22(土)新生歓迎会

27(木)交通ストで五五二名欠席

5・2(火)全校遠足

14(日)同窓会総会

24(水)中間テスト(27日)

6・2(金)強歩大会

7・10(月)期末考査(13日)

20(木)終業式

日本▶横井元軍曹帰還。札幌冬季五輪。沖縄返還さる。浅間山荘事件。高松塚古墳で壁画発見。日中国交回復。
 世界▶ニクソン訪中、米中関係正常化。ウォーターゲート事件発覚。セイロン、スリランカ共和国と改称。

山村女子高校、星野女子高校の四校で学校側が開催に難色を示したため、川越工高、女子高校、本校の三校での開催をめざした。しかし、三校による開催案も女子高が工業高校との共催に反対したためつぶれてしまった。女子高は本校との共催を申し込んだ。女子高とだけの開催には反対だった本部も、協議委員会の決定で、例年通り二校で開催することになった。生徒会本部は新入生歓迎会などのほかにも交流を広げたい意向をもっていったが、一般の関心はいまひとつ、もり上がりに欠けていた。

クラブやクラス単位の交流は、ほとんど女子高との間で行われており、そのことへの反省も見られるようになった。また一年生のみ参加については、本来の歓迎会ではなく、望ましいものでないという反省もあり、合同開催も必要でないという声もあるようになった。

新入生歓迎会合同開催は一九七三年度の第五回をもって廃止された。

熊高対抗戦、復活せず

この年の秋、一九六九年に第十回をもって終了していた対抗戦を復活したいという

提案が熊谷高校生徒会からあった。それを受けて本校は協議委員会で検討し、さらに各クラス一名の実行委員を選出して、受け入れ態勢を整えていた。しかし翌年の二月に熊谷高校から連絡があり、白紙に戻された。熊高側は、生徒会本部の意向だけで動き規約上必要な生徒総会にかけていなかったのであった。結局、熊高の生徒総会では、「現在行っている熊谷女子高との交流会で十分だ」「復活させても以前のように、マネリ化するのがおちだ」などを理由に本部案が否決された、とのことであった。



服装自由化後の登校風景。私服の生徒もちらほら見える

- 21 (金) 自主ゼミ実施
- 8・1 (火) 一年、登校日
- 11 (金) 二年、登校日
- 21 (月) 三年、登校日
- 9・1 (金) 始業式
- 13 (水) 校内水泳大会
- 10・3 (火) 総合体育大会(〜4日)
- 7 (土) くすの木祭(〜8日)
- 20 (金) 中間考査(〜24日)
- 30 (月) 一〜三年、実力考査
- 31 (火) 三年、実力考査
- 11・6 (月) 二年、修学旅行(〜11日)
- 9 (木) 一年、遠足(上野公園)
- 12・13 (水) 期末考査(〜16日)
- 23 (土) 終業式
- 1・8 (月) 始業式
- 17 (水) 三年、実力考査(〜18日)
- 22 (月) 熊高生徒会関係者来校(交歓会について)
- 2・1 (木) 一、二年、実力考査
- 三年、学年末考査(〜5日)
- 7 (水) 予餞会(リリー、ザ・シャデラックス)
- 24 (土) 熊高との交歓会、白紙に戻す
- 3・1 (木) 入学志願者学力検査
- 10 (土) 第二回卒業式
- 13 (火) 学年末考査(〜16日)
- 24 (土) 終業式

新校舎着工、「超新館」が出現。

埼玉県では、一九七二（昭和四六）年度より、県立高校の木造老朽校舎をすべて鉄筋化する計画がすすめられてきた。本校についても、一九五二（昭和二七）年に建てられた木造モルタル校舎の老朽化が激しく、一九七二、七三年度の継続事業として、鉄筋校舎の第一期工事一二教室分を建設することが予算化された。

工事は、前年度末に着工され、この年の十一月に竣工した。工費は六七〇〇万円であった。一部計画を変更し各階二教室の鉄筋コンクリート五階建という、マッチ箱を立てたような建物が出現した。しかし、アルミサッシの窓を使った教室は採光もよく、旧校舎に比べ大変快適なものであった。生徒には「超新館」と呼ばれ、親しまれた。

この後、第三期工事の終わる一九七八（昭和五三）年三月まで、五年の歳月をかけた増築が行われ、長さ七五ぶに及ぶ五階建（一部三階）鉄筋コンクリート建築の本館校舎が完成するのである。

さらに、一九七九年二月には第四期工事が着工された。これは本館と理科棟の間にある木造校舎と通路を取り壊し、会議室、視聴覚教室および書道教室からなる三階建の特別教室棟と、同じく三階建の下足棟と通路の建設である。新校舎は八十周年記念式典を控えた十一月には完成し、「谷間の新館」と愛称された。

こうして、足かけ八年、総額約四億八〇〇〇万円に達する木造校舎の鉄筋化工事が終了するのである。

広報「かわたか」創刊さる

十二月二十日、本校PT会の広報誌「かわたか」が創刊された。



マッチ箱を立てたような「超新館」

- 4・1（日）第二代校長萩原辰之助氏就任
- 9（月）始業式 入学式
- 10（火）対面式
- 21（土）新入生歓迎会（市民会館）
- 27（金）交通ストのため臨時休校
- 28（土）新入生歓迎会（映画の部）
- 5・2（水）遠足
- 13（日）同窓会総会
- 22（火）PT会、後援会総会
- 23（水）中間考査（～26日）
- 28（月）開校記念日
- 6・5（火）強歩大会
- 8（金）二、三年、実力考査
- 7・4（水）風邪による欠席調査
- 5（木）1D流感のため早退させ消毒薬施 教室を閉鎖
- 10（火）期末考査（～13日）
- 20（金）終業式
- 8・1（水）一年、登校日

日本▶円の変動相場制移行。金大中事件。第1次オイルショック。物価暴騰。Gスタンド日曜祝日休業。
 世界▶東西ドイツ、国連加盟。第4次中東戦争。チリ軍事クーデター、アジェンデ大統領死す。ピカソ死す。

創刊号の記事「広報発刊まで」で、初代広報委員長関口喜子さんが発刊のいきさつを次のように語っている。

「六月十五日の本年度初の常任理事会で会長さん（渋谷幸雄PT会長）から、ぜひ発刊してほしいとの発言があり、私も小中学校で少々経験しておりましたので、即日広報委員長を命ぜられ……」

その後、四名の広報委員を（会合も多いことから川越市内に住む会員から）選出し、十一月二十二日に第一回の広報委員会が開かれた。予算のないなかでの発刊で、わら半紙刷りB5判四ページの手作りであった。しかし、企画、割付けなどは後の手本になる堂々たるもので、広報委員の意気込みが伝わってくる創刊号である。

三月五日に第二号を発刊して、初代広報委員は役目を終えた（多くが次年度も広報委員に留任）。翌年度の第二号からは、予算もつき現在と変わらぬ写真入りのものとなった。その後、代々の広報委員の手



1973年12月20日付広報「かわたか」創刊号

によって現在までに九二号が発刊され、PT会の活動ならびに学校の教育活動を広く会員に伝える役目を果たしている。

初代広報委員の顔ぶれは、次の通りであった。

- 委員長 関口喜子
 委員 武石美津 長岡嘉子 小野昌
 子 井上良吉
 担当職員 田中啓彦 増田 寧

流感のため学級閉鎖

一年D組が、七月六日（金）、七日（土）の二日にわたって流感のため学級閉鎖となった。

同クラスは六月三十日（土）から欠席者が増え始め、七月二日（月）七名、三日一〇名、四日八名、五日八名の欠席であった。やむなく、五日は登校した生徒を早退させ、教室の消毒を行うとともに閉鎖した。そして翌日より二日間（日曜日をはさむので実質三日間）の学級閉鎖を実施したのである。その効あつてか、九日（月）の欠席者は二名、十日（火）からはゼロとなった。

それにしても、真夏に流感による学級閉鎖とは、珍しい事態になったものである。

- 8 (水) 庭球部全国大会出場
- 21 (火) 二年、登校日
- 28 (火) 三年、登校日
- 9・1 (土) 始業式
- 6 (木) 校内水泳大会
- 7 (金) 県教委へ校舎改築工事促進の陳情 (PT会長、後援会長、学校長)
- 15 (土) くすのき祭 (16日)
- 22 (土) JRC 献血 一三三名
- 23 (日) 旺文社模試実施 三二〇名
- 10・3 (水) 総合体育大会 (4日)
- 22 (月) 中間考査 (25日)
- 11・1 (木) 一〜三年、実力考査
- 2 (金) 三年、実力考査
- 16 (金) 一年、遠足 (上野動物園)
- 二年、修学旅行 (20日)
- 12・6 (木) 職員室、教室の移動 (新校舎完成により)
- 12 (水) 期末考査 (15日)
- 24 (月) 終業式
- 1・8 (火) 始業式
- 12 (土) 三年、実力考査 (14日)
- 2・1 (金) 三年、学年末考査 (5日)
- 7 (木) 予餞会 (東京混成合唱団)
- 3・2 (土) 入学志願者学力検査
- 9 (土) 第二六回卒業式
- 12 (火) 学年末考査 (15日)
- 23 (土) 終業式

長年の夢、生徒ホールが完成。 予餞会から誕生したスターたち。

十月末、プール北側の木造校舎の東半分が取り壊され、生徒ホール建設のための基礎工事が始まった。

生徒ホールの建設は、合宿や集会のための施設として、生徒の長い間の念願であった。この年で、後援会の体育館建設のための銀行借入金の返済が完了することもあるが、着工に踏み切ったものである。

折から、教育費の父母負担の軽減が叫ばれていた時期でもあったが、生徒の長年の希望をかなえるための決断であった。

建設にあたっては、「生徒集会所建設委員会」が設置され、より良い「生徒集会所」の建設をめざして頻りに委員会がもたれた。七月二日には、委員の教師二名と生徒二名が、行田女子、熊谷農業、熊谷の各高校を視察している。

工事は三月に終了し、鉄骨造二階建（一

階ホール、二階宿泊室）、総床面積四三七・六平方メートルの生徒ホールが完成した。総工費は四〇〇〇万円であった。

くすのき祭で爆弾騒ぎ

九月十五日、十六日とくすのき祭が行われた。この年は、前年までと違って市民会館を借りずに本校だけを会場としての開催であった。催し物の中では、柔道部の「お化け屋敷」、有志参加による「川高のれん街」などが人気を集めていた。

十六日の午後三時二十五分、くすのき祭の終了間近になって「校舎に爆弾を仕掛けた、十分後に爆発する」という電話が入った。悪質ないたずらと思われたが、万が一を考えて全員を校庭に避難させた。しかし、その後何事も起こらず、そのまま校庭で後夜祭へと移った。キャンプファイヤーを囲



長い間の念願であった生徒ホール

- 4・8(月) 始業式 入学式
- 11(木) 交通ストのため臨時休校
- 12(金) 交通ストのため臨時休校
- 27(土) 新入生歓迎会(市民会館)
- 5・2(木) 全校遠足
- 4(土) 新入生歓迎会(市民会館)
- 12(日) 同窓会総会
- 21(火) P.T会、後援会総会
- 23(木) 中間考査(27日)
- 28(火) 開校記念日
- 29(水) 講演会 打木村治(中20)「母校の思い出と私の文学」
- 6・3(月) 強歩大会
- 12(水) 二、三年、実力考査
- 7・2(火) 生徒集会所建設委員会教員二名、生徒二名熊谷高校等を視察
- 9(火) 期末考査(12日)
- 15(月) 生徒集会所建設委員会
- 20(土) 終業式

日本▶小野田元少尉ルパン島より帰国。狂乱物価。三菱重工ビル爆破。長嶋茂雄現役引退。超能力ブーム。
 世界▶始皇帝陵の兵馬俑発掘。エチオピア皇帝ハイレ・セラシエ退位。ニクソン大統領ウォーターゲート事件で辞任。



校庭に避難した人々

んでのフォークダンスで盛り上がる中、第二七回くすのき祭は無事幕を閉じた。

荒井由実来たる

二月五日に、予餞会が市民会館で行われた。午前の部は吹奏楽部を中心に本校生徒によって進められ、午後は、荒井由実(後の松任谷由実)のコンサートであった。

演奏は「紙飛行機」をはじめ二〇曲におよんだ。曲の合間にはジョークを交えた楽しいおしゃべりが入り、二時間近くに及ぶコンサートはあっという間に終了した。

本校の予餞会に呼ばれたタレントは、そ

の後人気が出るらしい。以下に、一九七〇年度から十五年間のゲストを順に紹介しておこう。

一九七〇年度は小室等と六文銭。以下、吉田拓郎と泉谷しげる、ザ・シャデラックス、東京混声合唱団、荒井由実、やまがたすみこ、中島みゆきと菊池ひろこ、高木麻早、尾崎亜美、沢田聖子、久保田早紀、石川ひとみ、秋元奈緒美と逆瀬川奈津子、白井貴子、山本コウタローとなる。後ではとても呼べないような人物に早々と目をつけるころは、本校生もなかなかのものである。

予餞会行なわる

荒井由実を迎えて

予餞会とは、本校の卒業生が、母校に別れを告げるために、卒業前に行なわれる行事である。この予餞会には、本校の吹奏楽部を中心に、本校生徒によって進められ、午後は、荒井由実(後の松任谷由実)のコンサートであった。演奏は「紙飛行機」をはじめ二〇曲におよんだ。曲の合間にはジョークを交えた楽しいおしゃべりが入り、二時間近くに及ぶコンサートはあっという間に終了した。本校の予餞会に呼ばれたタレントは、その後人気が出るらしい。以下に、一九七〇年度から十五年間のゲストを順に紹介しておこう。



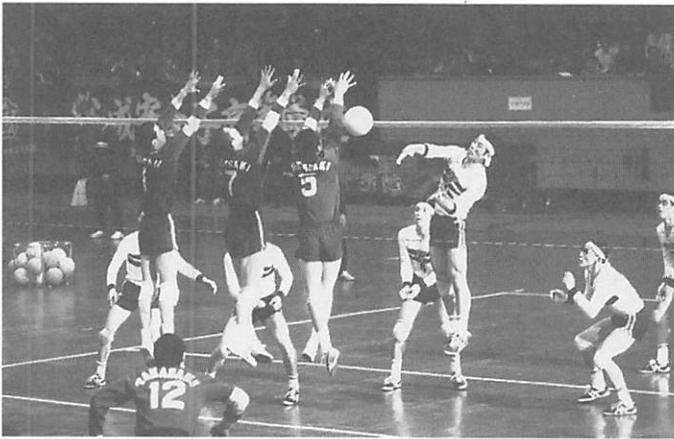
荒井由実(松任谷由実)の出演を伝える「川越高校新聞」

- 31(水)一年、登校日
- 8・10(土)二年、登校日
- 21(水)三年、登校日
- 9・2(月)始業式
- 6(金)除算
- 11(水)校内水泳大会
- 15(日)くすのき祭(16日)
- 26(木)一〜三年、実力考査
- 27(金)三年、実力考査
- 10・2(水)総合体育大会一日目
- 4(金)総合体育大会二日目
- 23(水)中間考査(26日)
- 11・10(日)旺文社模試
- 19(火)交通ストのため臨時休校
- 20(水)二年、修学旅行(24日)
- 22(金)一、三年、遠足
- 12・13(金)期末考査(17日)
- 24(火)終業式
- 1・8(水)始業式
- 13(月)三年、実力考査(14日)
- 31(金)三年、学年末考査(2/4)
- 2・1(土)一、二年、実力考査
- 5(水)予餞会(荒井由実)
- 28(金)入学志願者学力検査
- 3・8(土)生徒ホール竣工式
- 10(月)第二七回卒業式
- 12(水)学年末考査(15日)
- 17(月)入学説明会
- 24(月)終業式

生徒ホール効果で元気な部活。 バレー部、全国大会出場。

三月二十三日から四日間にわたって、東京体育館を中心に行われた第七回全国高校バレーボール選抜優勝大会に本校バレー部が出場した。県大会、西関東大会を勝ち抜いての出場である。

一回戦では南近畿地区代表の添上高校(奈良県)と対戦した。第一セットは初出場のためか堅さが目立ち、7対15で落としたものの、第二、第三セットを連取して勝利した。二回戦の相手は、北関東地区代表の高崎商業高校であった。第一セットを15対12で先取したが、気のゆるみからか第二セットを3対15で取られてしまう。第三セットは中盤まで一進一退の攻防が続いた。しかし、相手のブロックに追加点をばばまれていくうちに、サーブミスが出るなどとしていにこのセットを落とし、セットカウント1対2で惜敗した。



高崎商高(手前)を相手に手に汗にぎる攻防

二回戦で敗れ去ったとはいえ、出場二回を誇る添上高校を逆転の未破るなど、その



春高バレー初出場。堂々の入場行進

- 4・1(火) 第三代校長小室忠良氏就任
- 8(火) 始業式 入学式
- 9(水) 対面式
- 19(土) 新入生歓迎会(市民会館)
- 24(木) 全校遠足
- 26(土) 新入生歓迎会第二日(市民会館)
- 5・7(水) 交通ストのため臨時休校
- 9(金) 交通ストのため臨時休校
- 11(日) 同窓会総会
- 23(金) P.T会、後援会総会 保護者会
- 26(月) 中間考査(30日)
- 28(水) 開校記念日

日本▶エリザベス英女王来日。日本赤軍クアラランプール事件。天皇、初訪米。GNP初のマイナス成長。
 世界▶ベトナム戦争終結。アポロ・ソユーズ、ドッキングに成功。フランスで第1回サミット。

活躍は称賛に値するものであった。全国大会までの戦績は以下の通りである
 新人戦卓大会

一回戦 川越高 2対0 川口北高
 二回戦 " 2対1 春日部高
 準決勝 " 2対1 深谷高
 決勝 " 2対1 所沢高

西関東大会

一回戦 川越高 2対1 峡南高
 決勝 " 2対1 韭崎工高

全国大会

一回戦 川越高 2対1 添上高
 二回戦 " 1対2 高崎商高

生徒ホール賑わう

前年度末に完成した生徒ホールは、竣工以来、春季合宿、会議等に大いに活用された。特に、吹奏楽部は騒音公害の心配をする必要がなくなり、毎日遅くまで練習に励んでいた。

夏休みには、多くのクラブが夏季合宿に利用した。七月十三日の水泳部に始まり、八月二十日まで途切れることなく一五クラブ四〇〇名が入れかわり立ちかわり合宿している。

この年、バレー部の全国大会初出場をはじめとして、剣道部、水泳部の県新人大会準優勝、吹奏楽部の関東大会出場など文化部、運動部ともに大いに成果を上げたのは「生徒ホール効果」と言えようか。

交通安全講話実施

この年、生徒の交通事故が多発したため全生徒に注意を促そうと「交通安全講話」が行われた。

六月十七日の第五時限に一年生、六時限に三年生、二十日の第六時限に二年生と、三回に分けて実施された。講師は、本校のOBである川越警察署宇佐美昭十郎(中44)交通課長が務めた。

話は、自動車、自転車、歩行者の一つ一つに具体的な例をあげて、運転や歩行の際の注意事項の細かい説明があった。また、「輪禍の記録」という映画を上映し、交通事故の悲惨さを生徒に訴えかけた。生々しい交通事故の現場や、被害者だけでなく加害者も悲惨な状況になる様子などが映し出され、生徒は改めて注意を喚起されたようであった。

- 6・6(金)強歩大会(高坂神社)学校
- 8(日)旺文社模試(三年一九一名)
- 12(木)二、三年、実力考査(13日)
- 7・9(水)期末考査(12日)
- 19(土)終業式
- 8・11(月)二年、登校日
- 21(木)三年、登校日
- 9・1(月)始業式
- 11(木)校内水泳大会
- 14(日)くすのき祭(15日)
- 25(木)一、三年、実力考査
- 26(金)三年、実力考査
- 10・1(水)総合体育大会(2日)
- 5(日)飯田亮先生没後四十年記念式
- 20(月)中間考査(23日)
- 11・2(日)修学旅行(6日)
- 5(水)一、三年、遠足
- 12・13(土)期末考査(17日)
- 24(水)終業式
- 1・8(木)始業式
- 13(火)三年、実力考査(14日)
- 21(水)予餞会(やまがたすみこ)
- 31(土)三年、学年末考査(2/4)
- 2・2(月)一、二年、実力考査
- 3・1(月)入学志願者学力検査
- 10(水)第二八回卒業式
- 12(金)学年末考査(16日)
- 23(火)バレー部全国大会出場
- 24(水)終業式

三年後に八十周年を控え、 実行委員会が発足。

三年後の創立八十周年に向けて、その準備が始まった。

五、六月の校内準備会を経て、九月十八日に第一回八十周年記念事業実行委員会が

80周年記念事業実行委員会専門部会

専門委員会	PT会・後援会・同窓会委員	校内委員	委員
記念誌	◎岩堀徳太郎 (PT会) 関口栄司 (同窓会) 坂田圭豊 (同窓会) 山根博之 (同窓会)	◎野口進 中 高木宏 田光 斉藤貞夫 森小室	啓幸夫 真英夫
名簿	◎染谷 潔 (同窓会) 馬場弘明 (同窓会) 栗生田明之 (同窓会) 木村博之 (同窓会)	◎内田一正 葉 大久原正雄 富田 石井正信 佐藤 福田 (同窓会)	光一三 貞正三
記念行事	◎染谷幸雄 (後援会) 三橋かく久 (PT会) 駒井和久 (同窓会) 橋村尚中 (同窓会)	◎田中啓彦 野口 内田正三 森光 佐藤正三 小室	進幸夫 真英夫
施設等	◎天沼照雄 (後援会) 岩田正潔 (PT会) 染谷 (同窓会)	◎高木宏 葉 富田貞一 内河 石井真雄 藤 福田信夫	光臣夫 輝貞夫

◎委員長

◎副委員長

開催された。委員長に県議会議員の宇津木清蔵(中39)を選任し、記念事業を大きく四つの専門委員会に分け、それぞれの委員長、副委員長が別表の通り選出された。こうして予算総額九二〇〇万円余の記念事業がスタートした。実行委員会は、一九七九年十一月十七日の記念式典までに一〇回を数えた。

山岳部で遭難騒ぎ

三月二十五日山岳部員一名は顧問三名に引率され、山梨県筑ヶ岳さきがけ登山に出発した。その日、午後五時三十分頃、幕営場所から近くの水場へ行った部員一名が行方不明となった。学校では、対策本部を設置するとともに、翌二十六日、現地へ教頭以下四名の教員が急行した。その後、山岳部OB達だが二名の教員と現地入りした。



中世の城を模したくすの木祭の入場門

- 4・8(木)始業式 入学式
- 9(金)対面式 クラブ見学
- 14(水)交通ストのため臨時休校
- 20(火)交通ストのため臨時休校
- 21(水)交通ストのため臨時休校
- 23(金)遠足
- 24(土)新入生歓迎会
- 5・9(日)同窓会総会
- 18(火)強歩大会
- 20(木)PT会、後援会総会 保護者会
- 24(月)中間考査(27日)
- 28(金)開校記念日
- 6・11(金)二、三年、実力考査
- 7・9(金)期末考査(13日)
- 20(火)草取り 表彰式・終業式
- 31(土)一年、登校日 SHR後草取り
- 8・9(月)二年、登校日 SHR後草取り
- 21(土)三年、登校日 SHR後草取り
- 9・1(水)始業式
- 7(火)校内水泳大会

日本▶初の五つ子誕生。ロッキード事件で田中角栄逮捕。衆院選で中道躍進。戦後生まれ、人口の半数に。
 世界▶周恩来、毛沢東死去。ベトナム社会主義共和国成立。超音速旅客機コンコルド初就航。



「みんなで踊ろうジェンカ」——1976年くすの木祭中夜祭。普段は殺風景な川高ランドも、この日ばかりは華やき、「レッツ・キッス……」の青春謳歌



1965年頃に出現した「仙台屋」は、川高生のオアシスとして正門前に30年近く存在したが、1993年忽然と姿を消した

二十七日午前十時頃、桂河内^{つづみこうち}で、山の斜面を自力で下りてきたところを救助された。幸いかなり傷程度であった。

ジュニアゴルフに優勝

二年F組、金谷多一郎^{かなたにたいちろう}（高30）はハワイで行われた日米対抗ジュニアゴルフ選手権に優勝。八月には、川越霞ヶ関カンツリー倶楽部で行われた全日本ジュニアゴルフ選手権にも優勝（翌年も優勝）し、アメリカ、カリフォルニア州サンディエゴで開かれる世界ジュニアゴルフ選手権の日本代表に選

ばれた。同大会では四位に入賞し最優秀外国人選手賞を獲得した。ちなみに同大会の優勝は、後に全米オープン選手権を制するコリー・ペイピン選手であった。

その後、日本大学に進み一年、四年時に日本学生選手権（個人）のタイトルをとり、ゴルフ部キャプテンとしても活躍した。一九八四年プロ転向後、八七年にはシティーコーポオープンに優勝。執筆活動やテレビ解説でも活躍し、九七年にはその指導技術理論の高さが評価されレッスンプライヤーに輝いた。

- 11(土)くすのき祭第一日
人文科学部、同和問題に関する展示物が取り捨てられる
- 12(日)くすの木祭第二日
- 18(土)八十周年記念事業実行委員会
(第一回)
- 24(金)一〜三年、実力考査
- 25(土)三年、実力考査
- 10・6(水)総合体育大会(〜7日)
- 22(金)中間考査(〜26日)
- 11・18(木)三年、実力考査(〜19日)
- 19(金)修学旅行(〜23日)
- 20(土)一〜三年、遠足
- 12・3(金)保護者会
- 14(火)期末考査(〜17日)
- この日東上線と光・朝霞間に爆弾が仕掛けられたとの連絡あり、テスト十分遅れる
- 24(金)終業式
- 1・8(土)始業式
- 17(月)予餞会(中島みゆき、菊池ひろこ)
- 2・1(火)一、二年、実力考査
三年、学年末考査(〜4日)
- 3・1(火)入学志願者学力検査
- 10(木)第二九回卒業式
- 12(土)学年末考査(〜16日)
- 17(木)入学説明会
- 24(木)終業式

高校新設ラッシュが続くなか、
しばしば開設準備校となる。

十二月一日、大井高校開設準備室が本校保健室の一角に開設された。

一九七〇年代初めから始まった高校新設ラッシュは、別表の通り一九八五年までに県立高校の数を倍増させた。全国的に見れば高校進学者数は減少（戦後ベビーブーム世代がピーク）するなかで、埼玉県は人口流入による高校進学者数増加の対応に追われ続けた。

本校でもこの間、一九七一年開校の坂戸高校、一九七三年の福岡高校、一九七四年の日高高校、そして大井高校と、四度の開設準備校を担ってきた（これ以前に一九六二年開校の狭山工業高校、一九六三年の朝霞高校も担当）。

開設準備校では、当該高校の入試事務も代行するため、この年本校では大井高校の入学試験も同時に行われた。川越高校全日

制一四室、同定時制一室、大井高校七室、合計二二室、実に一一〇〇名近い生徒が本校で入学試験を受けたのである。



第30回くすの木祭ポスター

野坂昭如氏講演

九月三十日に、本校体育館で野坂昭如氏の講演が行われた。これは、くすの木祭三十周年を記念した生徒会主催の講演会であった。「今考えていること」の演題で、氏は主に日本の将来の食糧問題について熱弁



第30回くすの木祭の入場門。統一テーマは「生きてるって言うってみろ」

- 4・8(金) 始業式 入学式
- 9(土) 対面式
- 16(土) 東上線ストのため臨時休校
- 23(土) 遠足
- 30(土) 新入生歓迎会
- 5・8(日) 同窓会総会
- 18(水) 強歩大会
- 20(金) P.T会、後援会総会 保護者会

日本▶日本赤軍、日航機をハイジャック。樋口久子、全米女子プロ優勝。王貞治、ホームラン世界記録樹立。
 世界▶スペースシャトル初飛行。最後の「オリエント急行」パリ出発。チャップリン死す。

埼玉県立高等学校開校年度一覧（1971年度以降）

年度	開校高等学校名(西部地区のみ記載)	開校数	累計校数
71	坂戸	3	71
72	越生 和光	4	75
73	福岡 新座	4	79
74	日高 志木 所沢北	8	87
75	川越南	5	92
76	富士見 吉見 滑川	6	98
77	所沢東	7	105
78	大井 毛呂山 入間 飯能南	7	112
79	川越西 坂戸西 所沢西 朝霞西 新座北	8	120
80	所沢中央	9	129
81	西部地区なし	3	132
82	鶴ヶ島 狭山清陵	5	137
83	川越初雁 鳩山 入間向陽 新座総合	7	144
84	所沢緑ヶ丘	4	148
85	狭山経済	2	150
86	西部地区なし	2	152
87	和光国際	2	154
88	西部地区なし	1	155
1989年度以後の開校なし			

部員がいなかったため休部状態にあった弁論

をふるった。
 生徒会は、くすの木祭三十周年にあたり講演会の開催、映画の上映などのため文化祭予算を前年度の倍額、四〇万円にした。その捻出に旅費を大幅に削減したため、予算編成会議は紛糾した。また、くすの木祭当日を予定していた講演会は、体育館を使う部やサークルの妨げになるとの理由で、日程を変更して実施された。

部が四月に廃部となった。戦前の華々しい活動、昭和三十年代からの黄金期と、本校部活動の中にあっても最も長い歴史をもつ弁論部が、その幕を閉じたのである。壇上で熱弁をふるうというスタイルが、もはや若者に受け入れられる時代ではなくなったということであろう。
 廃部にはなったものの名前だけは残されることとなり、これが一九九三(平成五)年度の復活につながるのである。

- 24(火) 中間考査(〜27日)
- 28(土) 開校記念日
- 6・10(金) 二、三年、実力考査
- 7・9(土) 期末考査(〜13日)
- 20(水) 終業式
- 8・9(火) 二年、登校日
- 20(土) 一、三年、登校日
- 9・1(木) 始業式
- 8(木) 校内水泳大会
- 17(土) くすのき祭(〜18日)
- 27(火) 一〜三年、実力考査
- 28(水) 三年、実力考査
- 10・6(木) 総合体育大会(〜7日)
- 25(火) 中間考査(〜28日)
- 11・16(水) 三年、実力考査(〜17日)
- 25(金) 修学旅行(〜29日)
- 一、三年、遠足
- 12・6(火) 保護者会
- 14(水) 期末考査(〜17日)
- 24(土) 終業式
- 1・9(月) 始業式
- 19(木) 予餞会(高木麻早)
- 2・1(水) 三年、学年末考査(〜4日)
- 一、二年実力考査
- 3・10(金) 第三〇回卒業式
- 28(火) 入学志願者学力検査
- 13(月) 学年末考査(〜16日)
- 17(金) 入学説明会
- 24(金) 終業式

大学入試共通一次試験始まる。

一九七九(昭和五四)年一月十三日(土)、十四日(日)に、第一回の共通一次試験が実施された。

これは、かねてより叫ばれていた大学入試制度の改善策として導入されたものである。大学入試センターを設立し、全国的規模の共通学力検査を実施して「大学教育に必要な基礎的能力、適性の程度」の判定に使用してもらおうというものであった。国公立大学志願者は全員受験の義務があり、本校からは、現役生三三四名、浪人生三三〇名余が受験した。十三日は受験者多数のため、三年生で受験しない者は家庭学習という措置がとられた。

入試改善をめざして導入された制度であるが、問題点も多く指摘された。まず出願時期が九月と早く、しかもこの時点で志望校をある程度絞りこむ必要がある。現役に

としては、九月からの半年間は実力が伸びる時期でありながら、それを待たずに志望校を考えなければならぬ。また、一学期、二期校の区別がなくなり受験の機会が一度になった。さらに、各大学では二次試験を課しており、受験生にとってはかえって負担増になっているらしいがある。

初めての入試制度に生徒、教師ともにとまどいがあつたが、国公立大学合格者は前年を大きく上回る結果となつた。

業者テスト廃止

十二月十八日早朝、「学内問題研究班」(本校には存在しない団体)の名で校外模試に関する公開質問状が生徒会の掲示板に張り出された。しかも、事前に新聞社に電話連絡をし取材に来させるといふ手の込み様であった。翌朝、毎日、読売両紙に写真

くすの木祭
川越高校



9/9・10

第31回くすの木祭ポスター

4・8(土)始業式 入学式

10(月)対面式

20(木)遠足

25(火)交通ストのため臨時休校

26(水)川越線ストのため遅刻者多数

27(木)生徒総会及び新入生歓迎会

5・14(日)同窓会総会

16(火)強歩大会

22(月)PT会、後援会総会 保護者会

24(水)中間考査(27日)

28(日)開校記念日

6・9(金)三年、実力考査(10日)

7・10(月)期末考査(13日)

15(土)図書館増改築竣工

20(木)終業式

9・1(金)始業式

5(火)校内水泳大会

9(土)くすの木祭(10日)

12(火)三年、実力考査(13日)

13(水)一、二年、実力考査

10・4(水)総合体育大会(第一日)

日本▶成田空港開港。日中平和友好条約。稲荷山古墳から鉄剣出土。キャンディーズ引退、「普通の女の子」に。
 世界▶イギリスで試験管ベビー誕生。米でエイズ患者発見される。キャンプ・デービッドで中東和平会談。



雨の日も風の日も中野パン屋のおじさんは、川高生のためにパンを運んでくれるのです



航空部のホーバークラフト実演はくすの木祭の呼び物であった

入りで大きく報道された。

生徒会は、この掲示物は「生徒憲章」に違反するものであるとして、自主的に撤去するとともに、代表者は名乗り出るよう呼びかけたが名乗り出た者はなかった。学校としては、違反文書に回答の必要はないとするものの、新聞報道もされている状況でもあり、生徒に対して正しい理解を求めるため、全校説明会を開催した。

業者模試を学校を会場にして行うのは、あくまでも生徒の便宜を図るためのものであり、生徒からの徴収額と業者への納入額に差があるのは、休日出勤して監督にあたる教師への監督料と昼食代であり、会計上不明朗な点はない等の説明がなされた。学校としては、あくまでも生徒の便宜を図ってのことであるが、誤解を招きやすいということで、翌年からの業者模試は廃止された。

夏休み登校日がなくなる

夏季休業中の登校日が廃止された。前年までは、夏季休業中に学年ごとに日を定めて登校日を設けていた。しかし、その意義について疑問とする声があがり、行事検討

5 (木) 総合体育大会(第二日) 降雨のため十時で中止、以降授業
 6 (金) 午後一時半より体育大会の残り実施

23 (月) 中間考査(〜26日)
 11・9 (木) 修学旅行(〜13日)

三年、実力考査(〜10日)

15 (水) 一、三年、遠足

12・4 (月) 保護者会

13 (水) 期末考査(〜16日)

23 (土) 終業式

1・8 (月) 始業式

13 (土) 共通一次試験 三年、家庭学習
 31 (水) 三年、学年末考査(〜2/3)

一、二年、実力考査

2・28 (水) 入学志願者学力検査

3・7 (水) 予餞会(尾崎亜美)

10 (土) 第三一回卒業式

13 (火) 学年末考査(〜16日)

17 (土) 入学説明会

24 (土) 終業式

委員会を設置して検討した結果、左記の条件を付けて、廃止することとなった。

(1) 一学期末及び二学期初日の除草を徹底的に行う。

(2) 夏季休業中の中日をめぐりに、生徒は担任に動静報告をする。

創立八十周年記念式典が 盛大に挙行される。

創立八十周年記念式典が十一月十七日午後一時、川越市民会館大ホールで盛大に挙行された。

関係者をはじめとして、四〇〇名を超える人々が参列した。式典終了後、祝賀会が開かれ記念事業の遂行を喜びあった。参会者には、本校大沢寛教諭デザインの記念手拭い、新装なった図書館のパンフレット

等が配られた。

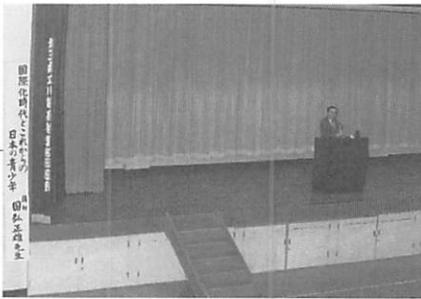
これに先立ち、午前中体育館に全校生徒職員を集め、記念講演会が行われた。講師は著名な国際ジャーナリストの国弘正雄氏で「国際化時代とこれからの日本の青少年」の演題で講演された。質疑応答では、生徒の質問や意見にたいへいな解説を加えて答えてくださり、予定の時間を大きく超えてしまった。

図書館 増改築成る

八十周年記念事業の一環として行われていた図書館の増改築が前年七月十五日竣工した。増築部分は一、二階ともに建坪一三七・七三平方メートルで、一階には同窓



八十周年記念式典



講演する国弘正雄氏



80周年記念事業の一つとして刊行された記念誌

- 4・1(日)第二四代校長飯島武司氏就任
- 9(月)始業式 入学式
- 10(火)対面式
- 21(土)新入生歓迎会
- 5・2(水)遠足
- 13(日)同窓会総会
- 15(火)朝、雨のため強歩大会中止
- 22(火)PTT会、後援会総会 保護者会
- 23(水)中間考査(～26日)
- 28(月)開校記念日
- 6・8(金)二、三年、実力考査
- 9(土)三年、実力考査
- 7・10(火)期末考査(～13日)
- 20(金)終業式
- 9・1(土)始業式
- 5(水)校内水泳大会
- 8(土)くすの木祭(～9日)
- 13(木)三年、実力考査(～14日)
- 14(金)一、二年、実力考査
- 10・8(月)午前授業、午後体育祭(球技)

日本▶元号法制化。東京サミット開催。東名高速日本坂トンネルで事故。第1回国際女子マラソン(東京)。
 世界▶イラン革命。韓国、朴大統領暗殺さる。ソ連、アフガニスタンに侵攻。中国軍20万人ベトナムに侵攻。



増改築成った図書館

会室(会議室)が備えられた。

この事業に対しては同窓生の強い母校愛により、寄付が目標額の二倍に上る四〇〇万円も集まった。このため、全室に冷暖房が完備されたのをはじめとして、閲覧室、書庫、司書室等の備品が一新された。閲覧室の机は従来よりも一回り大きなものが採用された。

ゆったりしたスペースのブラウジングルームには、座り心地のよい椅子がおかれていて、読書や勉学に疲れた生徒がゆったり

くつろげるようになっていいる。

図書費徴収始まる

八十周年記念事業により図書館が増改築され、県下でも有数の立派な施設になった。それがかえって、蔵書の古さ(旧漢字、旧仮名づかいのもの)や不十分さを際立たせることになった。

そこで、四月十九日の職員会議で「図書費徴収」の議案が提出され、可決された。

本校では、これまで図書費は徴収していなかったが、県立高校を見ると大多数の学校が名目はともかくとして、図書費を集めているのが実情のようである。公費だけでは生徒の要望になかなか迅速に答えられないことから、やむを得ず集めているのである。本校では、全日制生徒全員から一人月額一〇〇円を年間十か月徴収することとした。そしてこれは純粋に図書購入だけに当てる(公費は製本、事務用品なども賄う)こととしたので、年間一三〇万円余が新たに図書購入費として使えることとなり、図書館の充実が大いに期待されることとなった。

月額一〇〇円の図書費徴収は現在も続いている。



第32回くすの木祭。テーマは「今、感性を呼び起こせ」

- 9 (火) 体育祭(陸上)
- 19 (金) 台風二〇号のため第三時限以降
放課
- 21 (日) 同窓会秋季散策会(川越伊佐沼)
- 22 (月) 中間考査(25日)
- 11・8 (木) 修学旅行(12日)
三年、実力考査
- 13 (火) 一、三年、遠足
- 17 (土) 八十周年記念式典
- 12・3 (月) 保護者会
- 13 (木) 期末考査(17日)
- 24 (月) 終業式
- 1・8 (火) 始業式
- 31 (木) 三年、学年末考査(2/4)
一、二年、実力考査
- 2・29 (金) 入学志願者学力検査
- 3・7 (金) 予餞会(沢田聖子)
- 10 (月) 第三二回卒業式
- 12 (水) 学年末考査(15日)
- 17 (月) 入学説明会
- 24 (月) 終業式

七十周年記念式典は、様々な事情から学校では行わなかったが、同窓会では昭和四五年の総会を七十周年記念事業完成祝賀会と兼ねて行うことにし、総会・記念式典を新体育館で、祝宴・懇親会を氷川会館で開催した。

一九七五年五月の幹事会で北村会長が辞意を表明し、顧問となり、同年五月の総会で岡村了一(中43)が会長に選出された。

母校は一九七九(昭和五四)年に創立八十年を迎えることになり、記念事業実行委員会に同窓会も参画し、その中心的な事業(図書館の増改築等)に協力することになった。新しい図書館の内部には同窓会室も設置されることになり、同窓会の分担金として、二〇〇万円が目標準とされた。このような募金活動は同窓生の結束を強め、同窓会の発展につながるのと考えから、各回期ごとの幹事団特に従来比較的同窓会に関心が薄いとされた高校部門に力を注ぎ、募金活動と同窓会名簿の発行準備がなされた。

このような努力が実って募金は四〇〇万円余も集まり、記念事業実行委員会に寄付された。一九七九年度総会は、新装なった図書館の一階の同窓会室で行われた。

名簿は同年一月に完成し、第一六号として発行された。

記念講演会が定着

また、一九八四(昭和五九)年度の総会での北村顧問の発案により同窓生による在校生への講演会が、同年九月七日の文化祭に実現した。第一回は元毎日新聞の論説委員で、日本大学教授の松本博一(中37)が、「人類の将来と核軍縮問題」と題して講演を行なった。以来、現在まで続けられている。

一九八九(平成元)年には母校は創立九十年を迎えることになるが、学校では来る百周年にそなえて今回は記念事業・祝賀式等は見送ることとなった。同窓会も名簿の発行のみを計画し、一九八九年夏には第一七号として発行された。

同年の総会で、会長が岡村了一から佐々木忠一(中32)に代わった。岡村了一の会長在任七期・十四年は現在まで最長で、同窓会の結束、発展に尽力された。一九九一(平成三)年度の総会から、総会終了後の懇親会の会場が佐久間旅館となった。

一九九三年度の総会で、会長が佐々木忠一から渋谷健(中47)に代わった。渋谷会長は一九八七(昭和六二)年四月より四年間、川高の校長を務めた人で、岡田恒輔(中一)以来の二人目の母校出身の校長である。

母校は一九九九(平成一一)年に創立百周年を迎えたが、渋谷会長は百周年事業実行委員会準備会委員長、次いで実行委員会委員長を務め、計画の推進にあたった。事業計画としては記念式典、新図書館の建設、記念誌・名簿の発行およびそのための募金等である。募金は目標額を一億円と定めたが、一九九八(平成一〇)年三月には目標額を超えた。一九九九年三月、図書館は予定通り竣工し、式典およびその前後に行われる催しもの等もどこおりなく進行した。

入会金は一九九六年に二〇〇円となり、卒業後二五年を経過した際、終身会費五〇〇円を納入することとなったが、さらに入会金の値上げが提案されている。

地区初雁会が続々誕生

各地区の初雁会のなかで、最も歴史のあるものは、一九五三(昭和二八)年三月に発会した在京初雁会である。その活動は毎月行われる「正午の会」と、年一回の母校同窓会との合同大会とで、現在まで続いているが、後者は秋季散策会と形をかえている。そのほか、多くの地区で初雁会が結成され、活発な活動をしており、百周年記念事業にも協力している(47頁参照)。

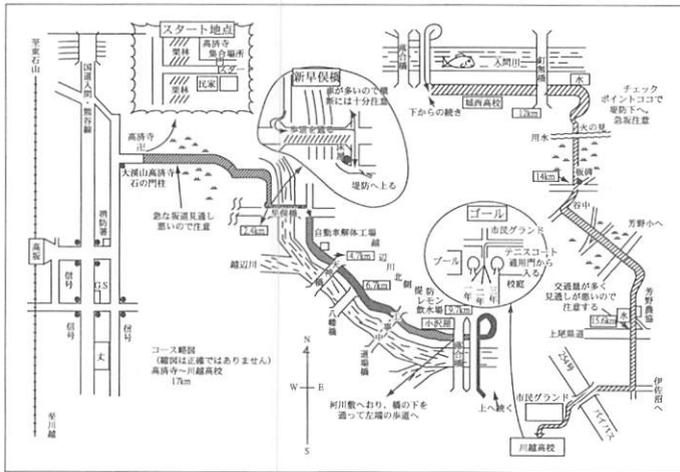
強歩大会で生徒倒れる。 アンサンブル全国大会出場。

五月十四日、第一一回強歩大会が行われた。コースは東松山市高坂の高済寺を出発点に、本校をゴールとする全長一七キロメートルある(下図)。当日は快晴に恵まれ、五月とはいえ気温がかなり上昇していた。そんな中、不幸にも事故は起こったのである。

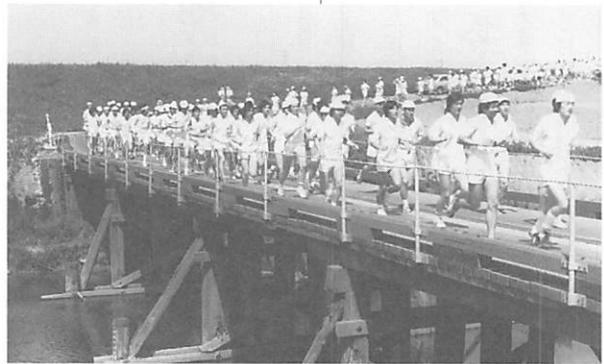
まず、スタートから一二キロメートル地点の釘無橋付近で二人の生徒が相次いで倒れた。それに続き、一五キロメートル地点に近い折戸十字路付近で三人、学校近くのバイパス歩道橋を渡ったところで一人、ゴール後二人、合計八人の生徒が倒れ病院で手当を受けることとなった。幸い大事には至らなかったものの、警察の事情聴取、新聞社、テレビ局の取材を受けることとなってしまった。

事故の一番の原因は実施時期にあるとの反省から、翌年は十一月に行うこととなった。また、コースも一部変更され、川越市

上戸運動公園をスタートし、本校をゴールとする一二キロメートルになった。



- 4・8(火)始業式 入学式
- 9(水)対面式
- 18(金)新入生歓迎会
- 19(土)遠足
- 5・11(日)同窓会総会
- 14(水)強歩大会、高坂の高済寺を一年九時、二年九時二十分、三年九時四十分に出発
- 20(火)PT会、後援会総会 保護者会
- 23(金)中間考査(27日)
- 28(水)開校記念日
- 6・12(木)二、三年、実力考査
- 13(金)三年、実力考査



橋を渡る強歩大会。元気に「走る」生徒も多い

日本▶漫才ブーム起こる。銀座で現金1億円の落とし物。金属バット殺人事件。校内暴力、家庭内暴力急増。
 世界▶モスクワ五輪、日本不参加。イラン・イラク戦争。ジョン・レノン射殺さる。

「フーガの技法」で銅賞

三月二十一日に福岡県で行われた第四回全日本アンサンブルコンテストに、吹奏楽部の代表五人が出場した。県予選、関東支部予選を突破しての全国大会出場である。

この大会は、メンバーを三人以上八人以下で構成することが決められており、本校はトランペット二人、トロンボーン二人、ホルン一人の五人で出場した。各校の演奏持



吹奏楽部、アンサンブルコンテスト全国大会出場

時間は五分間で、本校は、J・S・バッハの「フーガの技法」を演奏し、銅賞を獲得した。

授業料口座振替へ

二月十七日、校長名で保護者宛に「県立高等学校（全日制の課程）授業料等の口座振替取扱いの開始について（お知らせ）」の文書が配られた。これは、従来、生徒が学校へ現金を持参し、窓口に入納していたものを、埼玉県として事故防止等の面から、次年度より口座振替制度を導入しようというものである。

具体的には、左記の合計金額八万一千六百円を五月から二月までの十か月に分割して、月額八千六百円を各月の一〇日に振替えることとした。

振替金額

授業料	年額	57,600円
PT会費	"	2,400円
後援会費	"	9,600円
クラブ活動費	"	1,800円
80周年記念費	"	6,000円
生徒会費	"	4,200円
合計		81,600円

- 7・9(水)期末考査(12日)
- 19(土)終業式
- 9・1(月)始業式 教育実習
- 9(火)校内水泳大会
- 13(土)くすのき祭(14日)
- 25(木)一、三年、実力考査
- 26(金)三年、実力考査
- 10・7(火)総合体育大会(球技)
- 8(水)総合体育大会(陸上競技)
- 22(水)中間考査(25日まで)
- 26(日)同窓会秋季散策会(高麗神社)
顔振峙)
- 11・6(木)修学旅行(10日)
- 7(金)三年、実力考査
- 8(土)一、三年、遠足
- 12・4(木)保護者会
- 13(土)期末考査(17日)
- 24(水)終業式
- 1・8(木)始業式
- 2・2(月)一、二年、実力考査
三年、学年末考査
- 28(土)入学志願者学力検査
- 3・7(土)予餞会(久保田早紀)
- 10(火)第三三回卒業式
- 11(水)学年末考査(14日)
- 17(火)入学説明会
- 21(土)吹奏楽 アンサンブルコンテス
ト全国大会出場
- 24(火)終業式

生徒会の「部活動・必修クラブ 分離化案」成らず。

一九七三(昭和四八)年の教育課程改訂で、週一時間のクラブ活動が必修になった(部活動と区別する意味で必修クラブと呼ぶ)。本校では従来より、部活動の全員加入制をとってきたので、七三年の必修クラブ導入時に、部活動と必修クラブの一本化が行われた。その後、とくにこれと言った問題もなく経過していた。ところがこの年、生徒会本部から部活動と必修クラブの分離化案が学校側に提示された。

しかし、職員会議では全員一致で現行制度を維持していくことにまとなり、生徒会本部に回答された。その理由として次のようなことがあげられた。一本化することにより活動の場所、施設、指導者、予算など、全ての面で余裕が生まれること。また、週一時間のクラブ活動だけでは教育効果は期待できず、全員加入制の上立った一本化

は、維持する必要がある。もし分離化を行い、全員加入制を廃止したならば部活動の不活性化、学校の予備校化を招きかねない。これは、もとより本校の教育目標の目指すところではない。以上の理由により現行制度の継続が決定された。

スキー教室始まる

一月四日から七日まで三泊四日の日程で、長野県菅平高原スキー場を使つての第一回スキー教室が開かれた。希望参加であったが、参加生徒九二名(初心者五二名)を一六名の教師が引率して行われた。

この年は、やや雪不足に加え二日目の午前中が雨で、ゲレンデコンディションは万全ではなかったものの、生徒たちはスキーの楽しさを満喫したようである。また、生徒たちはスキー以外にも、仲間と寝食を共

4・8(水)始業式 入学式

9(木)対面式

18(土)新入生歓迎会

20(月)離任式

5・10(日)同窓会総会

15(金)遠足

22(金)PT会、後援会総会 保護者会

23(土)中間考査(27日)

28(木)開校記念日

6・2(火)球技大会第一日 関東大会出場

壮行会(陸上、テニス、剣道)

3(水)球技大会第二日

12(金)三年、実力考査

13(土)二、三年、実力考査

7・8(水)期末考査(11日)

20(月)終業式

9・1(火)始業式 除草

9(水)校内水泳大会

12(土)くすのき祭(13日)

24(木)一、三年、実力考査

25(金)三年、実力考査



第34回くすのき祭。
テーマは「可能性の追求」

日本▶榎本三恵子「ハチのひと刺し」。中国残留孤児初来日。ライシャワー核持ち込み発言。なめ猫ブーム。
 世界▶スイスでクローンマウス誕生。ローマ法王、ヒロシマで平和アピール。エジプト大統領サダト暗殺。



スキー教室。練習の合間に記念撮影

にすることその絆がさらに強まったり、普段見られない先生たちの意外な面を発見したりと、楽しく有意義な時間を過ごせたようである。

若い高校生の上達はさすがに早く、五二名の初心者も最終日にはゲレンデを自由に滑降できるようになり、後ろ髪を引かれる思いで帰路についたのであった。

豪州ジュニア選抜来校

二月八日、本校体育館においてバレー部と豪州ジュニア選抜チームとの親善試合が



親善試合、交歓会と互いに友好を深めた

行われた。豪州チームは高校のナショナルチームだけに、平均身長一八五センチと本校チーム平均を二センチも上回っていた。



- 10・6(火)陸上競技大会
 - 23(金)中間考査(〜27日)
 - 11・1(日)修学旅行(〜5日)
 - 同窓会秋季散策会(石神井公園)
 - 12(木)三年、実力考査(〜13日)
 - 18(水)強歩大会(今年度より時期、コース変更)
 - 12・4(金)保護者会
 - 14(月)期末考査(〜17日)
 - 24(木)終業式
 - 1・4(月)スキー教室(〜7日、菅平)
 - 8(金)始業式
 - 2・1(月)一、二年、実力考査
 - 3年、学年末考査(〜4日)
 - 3・1(月)入学志願者学力検査
 - 8(月)予餞会(石川ひとみ)
 - 10(水)第三四回卒業式
 - 12(金)学年末考査(〜16日)
 - 17(水)入学説明会
 - 24(水)終業式
- 高さを生かしたバレーボールで本校チームを圧倒し、15対3、15対12、15対13のストレートで勝利した。
- 試合後は、同窓会室で交歓会が開かれ、短い時間ではあったが、互いに友好を深めることができた。

台風18号、くすのき祭を直撃。

九月十一日、台風一八号の接近で雨模様の中、第三五回くすのき祭第一日目が始まった。中夜祭は場所こそ体育館に移したものの予定通り行われた。

二日目は、予定通り始まったものの風雨が強まり、十時二十分に臨時職員会議が開かれた。そこで、当日のくすのき祭は中止



この年のくすのき祭のテーマは「灰スクールにルーージュをぬれ」

し翌日に順延、生徒は十一時以降すみやかに下校することが決定した。

台風一八号は十二日午後六時頃、静岡県



第35回くすのき祭入場門

- 4・8(木) 始業式 入学式
- 9(金) 対面式
- 24(土) 新入生歓迎会
- 26(月) 離任式
- 5・9(日) 同窓会総会
- 17(月) 遠足
- 山形県立東高校進路担当来校
- 24(月) 中間考査(27日)
- 28(金) 開校記念日
- 31(月) P T会、後援会総会 保護者会
- 6・2(水) 球技大会
- 7(月) 球技大会
- 16(水) 二、三年、実力考査
- 17(木) 三年、実力考査
- 7・8(木) 期末考査(12日)
- 20(火) 終業式
- 9・1(水) 始業式
- 8(水) 校内水泳大会
- 11(土) くすのき祭第一日

日本▶参院比例代表制導入。日航機逆噴射墜落。ホテル・ニュージャパン火災。テレホンカード使用開始。
 世界▶英・アルゼンチン、フォークランド紛争。ソ連元書記長ブレジネフ死去。

御前崎付近に上陸し東日本を縦断。十三日午前八時前、下北半島を抜けて温帯低気圧となった。死者、行方不明者三二名を出し、首都圏の交通機関はマヒ状態となった。

十三日は、台風一過の晴天となったが、その爪痕が随所に見られた。そんな中、くすのき祭三日目が開催された。異例の月曜日開催となったが、三々五々入場者も増え、後夜祭は大変盛大なものとなった。

新部室棟完成

前年度末の三月二十日に第一回部室建設委員会が開かれ、本格的に新部室建設の動きが始まった。総予算九三〇〇万円に上る一大事業である。これを公費に頼らず、後援会で賄ってしまおうというのであるから、保護者の方々の熱意には驚かされる。

そもそもこの発端は、前年本校の部室を見た父母から「ぜひ、新しい部室を」との要望が出されたことに始まる。それにしても、その後の動きの早さには感心させられるものがあった。

七月に着工し、十二月十七日には、竣工となった新部室棟の引き渡しが行われた。新部室棟は鉄筋二階建、瓦葺きの屋根という

珍しいものである。これは、川越の蔵造りの建物を多分に意識した設計となっている。二階部分は用具室も含めて九室、一階はミーティングルーム、ロッカールーム、シャワー室となっている。また、同時に旧部室棟も内外装を一新した。

これで本校部活動の活動拠点が完全に整備されたことになり、今後、ますますその活動が活発になることが期待されるのである。



鉄筋二階建に瓦葺きの新部室棟

- 12 (日) くすのき祭第二日(台風接近のため十一時以降下校)
- 13 (月) くすのき祭第三日
- 21 (火) 一、三年、実力考査
- 22 (水) 三年、実力考査
- 27 (月) 生徒会立合演説会
- 10・8 (金) 教育課程委員会
- 14 (木) 陸上競技大会
- 21 (木) 中間考査(〜25日)
- 31 (日) 同窓会秋季散策会(高尾山)川越市防火訓練のためヘリコプター着陸
- 11・5 (金) 修学旅行(〜9日)
- 8 (月) 三年、実力考査(〜9日)
- 18 (木) 強歩大会
- 12・4 (土) 保護者会
- 14 (火) 期末考査(〜17日)
- 24 (金) 終業式
- 1・8 (土) 始業式
- 31 (月) 一、二年、実力考査
- 三年、学年末考査(〜2/3)
- 2・17 (木) 降雪のため四時限終了後下校
- 28 (月) 入学志願者学力検査
- 3・9 (水) 予餞会(秋本奈緒美、逆瀬川奈津子)
- 10 (木) 第三五回卒業式
- 11 (金) 学年末考査(〜15日)
- 17 (木) 入学説明会
- 24 (木) 終業式

予餞会は、大荒れの 白井貴子コンサート。

一九八四年三月十二日、川越市民会館大ホールにおいて予餞会が行われた。午前は音楽部、吹奏楽部、応援部などの演奏や演技が行われ、午後は白井貴子のコンサートが開かれた。ここで「事件」が発生する。

コンサートが盛り上がるにつれて、前列に位置していた三年生の一部が立ち上がりステージに駆け寄った。これにつられるように一、二年生も立ち上がり、前へ前へと押し寄せた。さらには、椅子の上に立ち上がり、曲に合わせて手拍子、足拍子をする始末。これには椅子も耐え切れず、被害総額一五万円を越す不始末を起こしてしまったのである。

川越市民会館は開館以来二十年余り、本校の文化祭、定期演奏会、予餞会等々に幅広く利用させてもらっていた大変大事な施設であった。その会館に、まさに「恩を

だで返す」ようなことをしてしまったのである。早速、臨時職員会議や生徒総会が開かれ、善後策が協議された。その結果として、与えた損害については全額弁償、謝罪文を提出し、いかなる処置をも受け入れるとともに一年間の会館使用を自粛することが決定された。

このため、翌年度に予定されていた芸術鑑賞会は中止、吹奏楽部の定期演奏会は狭山市民会館、音楽部と古典ギター部は坂戸文化会館で行うこととなったのである。

強歩大会コース定着

十一月十九日、強歩大会が奥武蔵グリーンラインコースを使って行われた。

三年前の事故(23頁参照)をきっかけに、日程、コース等の再検討がなされてきたが、本年新たにこのコースが導入された。これ



苦心の跡のみえる第36回くすの木祭入場門。テーマは「くすの木を倒せ・今はばたこう我らの時代」

4・1(金)第二五代校長宮島秀夫氏就任

8(金)始業式 入学式

9(土)対面式

23(土)新入生歓迎会

25(月)離任式

5・8(日)同窓会総会

18(水)遠足

23(月)中間考査(〜26日)

27(金)PTT会、後援会総会 保護者会

28(土)開校記念日

6・1(水)球技大会第一日

関東大会壮行会

2(木)球技大会第二日

17(金)二、三年、実力考査

18(土)三年、実力考査

7・8(金)期末考査(〜12日)

日本▶「おしん」放映。日本海中部地震。谷川浩司史上最年少将棋名人。東京ディズニーランド開園。
 世界▶ソ連軍機、大韓航空機を撃墜。アキノ元フィリピン上院議員暗殺さる。アメリカズ・カップで米初敗北。



改築工事が始まったころの川越駅



なつかしい旧日本川越駅舎。1991年には、現在の駅ビルに



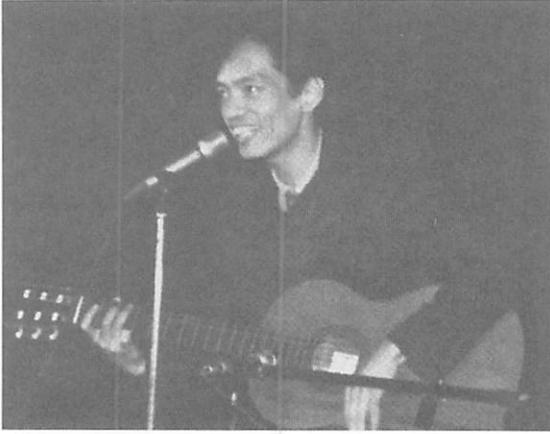
までは、越辺川、入間川の土手道を中心に実施されてきたが、場所を奥武蔵に移し、全長三〇キロで行われることになったのである。その後、奥武蔵でのコースはこれも含めて三通りが考案され、三年毎のローテーションで現在に至るまで続いている。

- 20 (水) 終業式
- 9・1 (木) 始業式 雨のため除草中止
- 7 (水) 校内水泳大会
- 10 (土) くすのき祭(11日)
- 21 (水) 一〜三年、実力考査
- 22 (木) 三年、実力考査
- 10・13 (木) 陸上競技大会
- 21 (金) 中間考査(25日)
- 11・3 (木) 修学旅行(7日)
- 三年、実力考査(4日)
- 6 (日) 同窓会秋季散策会(川越市街)
- 19 (土) 強歩大会
- 12・2 (金) 保護者会
- 14 (水) 期末考査(17日)
- 20 (火) 文化講演会「二世紀に活躍するあなたがたへ」柴田鉄治氏
- 24 (土) 終業式
- 1・4 (水) スキー教室(7日)
- 9 (月) 始業式
- 30 (月) 三年、学年末考査
- 2・1 (水) 雪のため学年末考査開始時刻は九時二十五分より
- 一、二年、実力考査は二日に順延
- 29 (水) 入学志願者学力検査
- 3・10 (土) 第三六回卒業式
- 12 (月) 予餞会(白井貴子)
- 13 (火) 学年末考査(16日)
- 17 (土) 入学説明会
- 24 (土) 終業式

予餞会は落ち着いて、 山本コウタロー氏の講演会。

一九八五年二月八日、本校体育館において予餞会が行われた。

前年の不祥事の反省にたつて、この年は午前の部が映画上映、午後が山本コウタロー氏を招いての講演会であった。

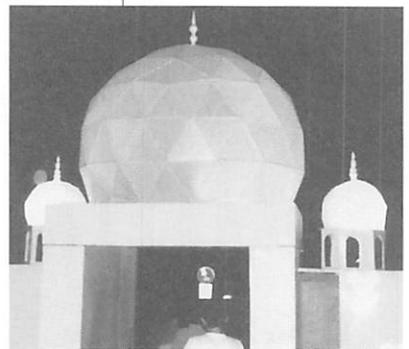


ギターを抱えて歌い、語る山本コウタロー氏

映画は「二〇〇一年宇宙の旅」であったが、内容が難しい、字幕が読みにくいなどあまり評判はよくなかった。しかし、山本氏の講演は、豊富な人生経験に立脚した楽しいもので、好評であった。浪人生となるであろう生徒への励ましなども交え、ユーモアたっぷりに語ってくれた。途中、興に乗った氏はギターを片手に、持ち歌を何曲か披露してくれた。

ラグビー同好会発足

前年度一年生一四名で発足したラグビー同好会が、その活動を必修クラブの時間（金曜六限）にまで広げようという動きが出たため、生徒会、職員会議での議論が盛んに行われた。本校では長年の間、部活動と必修クラブの一本化の上に立って部活動の全員加入制をとってきており、同好会が



夜空に輝く入場門(タージマホール)

- 4・9(月)始業式 入学式
- 10(火)対面式
- 28(土)新入生歓迎会
- 5・13(日)同窓会総会
- 15(火)遠足
- 23(水)中間考査(～26日)
- 28(月)開校記念日
- 29(火)PT会、後援会総会 保護者会
- 6・5(火)球技大会(～6日)
- 15(金)二、三年、実力考査
- 16(土)三年、実力考査
- 23(土)吹奏楽部定演(狭山市民会館)
- 7・9(月)期末考査(～12日)
- 14(土)文化講演会「広島が私たちに教えるもの」肥田舜太郎氏
- 20(金)終業式
- 9・1(土)始業式
- 6(木)校内水泳大会

日本▶全斗煥韓国大統領来日。怪人21面相世間を騒がす。都はるみ「フツーのおばさんに」と引退。
 世界▶インド、ガンジー首相、シーク教徒に暗殺さる。C・ルイス、ロス五輪4冠。アフリカで飢餓深刻化。



ラグビー部の練習風景

必修クラブの時間に活動することは、現行制度上は不可能なことだからである。

議論は紆余曲折を経た結果、ラグビー同好会員は生物部に全員所属(必修クラブ時の活動が可能)し、金曜六限は遠征に出る(校外の市民グラウンドでの活動が可能)ということでのその活動を保証することとなった。まことに苦肉の策といえようか。

さて、そのラグビー同好会も翌一九八五年度末には、晴れて部昇格が認められる。しかし、本校のグラウンドが大変狭い関係で

他の運動部との調整が難航した。また、部昇格の規定には、同好会としての活動実績を四年としてあるが、これを二年と改めた上での昇格だったために批判もないわけではなかった。

緑化推進同好会ができる

前年度末に職員会議で了承された同好会「緑化推進会」がその活動を本格的にスタートさせた。これは、本田技研狭山工場が一九七七(昭和五二)年から行ってきた「ふるさとの森作り」が成功したことに魅せられた生徒が、有志を募って始めたものである。この森作りは、その土地にあった常緑広葉樹を高密度植林し、最初の二年間ぐらいう草取りに手間と費用をかければ、後は管理はほとんど要らなくなるというものである。

「緑化推進会」の生徒たちは、これにならって学校の周囲を樹木のベルトで囲もうというのである。折しも埼玉県は県内教育機関の緑化推進に取り組むことを決め、「学校緑化推進委員会」を設置したところであり、まことにタイムリーな同好会の発足であった。

- 7(金)同窓会講演会「人類の将来と核軍縮問題」松本博一(中37)氏
- 8(土)くすのき祭(9日)
- 19(水)一〜三年、実力考査
- 20(木)三年、実力考査
- 10・16(火)陸上競技大会
- 22(月)中間考査(25日)
- 11・6(火)修学旅行(10日)
- 9(金)三年、実力考査(10日)
- 16(金)緑化推進同好会が運動場隅にネズミモチを植える
- 22(木)強歩大会 正丸〜越生三〇キロ
- 25(日)同窓会秋季散策会(全見百八)
- 12・3(月)保護者面談
- 4(火)一年生視聴覚室にて上原まりの筑前琵琶を鑑賞
- 13(木)期末考査(17日)
- 24(月)終業式
- 1・4(金)スキー教室(7日、菅平高原スキー場)
- 8(火)始業式
- 30(水)三年、学年末考査(2/2)
- 2・1(金)一、二年、実力考査
- 28(木)入学志願者学力検査
- 3・8(金)予餞会(山本コウタロー)
- 9(土)第三七回卒業式
- 11(月)学年末考査(14日)
- 16(土)入学説明会
- 23(土)終業式

音楽部、テニス部が全国大会出場。

十一月二十二日、長野市の県民文化会館大ホールで行われた第三八回全日本合唱コンクール全国大会に、本校音楽部は関東支部代表として初出場した。NHKコンクールでは、一九六四(昭和三九)年に全国優勝を果たしたものの、この全日本合唱コンクールでは、初めての全国大会出場であった。埼玉県予選、関東支部予選という激戦区を勝ち抜いての出場である。

午後からのBグループ二〇校の演奏では、女性合唱が多い中で、本校は量感のある迫力に満ちた男声合唱を披露したが、残念ながら優良賞に終わった。しかし、審査発表が午後七時頃までずれ込むという大激戦であった。翌年、第三九回大会にも、みごと全国大会連続出場を果たした。十一月二十二日、愛媛県松山市の愛媛県民文化会館での全国大会に臨んだ。選択曲「ボメラニヤ

の人々」、自由曲「こびらっふの独白」を歌い、力強い男声のハーモニーで見事銀賞に輝いた。発表後、暗くなった松山の空には川越高校の校歌が響き渡り、顧問の小高先生の体が何度も宙に舞った。

岡村和夫氏講演

十二月十九日、NHK解説委員で本校OBの岡村和夫(中45)による講演会が開かれた。これは、前年度から始まった同窓会主催の講演会である。同窓の先輩を招き、現役の生徒に話をしてもらおうというものである。岡村和夫は同窓会長、岡村了一(中43)の実弟であり、多忙なスケジュールを差し繰って本校生徒のために来校してくれた。「戦後四十年日本の選択」と題して、二時間近く熱弁をふるった。具体的な数字、日時、エピソードなどを引用した豊



全国大会で力強いハーモニーを響かせる音楽部

- 4・1(月)第二六代校長小室英夫氏就任
- 8(月)始業式 入学式
- 9(火)対面式
- 15(月)離任式
- 27(土)新入生歓迎会
- 5・12(日)同窓会総会
- 15(水)遠足
- 22(水)中間考査(了25日)
- 27(月)PT会、後援会総会 保護者会
- 28(火)開校記念日
- 6・4(火)球技大会(了5日)
- 14(金)二、三年、実力考査
- 15(土)三年、実力考査
- 7・9(火)期末考査(了12日)
- 13(土)文化講演会「海洋汚染と東京

日本▶豊田商事永野会長刺殺さる。日航ジャンボ機御巣鷹山に墜落、520人死亡。G5で円高時代へ。
 世界▶ゴルバチョフ書記長就任、ベレストロイカ始まる。ヴァイツゼッカー西独大統領、敗戦記念日に演説。

文化講演会と同窓会講演会の歴史

年度	文化講演会		同窓会講演会		
	講師	演題	講師		演題
1983	柴田鉄治	朝日新聞社 21世紀に活躍するあなたがたへ			
1984	肥田舜太郎	被団協医師 広島が私たちに教えるもの	松本博一	中37	人類の将来と核軍縮問題
1985	田尻宗昭	海上保安庁 海洋汚染と東京湾	岡村和夫	中45	戦後40年日本の選択
1986	加太こうじ	風俗評論家 下町の文化と私の生き方	佐々木忠一	中32	異文化コミュニケーションの基本課題
1987	響田隆史	朝日新聞論説委員 現代世界の権因—いま世界は	関根 毅	高6	医学と心
1988	松谷みよ子	民話作家 民話の世界	岡村了一	中43	私と憲法との出会い
1989	稲葉三千男	東京国際大学教授 現代マスコミ事情	島野昌甫	高7	国際化時代を生きる—私とアメリカ
1990	目崎茂和	三重大学助教授 サンゴの海—地球環境汚染と珊瑚礁—			中止
1991	西澤潤一	東北大学学長 これからの科学技術			中止
1992	興津 要	早稲田大学教授 ゆたかな心、ゆたかな言葉	野上 正	中37	日中国交正常化20年に向けて
1993	小島延夫	高30 日本経済の国際化と私たち			
1994	奥泉 光	高26 現実はいひとつではない			
1995	村瀬幸浩	一橋大学講師 青年期と性			

*1993年から文化講演会と同窓会講演会が一本化された。*1996年からは体育館工事のため休止されている。

豊富な内容、グローバルな観点からの分析に、生徒は深い感銘を受けたようで、講演終了後は万雷の拍手で応えていた。

テニス部全国選抜大会へ

三月二十八日、本校テニス部は愛知県体育館で行われた全日本高等学校校団体選抜軟式庭球大会に出場した。出場選手は、二年生の山下、吉田、東海、森田、深民と、一年生の巨、大川、綱川の八名であった。この大会は全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭二四チームによって戦われる選抜大会であった。

本校は、関東地区予選で苦戦しながらも代表決定戦で千葉商科大学附属高校を2対1で退けての全国大会出場であった。

全国大会では一回戦で九州工業高校と対戦し惜しくも敗れたが、激戦を勝ち抜いての全国大会出場は称賛に値するものであった。



開会式での入場行進

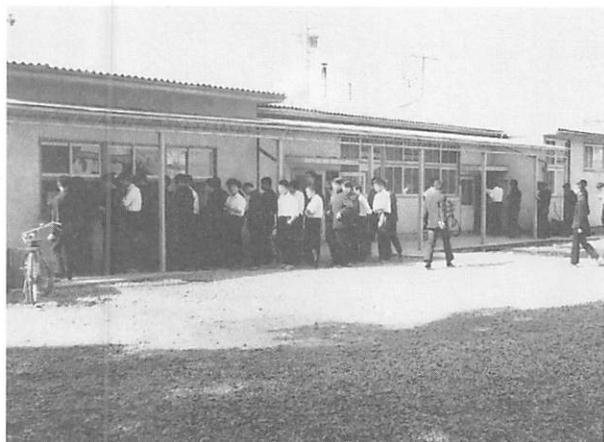
「湾」田尻宗昭氏

- 20 (土) 終業式
- 9・2 (月) 始業式
- 7 (土) くすのき祭(8日)
- 20 (金) 一、二年、実力考査
- 21 (土) 三年、実力考査
- 10・2 (水) 陸上競技大会
- 23 (水) 中間考査(26日)
- 11・2 (土) 修学旅行(6日)
- 8 (金) 三年、実力考査(9日)
- 10 (日) 同窓会秋季散策会(秩父)
- 22 (金) 強歩大会
- 12・3 (火) 保護者会
- 13 (金) 期末考査(17日)
- 18 (水) 芸術鑑賞会 演劇「スカパンの悪たくみ」(市民会館)
- 19 (木) 同窓会講演会「戦後四十年日本の選択」岡村和夫(中45)氏
- 1・4 (土) スキー教室(7日)
- 8 (水) 始業式
- 29 (水) 三年、学年末考査(2/1)
- 31 (金) 一、二年、実力考査
- 2・27 (木) 入学志願者学力検査
- 3・8 (土) 予餞会(吉田照美)
- 10 (月) 第三八回卒業式
- 11 (火) 学年末考査(14日)
- 17 (月) 入学説明会
- 24 (月) 終業式

新食堂が開店、人気は上々。

十二月に新食堂がオープンした。これまで、構内の西隅に独立した建物としてあったもの（一九六〇年に定時制の給食施設として建てられ、以来、全日制の生徒にも利用されてきた）が、このたび通称「谷間の新館」の中にある会議室を改装して移されたのである。これは、次年度から三年間にわたって学級増（三学級）が行われる関係で、旧食堂の跡地に二教室分のプレハブ仮設教室を建てるためであった。

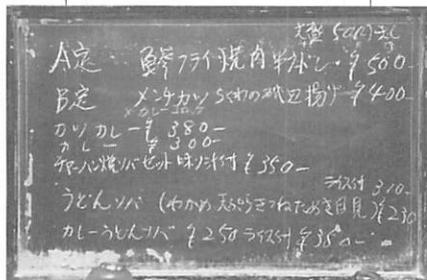
新食堂は、明るく清潔で床の材質もアツトホームな感じを与えるものである。広いスペースに一五〇席がゆったりと配されている。メニューも増えてなかなかの人気のようである。メニューの一部を紹介しよう。
 きつねうどん一九〇円、かき揚げうどん二四〇円、玉子ラーメン二三〇円、メンチカレー二八〇円、日替り定食四〇〇円。



取り壊される前の旧食堂

国旗掲揚塔設置さる

学習指導要領の改訂により「特別活動」の指導において「入学式、卒業式などの儀



「本日のメニュー」(1998)。開店当時と比較すると……

- 4・8(火) 始業式 入学式
- 9(水) 対面式
- 26(土) 新入生歓迎会
- 5・11(日) 同窓会総会
- 13(火) 遠足
- 21(水) P.T会、後援会総会 保護者会
- 23(金) 中間考査(〜27日)
- 28(水) 開校記念日
- 6・3(火) 球技大会(〜4日)
- 13(金) 二、三年、実力考査
- 14(土) 三年、実力考査
- 7・8(火) 期末考査(〜11日)
- 15(火) 臨時生徒総会
- 文化講演会「下町の文化と私の生き方」加太こうじ氏
- 9・1(月) 始業式
- 19(土) 終業式 臨時生徒総会
- 4(木) 校内水泳大会
- 13(土) くすのき祭(〜14日)
- 19(金) 一〜三年、実力考査

日本▶衆参同日選で自民圧勝。地価高騰。三原山大噴火で全島民避難。ビートたけし「フライデー」に殴り込み。
 世界▶スペースシャトル爆発、乗員7名全員死亡。ハレー彗星76年ぶり大接近。チェルノブイリ原発大事故。

式等においては、日本人としての自覚を養い、国を愛する心を育てるとともに、すべての国の国旗及び国歌に等しく敬意を表する態度を育てる観点から、国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱するよう指導するものとする」とされ、県教育委員会では、国旗掲揚塔の未設置校一七校に対して夏休み中に設置することを決定した。

本校にも設置場所を五月中旬に報告するようにとの通知があった。これを受けて、その是非をめぐり教職員や生徒会での議論が活発に行われた。新聞部も「川越高校新聞」で特集記事を組み「日の丸、君が代問題」を投げかけている。しかし、結局は県の既定方針通り、夏休み中に校庭南西隅体育館側に設置が完了した。

くすのき祭にシンクロ登場

今や、くすのき祭の花?とも言える水泳部のシンクロノイズドスイミングが、この年から始まった。非公式参加のため、ゲリラ的にプールで演技を行ったようである。翌年は公式参加ではあったものの、むしろ食品販売などに力を入れたため、まだ演技名称はなかった。

一九八八年「水の踊り子」が現在の形での初参加といえる。その後現在までの演技名は表の通りである。今では完全にくすのき祭の呼び物となり、なかには、これだけを見に来る人もいるということである。



水泳部の見事な演技

シンクロの歩み	
年度	演技名称
1986	非公式参加
1987	公式参加(名称なし)
1988	水の踊り子
1989	真黒ボーイズ
1990	おしんくろ
1991	セクシーダイナマイトスイマーズ
1992	幻影的泳舞隊(ミラージュスイマーズ)
1993	マーメイドのこんがりトースト'93
1994	純泳吟舞
1995	埼玉県立川越水族館
1996	マリモダイビングスクール'96
1997	身黒'97
1998	Love & Peace

- 20 (土)三年、実力考査
- 10・1 (水)陸上競技大会(降雨のため中止
第三限より平常授業)
- 6 (月)陸上競技大会
- 22 (水)中間考査(〜25日)
- 26 (日)同窓会秋季散策会(平林寺)
- 11・6 (木)修学旅行(〜10日)
- 7 (金)三年、実力考査(〜8日)
- 19 (水)強歩大会(吾野中↓横瀬町グラ
ンド)
- 12・1 (月)一、二年、保護者会(〜3日)
- 11 (木)期末考査(〜15日)
- 16 (火)同窓会講演会「異文化コミュニ
ケーションの基本課題」佐々木
忠一(中32)氏
- 17 (水)芸術鑑賞会「打楽器と琴の演
奏」(市民会館)
- 24 (水)終業式
- 1・4 (日)スキー教室(〜7日、菅平高原
スキー場)
- 8 (木)始業式
- 28 (水)三年、学年末考査(〜31日)
- 30 (金)一、二年、実力考査
- 26 (木)入学志願者学力検査
- 2・7 (土)予餞会(ラサール石井)
- 10 (火)第三九回卒業式
- 11 (水)学年末考査(〜14日)
- 17 (火)入学説明会
- 24 (火)終業式

学級増で「一年K組」登場。 入学試験に面接導入される。

本年度入学の新一年生より、本校開校以来初の「一年K組」となり、「一年K組」という聞き慣れないクラス名が登場する。

昭和四十年代後半から六十年にかけて、県立高校を倍増させた埼玉県も、今後五年程の生徒急増期はクラス増で乗り切ることにしたのである。これ

は、その後生徒数の減少が見込まれ、これ以上学校数を増やすことは良策でないと判断したからである。



開校以来初の「1年K組」出現

本校では、この後一九九〇(平成二年)度まで新一年生は「一年K組」となった。一九八九年、九〇年度は全校三三クラスとなり、教職員数も九〇名を超える大所帯となったのである。この間、食堂移設(246頁参照)の跡地に建てられたプレハブ二教室を二年生の二クラスが使うこととなる。夏は暑く、冬寒いうえに、隣の教室の音が漏れるという悪環境にもめげず生徒は勉学に精出したのである。

入学試験に面接

二月二十五日、二十六日の二日間にわたり、入学試験が行われた。本年度より二日間になったのは、初日に学科試験を行い、二日目に入学志願者全員に対して面接を実施するためである。これは、県教育委員会が、一九八五年度より「希望する学校にあ



凱旋門を模したくすのき祭入場門。この年のテーマは「炸裂・脳みそ仲間」

- 4・1(水)第二七代校長渋谷健氏就任
- 8(水)始業式 入学式
- 9(木)対面式
- 5・10(日)同窓会総会
- 12(火)遠足
- 20(水)PT会、後援会総会 保護者会
- 23(土)中間考査(〜27日)
- 28(木)開校記念日
- 6・2(火)球技大会(〜3日)
- 12(金)二、三年、実力考査
- 13(土)三年、実力考査
- 7・8(水)期末考査(〜11日)
- 13(月)文化講演会「現代世界の構図―いま世界は」 轡田隆史氏
- 20(月)終業式
- 9・1(火)始業式 防災訓練

海外留学が制度化される。 一年生の博物館見学始まる。

前年度末三月二十二日に「埼玉県高等学校通則」の一部改正が公布され、四月一日より施行されることとなった。それにとともに、本校でも「学則」が改正され「留学願」の様式が定められた。

改正の要点は、留学先での修得単位を在籍校での修得単位とみなすことができるようになったことである。これにより、従来「休学願」を提出し留年覚悟で留学していたのが、「留学願」の提出により三年間での卒業が可能になったのである。国際化が叫ばれる中で、高校生に、その視野を広げる機会を少しでも保証しようということである。

本校でも、この年度三件の「留学願」が提出され受理された。一年生一名、二年生二名である。留学先はアメリカとカナダであった。一、二年生での留学は、この改正

によって三年間での卒業が可能になったが、三年生での留学は学校年度の違いにより、どうしても卒業が七月にずれ込んでしまうこととなる。

博物館見学始まる

十一月十七日、一年生は東京上野の国立科学博物館へ見学に出かけた。これは、昨年の試行に始まるもので、本年度より学校行事に定着させようというものである。この時期は、二年生の修学旅行と三年生の実力テストとが重なり、授業確保が難しい面もあり、博物館見学を実施するにはよい時期と言える。

見学は、あくまでも学習の一環であるので、単なる物見遊山に終わらぬようレポートの提出が義務付けられている。この学校行事はその後完全に定着し、現在も実施さ



京都御所・紫宸殿を模したくすのき祭入場門。テーマは「川越城下に火をつける」

- 4・8(金) 始業式 入学式
- 9(土) 対面式
- 15(金) 離任式
- 5・7(土) 新入生歓迎会
- 8(日) 同窓会総会
- 11(水) 遠足
- 18(水) P.T会、後援会総会 保護者会
- 24(火) 中間考査(～27日)
- 27(金) 日本テレビの部活動取材あり
- 28(土) 開校記念日
- 6・6(月) 球技大会(～7日)
- 10(金) 二、三年、実力考査
- 11(土) 三年、実力考査
- 7・8(金) 期末考査(～12日)
- 13(水) 文化講演会「民話の世界」松谷みよ子氏
- 9・1(木) 始業式
- 20(水) 終業式
- 7(水) 校内水泳大会
- 10(土) くすのき祭(～11日)

日本▶瀬戸大橋開通。牛肉、オレンジ自由化。リクルート疑惑。青函トンネル開業、連絡船消える。
 世界▶EC、COMECON公式関係樹立。ソ連、アフガニスタンより撤兵開始。イラン・イラク戦争停戦。

れている。



東京上野の国立科学博物館で

コンピューター管理委員会

パーソナルコンピューターの普及により、本校でも理科、数学の各教科、進路指導部などで既に校務に利用されていた。今後ますます、その利用範囲が広がるのが予想され、これを放置しておく、情報管理や運用の効率性などの面で問題が生ずる怖れがあった。そこで、コンピューター管理委員会が組織されることとなった。

この委員会は、教務部、進路指導部、数学科、理科、事務室からの一名ずつの委員

で構成された。コンピューターの積極的な利用を促進するために職員研修を行うとともに、情報管理のあり方を研究し、機器の購入にあたっては、その互換性を追求していこうというものである。

平成と改元

一九八九(昭和六四)年一月七日、昭和天皇が死去し、翌一月八日より元号が平成と改められた。二月二十四日は「大喪の礼」のため学校は休校となった。



芸術鑑賞会は「寺田悦子ピアノリサイタル」だった

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------|----------------|-----------------|----------------|----------------------------|------------------------------------|------------------|---------------------|---------------|-----------|------------------|----------------------|--------------------|----------------------|------------|-----------------|--------------|-----------------|
| 24 (金) 終業式 | 16 (木) 入学説明会 | 10 (金) 第四一回卒業式 | 3 (木) 予餞会(小林完吾) | 27 (火) 入学志願者面接 | 25 (日) スキー教室(28日、上越国際スキー場) | 17 (土) 同窓会講演会「私と憲法との出会い」岡村了一(中43)氏 | 12 (月) 期末考査(15日) | 11 (金) 三年、実力考査(12日) | 10 (水) 陸上競技大会 | 9 (月) 始業式 | 8 (月) 保護者面談(29日) | 7 (月) 同窓会秋季散策会(黒山三滝) | 6 (月) 二年、修学旅行(18日) | 5 (木) 一年、上野国立科学博物館見学 | 4 (火) 強歩大会 | 3 (月) 中間考査(25日) | 2 (水) 陸上競技大会 | 1 (金) 一〜三年、実力考査 |
|------------|--------------|----------------|-----------------|----------------|----------------------------|------------------------------------|------------------|---------------------|---------------|-----------|------------------|----------------------|--------------------|----------------------|------------|-----------------|--------------|-----------------|

創立九十周年、新聞部頑張る。 大学入試センター試験始まる。

この年、本校は開校九十周年を迎えた。

きたる百周年に余力を残すべく、特別な記念事業等を行わないものの、同窓会、会員名簿「第一七号を発刊することとなった。

十年振りの刊行であり、すでに同窓生は二万四〇〇〇名を超えた。もはや手仕事での名簿編集作業は困難であるとの判断から、名簿発行専門業者に委託し、コンピュータによる処理をすることとした。前年五月に始まった編集作業は、およそ一年にわたり第二次調査まで行った。そして、七月、

たいへん判明率の高い名簿が出来上がった。

新聞部は、二〇ページからなる「川越高校新聞」第一八二号を刊行し、創立九十周年に関する特集記事を七面にわたって掲載した。まずは、「くすのきに刻まれた九十の年輪」と題して、本校の九十年の歴史を紹介している。また、紙上インタビュー

「高校生の海外留学」では、昨年から制度化された海外留学についてレポートしている。さらに、「情緒豊かな街『小江戸』川越」と題し最近観光スポット化しつつある我が町川越に触れ、最後は「青い地球」を蝕む文明発達と人類」として、地球環境問題にまで及んでいる。九十周年を機に、過去、現在、未来をみつめた堂々たる内容となっている。

新テスト実施

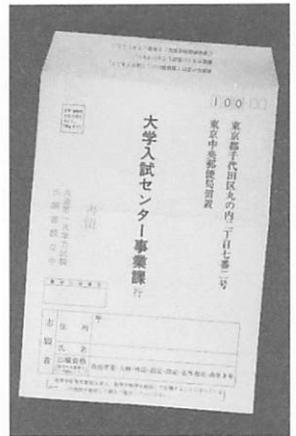
一月十三日、十四日の両日にわたり、大学入試センター試験(新テスト)が実施された。これは従来 of 共通一次試験に変わるものとして、本年度より新たに取り入れられたものである。マークシート方式などテストの形式、内容は同じだが、国・公・私立を問わず、すべての大学に、結果のより



同窓会会員名簿第17号

- 4・8(土) 始業式
- 10(月) 入学式
- 11(火) 対面式
- 22(土) 新入生歓迎会
- 5・10(水) 遠足
- 14(日) 同窓会総会
- 16(火) P.T会、後援会総会 保護者会
- 24(水) 中間考査(27日)
- 28(日) 開校記念日
- 6・6(火) 球技大会(7日)
- 16(金) 二、三年、実力考査
- 17(土) 三年、実力考査
- 7・8(土) 期末考査(12日)
- 13(木) 文化講演会「現代マスコミ事情」稲葉三千男氏
- 20(木) 終業式
- 9・1(金) 始業式
- 5(火) 校内水泳大会
- 9(土) くすのき祭(10日)

日本▶消費税実施。連続幼女誘拐殺人事件。株価史上最高値。参院選で与野党逆転。美空ひばり死去。
 世界▶第2次天安門事件。米ソ首脳マルタ島で会談、「新時代の到来」宣言。ベルリンの壁取り壊し。



入試センターへの出願用封筒

自由な利用を認める点で従来と異なっている。

共通一次試験は、十一年の長きにわたり実施されてきたが、大学序列の顕在化や、受験生に負担増を強い結果として国公立離れが進んだ。本校においても国公立離れは顕著であった。しかし、本年度の大学入試センター試験にあつては、本校の現役受験率は七〇割を超え、国公立合格者も八六人と、国公立離れには一応の歯止めがかかったと言つてよい。

新聞部、最優秀賞獲得

十二月十二日に行われた、「全国高校新聞コンクール」において、新聞部は最優秀賞に当たる朝日新聞社賞を獲得した。

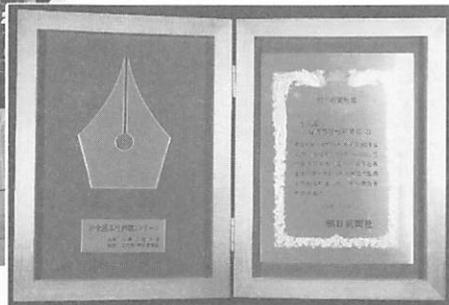
全国から二・三六紙の応募があつたこのコンクールに、新聞部は「創立九十周年記念

特別号」をもって参加した。巻頭特集で扱つた「悪徳商法問題」や「地球環境問題」での鋭い切り込みや、社会に開かれた目が高く評価されての受賞だつた。
 なお、翌年度もこのコンクールにおいて奨励賞を受賞し、二年連続での受賞となつた。



1990年の奨励賞受賞風景↑

朝日新聞社賞→



- 14 (木) 一〜三年、実力考査
- 16 (土) 三年、実力考査
- 10・13 (金) 陸上競技大会
- 22 (日) 同窓会秋季散策会(さきたま古墳)
- 11・23 (月) 中間考査(〜26日)
- 7 (火) 二年、修学旅行(〜11日)
- 10 (金) 一年、国立科学博物館見学三年、実力考査(〜11日)
- 22 (水) 強歩大会
- 29 (水) 水保護者会(〜30日)
- 11 (月) 期末考査(〜14日)
- 18 (月) 芸術鑑賞会演劇「さぶ」
- 20 (水) 同窓会講演会「国際化時代を生きる―私とアメリカ―」島野昌甫(高7)氏
- 22 (金) 終業式
- 24 (日) スキー教室(〜27日)
- 1・8 (月) 始業式
- 25 (木) 三年、学年末実力考査(〜29日)
- 31 (水) 一、二年、実力考査
- 2・1 (木) 雪のため五、六限カット
- 27 (火) 入学志願者学力検査
- 28 (水) 入学志願者面接
- 3・8 (木) 予餞会
- 10 (土) 第四二回卒業式
- 12 (月) 学年末考査(〜15日)
- 17 (土) 入学説明会
- 24 (土) 終業式

地学部探検隊、三年連続の快挙。

七月二十五日、夏季合宿中の地学部探検隊は、富士山麓の青木ヶ原樹海の最深部において新しい洞窟を発見した。三年連続での新洞窟発見の快挙であった。今回の洞窟は入り口の大きさはわずか直径五〇センチだが、奥行は約八〇メートルある。氷穴ということ



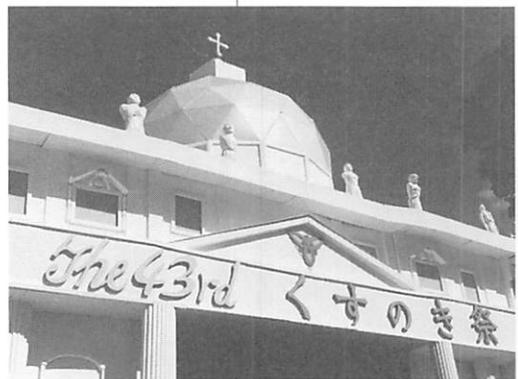
発見した新洞窟入り口で

で、中はたいへん涼しいという。

最初の発見は、一九八八年七月三十日のことであった。この日、青木ヶ原樹海で合宿中の地学部探検隊は、NHK、中央大学、東海大学、静岡大学、日本火山洞窟学協会等とともに洞窟探しを行った。そして、本校探検隊が、総延長二三〇メートルを超える新洞窟を発見した。その後、日本火山洞窟学協会により「神座川越風穴」と命名された。前年は、八月十五日に同じく合宿中の青木ヶ原樹海において新洞窟を発見した。入り口の部分は高さが約二メートル、奥行は僅に五〇メートルを超えるというものであった。

国公立離れ再び加速

前年度から始まったセンター試験も二年目を迎えた。昨年のセンター試験受験者および国公立大学合格者は大きく増加したが、



サン・ピエトロ聖堂(ぐすのき祭入場門)

- 4・9(月)始業式 入学式
- 10(火)対面式
- 21(土)新入生歓迎会
- 5・9(水)水遠足
- 13(日)同窓会総会
- 15(火)PT会、後援会総会 保護者会
- 23(水)中間考査(26日)
- 28(月)開校記念日
- 6・6(水)球技大会(7日)
- 15(金)二、三年、実力考査
- 16(土)三年、実力考査
- 7・9(月)期末考査(12日)
- 13(金)文化講演会「地球環境汚染と珊瑚礁」目崎茂和氏
- 20(金)終業式

日本▶バブルはじける。本島長崎市長撃たれる。即位の礼、正殿の儀。協和・埼玉銀行合併、あさひ銀行に。
 世界▶ゴルバチョフ、ソ連大統領に。ペルー大統領に日系二世フジモリ氏当選。東西ドイツ統一。

今年は一昨年並みに後退したようである。

原因の一つに、センター試験の平均点が大幅にダウン(前年より三〇点減)したため、足切りを恐れて私大へ流れた受験生が多かったことがあげられる。

また、もう一つは三教科による私大型入試を選択した国・公立大学が五八大学九一学部にもおよんだことがあげられる。国公立離れに歯止めをかけるための選択であったはずが、皮肉なことに受験生が私大に流れる遠因となってしまった。

本校においては、国公立文系志望者の中に首都圏の私大へ志望変更するものが多かったようである。

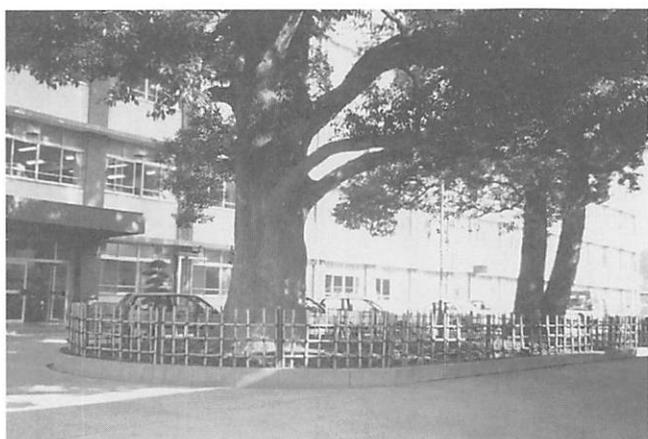
しかし、毎年、猫の目のように変わる受験制度、そして、それに振り回される受験生。特に浪人生にとっては、深刻な問題であった。

くすの木に外柵

九月三十日、川越高校のシンボルであるくすの木に外柵が施された。美観を損なわないようにとの配慮から竹の柵となっている。くすの木の周りは以前から壇になっていたが、ここに足を踏み入れる者が少な

らずおり、くすの木保護のため、このたびの外柵工事となったようである。

本校の歴史を見続けてきたくすの木、その太くたくましい姿は不死身にさえ感じられるが、そこは生き物、根を踏み固められては寿命も縮むであろう。川高新聞も「距離ができたようで寂しい気もするが、我々のくすの木への気配りの欠如の現われとして受け入れようではないか」と述べている。



外柵で囲まれたくすの木

- 9・1(土) 始業式
- 5(水) 校内水泳大会
- 8(土) くすのき祭(9日)
- 21(金) 一、三年、実力考査
- 22(土) 三年、実力考査
- 10・16(火) 陸上競技大会
- 21(日) 同窓会秋季散策会(多摩川溪谷)
- 24(水) 中間考査(27日)
- 11・6(火) 二年、修学旅行(10日)
- 9(金) 一年、国立科学博物館見学
三年、実力考査(10日)
- 12(月) 即位礼正殿の儀により休校
- 22(木) 強歩大会
- 29(木) 保護者会(30日)
- 12・11(火) 期末考査(14日)
- 19(水) 芸術鑑賞会「漆原啓子バイオリ
ンリサイタル」
- 22(土) 終業式
- 25(火) スキー教室(28日)
- 1・8(火) 始業式
- 25(金) 三年、学年末考査(29日)
- 31(木) 一、二年、実力考査
- 2・27(水) 入学志願者学力検査
- 28(木) 入学志願者面接
- 3・7(木) 予餞会(清水国明)
- 9(土) 第四三回卒業式
- 11(月) 学年末考査(14日)
- 18(月) 入学説明会
- 23(土) 終業式

初代AET、 M・オーライト先生着任。

一学期より、Assistant English Teacher (通称AET)として、イギリス人のマシュー・オーライト先生が着任した。AETは日本語では「英語指導助手」と呼ばれ、英語教育の手助けと国際親善を深めることを目的として、文部省、県教育委員会が招くものである。その後、第二外国語の講座を開設している高校で英語以外の指導助手も招いたので、ALT (Assistant Language Teacher) と呼ばれるようになった。

先生は、マンチェスター大学を卒業した二二歳の若者である。来日当初は、日本の家庭に滞在して、日本の文化、風習、生活様式を理解してもらう必要がある。本校では、八月二日から一、三か月程度のホームステイ先を、在校生徒の家庭から募ることにした。保護者への文書による呼びかけに

二件の申し出があり、そのうちの二軒にお願いすることになった。三か月程のホームステイを経て、学校近くのアパートで一人暮らしを始めることになる。先生は、授業はもちろんのこと、学校行事にも積極的に参加し、生徒との交流を大いに深めてくれた。マットの愛称で呼ばれた先生が本校を去ったのは、一九九三(平成五)年七月である。その後現在までにケイト・カウワン、マーク・ゴールドバーク、パトリシア・マクネアー、マーティン・ペイン、カペナ・フラムと五名のALTを迎えている。

西澤潤一氏来校

七月十八日、本校体育館において、東北大学学長西澤潤一氏を招いての文化講演会が開かれた。超多忙なスケジュールの間をぬつての来校であったが、これからの科



くすのき祭で熱唱するオーライト先生

- 4・1月 第二八代校長鈴木良栄氏就任
- 8月 始業式 入学式
- 9月 対面式
- 15月 離任式
- 5・12月 同窓会総会
- 15月 水)PT会、後援会総会 保護者会
- 16月 木)遠足
- 18月 土)新入生歓迎会
- 23月 木)中間考査(27日)
- 28月 火)開校記念日
- 6・5月 水)球技大会(6日)
- 14月 金)二、三年、実力考査
- 15月 土)三年、実力考査
- 7・9月 火)期末考査(12日)
- 18月 木)文化講演会「これからの

日本▶東京新都庁舎開庁。雲仙・普賢岳で大火砕流発生。証券会社損失補填発覚。
 世界▶湾岸戦争勃発。南ア、アパルトヘイト終結。ソ連邦消滅、独立国家共同体誕生。南・北朝鮮国連同時加盟。

古典ギター部金賞

九月十六日、東京の立川市民会館で行われた全日本ギターコンクールで、古典ギター

「学技術」と題し、我が国の半導体産業やエネルギー問題について熱弁をふるわれた。事前に配布された資料に基づいた、実に具体的でわかりやすい講演であった。
 また、学術研究における独創性の重要性を熱心に説かれた。生徒は大いに感銘を受けたようで、この年の東北大学受験者が倍増した。



西澤潤一氏の講演は生徒たちに大きな感銘を与えた



全国コンクールで金賞を獲得した古典ギター部の定期演奏会

一部が見事金賞を獲得した。昨年、一昨年の銀賞に続いての受賞である。演奏曲はヘンデル作曲の「合奏協奏曲口短調op・6-12」より、ラルゴ、アレグロであった。
 この後、古典ギター部は一九九三年、九四年、九五年、九七年と、同大会で最優秀賞を獲得。九六年には全国高等学校総合文化祭の埼玉県代表となっている。

科学技術「西澤潤一氏

- 20 (土) 終業式
- 9・2 (月) 始業式
- 5 (木) 校内水泳大会
- 7 (土) くすのき祭(〜8日)
- 13 (金) 一〜三年、実力考査
- 14 (土) 三年、実力考査
- 10・16 (水) 陸上競技大会
- 20 (日) 同窓会秋季散策会(御嶽山)
- 23 (水) 中間考査(〜26日)
- 11・6 (水) 二年、修学旅行(〜10日)
- 8 (金) 一年、国立科学博物館見物
三年、実力考査(〜9日)
- 19 (火) 強歩大会
- 28 (木) 保護者会(〜29日)
- 12・11 (水) 期末考査(〜14日)
- 18 (水) 芸術鑑賞会演劇「町人貴族」
- 24 (火) 終業式
- 25 (水) スキー教室(〜28日)
- 1・8 (水) 始業式
- 25 (土) 三年、学年末考査(〜29日)
- 31 (金) 一、二年、実力考査
- 2・27 (木) 入学志願者学力検査
- 28 (金) 入学志願者面接
- 3・9 (月) 予餞会(松尾貴史)
- 10 (火) 第四回卒業式
- 11 (水) 学年末考査(〜14日)
- 17 (火) 入学説明会
- 23 (月) 終業式

陸上競技大会、校外開催となる。 第二土曜日が休業日となる。

十月二日、恒例の全校生徒による陸上競技大会が上尾陸上競技場で行われた。陸上競技大会を校外で実施するのは、初めての試みである。

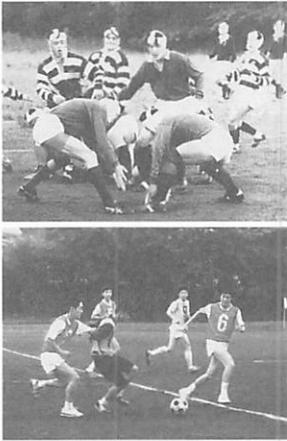
これは、本校グラウンドが手狭なことに加え、例年この時期は天候に恵まれず、グラウンドコンディションが良くないということによるものである。当日も、午前中は雨模様であったが、そこは全天候型トラックの強み、競技は予定通り進行された。

午後には雨も上がり、各競技に熱戦が展開され、応援も盛り上がりを見せた。四〇〇メートルトラックになったこともあり、新記録が続出した(翌年からは、川越運動公園陸上競技場に会場を移して現在に至っている)。

松高定期戦

六月十七日、川越初雁球場で松山高校と

の第一回定期戦(一九五〇年に一度だけ行われた)の開会式が行われた。今回は、松高生徒会からの呼びかけに本校生徒会が応える形で実現したものである。当日は、開会式に引き続き野球部の試合が行われた。七月十四日には、松山高校において残りのすべての試合が行われた。部活動の試合のほか、有志によるバレーボール、サッカー、軟式野球、ソフトボール、ドッチボール等が行われた。あいにくの雨模様の天気であったが、各所で熱戦が繰り広げられた。



松高定期戦、雨中の熱戦



上尾陸上競技場での陸上競技大会

- 4・8(水)始業式 入学式
- 9(木)対面式
- 15(水)離任式
- 18(土)新入生歓迎会
- 5・10(日)同窓会総会
- 13(水)PT会、後援会総会 保護者会
- 14(木)遠足
- 23(土)中間考査(27日)
- 28(木)開校記念日
- 6・3(水)球技大会(4日)
- 12(金)二、三年、実力考査
- 13(土)三年、実力考査
- 17(水)松山高校定期戦(初雁球場)
- 7・8(水)期末考査(11日)
- 14(火)松山高校定期戦(松高)
- 15(水)文化講演会「ゆたかな心・ゆたかな言葉」興津要氏
- 20(月)終業式
- 9・1(火)始業式

日本▶貴花田大相撲最年少優勝。PKO協力法成立。東京佐川急便事件。天皇訪中。松本清張死去。
 世界▶マーストリヒト条約(欧州連合条約)調印。ユーゴスラヴィア解体。「地球サミット」開催。

一般公開もしたが、PR不足と悪天候のためわずかの観客であった。

松高生徒会の発案で始まった定期戦であったが、運動部中心であったため、文化部の生徒が参加しにくい面があり、盛り上がりには欠けるままに、この後わずか三年で中止されてしまった。

川高新聞第二〇〇号

「川越高校新聞」が十一月十七日に、創刊第二〇〇号を発行した。新聞部は、一九五〇(昭和二十五)年四月に創設され、同年七月十八日に創刊号を発行した。それから四十二年間にわたり二〇〇号を発行してきたのである。

この間、一九八九(平成元)年には、全国高校新聞コンテストで最優秀賞にあたる朝日新聞社賞を受賞するなど、つねに質の高い新聞を発行し続けてきた。

水泳大会中止

本年度、校内水泳大会が中止となった。水泳大会は、一九六二(昭和三七)年に本校の東側にある市営プールを借りて始まった。一九六六(昭和四一)年からは、本校に完成

した五〇坪の公認プールを使って行われてきた。

この年から中止になった理由としては、くすのき祭と時期が重なり、生徒、教師ともに忙しすぎることに、夏休み明けでプールから遠ざかっており、練習量も少なく危険があることが上げられる(その後、一九九六年から一年生の学年行事として時期を七月に移して復活する)。

土曜休業始まる

二学期より第二土曜日が休業日となった。これは社会の変化に対応すべく、学校週五日制をめざす文部省が、その第一段階として実施に踏み切ったものである。三月末の通達でその実施が伝えられ、二学期から実施という、まことに慌しいものであった。

幸いにも本年の第二土曜日は、九月がくすのき祭、十月が体育の日、十一月が県民の日、十二月と三月が定期考査週間と重なり、授業への影響はほとんどなく、特別の措置は講ずる必要がなかった。しかし、翌年度からは、金曜日の第六時限に土曜日の授業を一時間ずつ振り替えていく措置がとられることになった。

- 12 (土) くすのき祭 (13日)
- 18 (金) 一、三年、実力考査
- 19 (土) 三年、実力考査
- 10・2 (金) 陸上競技大会 上尾陸上競技場
- 18 (日) 同窓会秋季散策会(入間加治丘陵)
- 21 (水) 中間考査 (24日)
- 11・6 (金) 一年、国立科学博物館見学
 二年、修学旅行 (10日)
 三年、実力考査 (7日)
- 24 (火) 保護者会 (25日)
- 26 (木) 強歩大会
- 12・10 (木) 期末考査 (15日)
- 17 (木) 同窓会講演会、日中国交正常化
 20年に当って「野上正(中37)氏
 リサイタル」
- 21 (月) 芸術鑑賞会「長谷川陽子チエロ
 リサイタル」
- 24 (木) 終業式
- 25 (金) スキー教室 (28日、万座温泉
 スキー場)
- 1・8 (金) 始業式
- 25 (月) 三年、学年末考査 (28日)
- 29 (金) 一、二年、実力考査
- 2・25 (木) 入学志願者学力検査
- 26 (金) 入学志願者面接
- 3・8 (月) 予餞会
- 9 (火) 第四五回卒業式
- 10 (水) 学年末考査 (15日)
- 17 (水) 入学説明会
- 24 (水) 終業式

推薦入学制度始まる。 くすのき祭、NHKで全国放映。

一月二十六日、本校初の推薦入学試験が実施された。これは従来から職業高校で行われ、普通科の一部にも導入されていたものを、本年度より全ての県立高校で実施するものである。募集人員は定員の二〇〇程度とすることが定められている。

従来の入学試験と大きく異なるのは、学力検査を行わないことである。入学者の選抜は、面接と中学校から送られてくる調査書をもとに行われる。また、事前に頒布される募集要項には、学校独自の推薦条件が明記され、これに該当する生徒を中学校が推薦して行くことになっている。

志願者は三二五名に上り倍率は三・五倍を超えた。最終合格者は九二名であった。

文化祭がテレビ放映

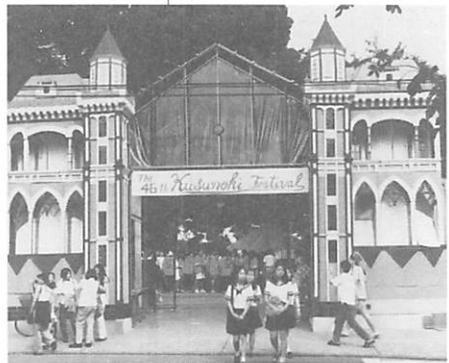
九月二十五日、NHK教育テレビで本校

の「くすのき祭」が大々的に放映された。

これは、くすのき祭実行委員会がNHK教育テレビの番組「ファイト」に取材を持ち掛けたものである。この番組は、二チームによる対決形式を取った番組で、「川高vs松高」の形で放映された。取材は六月二十五日の松高との定期戦から始まり、八月末のくすのき祭実行委員の合宿からくすのき祭の当日まで行われた。九月十九日にはスタジオ収録が行われ、二十五日の放映となったものである。



くすのき祭の取材に訪れたルー大柴



NHKに取材されたくすのき祭の門(ブタベスト西駅)

- 4・8(木) 始業式 入学式
- 9(金) 対面式
- 17(土) 新入生歓迎会
- 5・9(日) 同窓会総会
- 12(水) P.T会、後援会総会 保護者会
- 13(木) 遠足
- 24(月) 中間考査(27日)
- 28(金) 開校記念日
- 6・2(水) 球技大会(4日)
- 18(金) 二、三年、実力考査
- 19(土) 三年、実力考査
- 25(金) 松高定期戦
- 7・7(水) 期末考査(12日)
- 15(木) 一、二年、芸術鑑賞会(国立劇場)歌舞伎「彦山権現誓助剣」
- 16(金) 三年、芸術鑑賞会(国立劇場)
- 20(火) 終業式

日本▶ Jリーグ発足。第40回総選挙、「55年体制」崩壊。コメ凶作、戦後最悪。田中角栄死去。
 世界▶ EC統合市場発足。イスラエル・PLO、パレスチナ暫定自治協定に調印。

番組はルー大柴の司会で進められ、最後に東京理科大学教授の秋山仁氏をはじめとする審査員によって勝敗を決するというものであった。残念ながら、勝利は松高に帰したが、番組を見ていた生徒、保護者には不満もあつたようである。そもそもは勝敗を競うという設定にも無理があつたようである。

新聞部によれば、生徒の八割五分が番組を見ており、生徒の多くは「テレビ番組は事の断片しか伝えず、必ずしも真実を伝えているわけではない」ということを改めて勉強させられたということである。

芸術鑑賞会が七月に

七月十五日、十六日の両日、東京三宅坂にある国立劇場で芸術鑑賞会が行われた。これまで芸術鑑賞会は、二学期の期末考査後に行われていたため、三年生の参加がむずかしかつたので、本年より一学期の期末考査後に実施することになったものである。今年、歌舞伎鑑賞で「彦山権現誓助剣」を鑑賞した。

これは、埼玉県教育委員会なども後援し、毎年六、七月に国立劇場で行っている学生

向けの「歌舞伎鑑賞教室」を利用したものである。

上演に先だつて「歌舞伎の見方」として、初心者向けのていねいな解説がある。またイヤホンガイドを借りることができ、解説を聞きながら鑑賞することができる。初めて歌舞伎を見る者でもその楽しさを十分味わうことができるようになっていいる。これで少しでも歌舞伎に興味を持つ者が増えれば、日本の伝統芸能保護の上からもその意義は大きいと言える。

本校では、音楽、演劇、伝統芸能の順番で毎年芸術鑑賞会を実施しており、在学中に一度は伝統芸能にふれる機会が設けられている。



歌舞伎教室のパンフレット

- 9・1(水) 始業式
- 11(土) くすのき祭(12日)
- 17(金) 一〜三年、実力考査
- 18(土) 三年、実力考査
- 10・3(日) 同窓会秋季散策会(巾着田)
- 7(木) 陸上競技大会(川越運動公園陸上競技場)
- 11・6(土) 二年、修学旅行(10日)
- 22(金) 中間考査(26日)
- 9(火) 一年、国立科学博物館見学
- 25(木) 強歩大会
- 29(月) 保護者会(30日)
- 12・10(金) 期末考査(15日)
- 18(土) 文化講演会「日本経済の国際化と私たち」小島延夫(高30)氏
- 24(金) 終業式
- 25(土) スキー教室(28日、万座温泉スキー場)
- 1・10(月) 始業式
- 24(月) 三年、学年末考査(28日)
- 26(水) 推薦入学試験(面接)
- 25(金) 入学志願者学力検査
- 28(月) 入学志願者面接
- 3・8(火) 予餞会(矢追純一)
- 9(水) 第四六回卒業式
- 10(木) 学年末考査(15日)
- 17(木) 入学説明会
- 24(木) 終業式

家庭科必修科目となる。 入試結果の開示始まる。

本年度入学生から学習指導要領の改訂に
ともない、教育課程が一新された(71頁参
照)。

今回の大きな改訂点は、

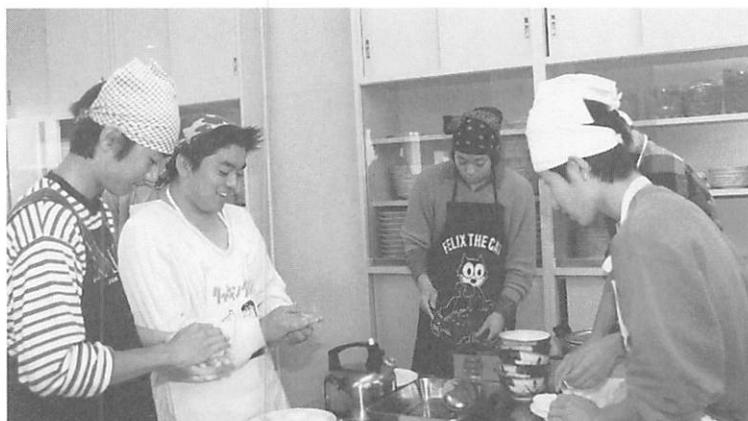
(1) 社会科を地理歴史科と公民科とに分割
した

(2) 家庭科が男子も必修になった

の二点である。

社会科の分割は大勢には影響はないが、
世界史が必修になったのが注目される。こ
れは今回の改訂の基本方針の一つである
「文化と伝統の尊重と国際理解の推進」に
よったものである。

家庭科の導入は本校(全日制)開校以来
初の出来事である。教育課程研究委員会で
さまざまな議論を重ねた結果、「生活一般」
を二単年で二単位、三年生で二単位の合計
四単位を履修させることとした。幸い本校



調理実習でおにぎりを作る



なれない手つきでミシンに取り組む家庭科実習

- 4・1(金)第二九代校長深谷正雄氏就任
- 8(金)始業式 入学式
- 11(月)対面式
- 16(土)新入生歓迎会
- 18(月)離任式
- 5・8(日)同窓会総会
- 11(水)遠足
- 17(火)PT会、後援会 保護者会
- 24(火)中間考査(27日)
- 28(土)開校記念日
- 6・1(水)球技大会(2日)
- 8(水)三年、実力考査
- 9(木)二、三年、実力考査
- 7・7(木)期末考査(12日)
- 14(木)松高定期戦
- 15(金)芸術鑑賞会 午前三年
- 午後一、二年、演劇「星の牧場」

日本▶PL法成立。松本サリン事件。向井千秋スペースシャトル搭乗。大江健三郎ノーベル賞。
 世界▶英仏海峡トンネル開通。南ア共和国大統領にネルソン・マンデラ就任。F1ドライバー、セナ激突死。

では定時制の女子生徒に家庭科を履修させてきていたので、施設設備の面では大きな問題はなかった。

このほか、外国語で「オーラルコミュニケーション」が新設され、会話能力の育成が求められている。

入試結果の開示始まる

本年十月一日、埼玉県個人情報保護条例が施行された。

これにより本年度実施の入学試験より、学力検査の教科別得点及び合計得点が開示されることとなった。本年度は二月二十七日に学力検査、翌日が面接試験、三月七日に合格発表が行なわれた。個人情報の開示は、三月十三日から二十四日まで、第二会議室を使って午前九時から午後四時まで行われた。

情報開示は受験者本人に限られており、受付では、受験票と身分証明書(生徒手帳)等の本人確認のできる書類の提示が求められた。

開示内容は、本人の教科別得点及び合計得点に限られ、各教科の平均点、合計得点の平均点、合格点等は個人情報には該当し

ないため、開示の対象とはならなかった。

奥泉光氏が講演

十二月十九日、体育館において芥川賞作家、奥泉光(高26)の講演が行われた。これは、本校が毎年行っている文化講演会(25頁参照)に招いたものである。

奥泉はこの年一月、小説「石の来歴」で第一〇回芥川賞を受賞した。本校卒業生としては初の受賞である。講演は「現実のひとつではない」と題し、小説というものがあるがどういふものか、我々の文化の中でどのような位置を占めているかなど、創作の原点について熱心に語った。講演のあと、奥泉を囲んでの懇談会が生徒、職員の希望者によって行われた。奥泉の最近の話題作には、『吾輩は猫である』『殺人事件』『グランド・ミステリー』などがある。



「光彩に満ちた文章力」を評価された芥川賞作品

- 20 (水) 終業式
- 9・1 (木) 始業式
- 10 (土) くすのき祭(11日)
- 16 (金) 一〜三年、実力考査
- 17 (土) 三年、実力考査
- 10・6 (木) 陸上競技大会(川越運動公園)
- 16 (日) 同窓会秋季散策会(坂戸方面)
- 21 (金) 中間考査(25日)
- 11・4 (金) 二年、修学旅行(8日)
- 7 (月) 三年、実力考査(8日)
- 8 (火) 一年、国立科学博物館見学
- 24 (木) 強歩大会
- 28 (月) 保護者会(29日)
- 12・12 (月) 期末考査(15日)
- 19 (月) 文化講演会「現実のひとつではない」奥泉光(高26)氏
- 24 (土) 終業式
- 25 (日) スキー教室(28日、万座)
- 1・9 (月) 始業式
- 24 (火) 三年、学年末考査(28日)
- 27 (金) 推薦入学試験(面接)
- 2・8 (水) 一、二年、実力考査
- 27 (月) 入学志願者学力検査
- 28 (火) 入学志願者面接
- 3・8 (水) 予餞会(爆笑問題他)
- 9 (木) 第四七回卒業式
- 10 (金) 学年末考査(15日)
- 17 (金) 入学説明会
- 24 (金) 終業式

土曜休業さらにすすむ。 創立百周年実行委員会発足。

本年度より、毎月第二、第四土曜日が休業日となった。一九九二(平成四)年九月から第二土曜日が休業日になり、二年半が経過したが、学校完全週五日制に向けて、また一歩踏み出したかたちとなった。

しかし、学習指導要領(教育課程)が変わらないまま(週の授業時数が三十四時間)での月二回の土曜休業は、授業時間の確保に大きな負担がかかってきた。

前年までは、必修クラブと部活動が一体化している本校にあつては、実質的には大きな変化はなかった。すなわち、第二土曜日の四時間分の授業を金曜日の第六時間に順次振り替え、六時限で実施していた必修クラブを七時限に繰り下げることに対応できたからである。しかし、本年度からはこれでは対応できなくなった。

本年度は、第四土曜日の四時間分の授業

を振り替えるために火曜日にも七時限目を設けることになった。完全週五日制へ向けての移行段階とはいえ、週二日の七時間授業は生徒、教師ともに大きな負担であり、課外活動にも支障をきたすことになる。

二〇〇二年からの完全週五日制実施に向けて、学習指導要領も改訂される。

ドイツの青少年来校

十月十二日、ドイツ、オッフエンバッハ市の青少年一四人が本校を訪れた。川越市とオッフエンバッハ市とは、一九八三(昭和五八)年八月二十四日に姉妹都市となり、翌八四年には、市長レベルの相互訪問が始まった。一九九四年からは、中学生交流団が同市を訪れている。今回の訪問は青少年交流団としての川越市訪問である。当日は午前中に川越女子高を訪れ、午後、川越市



好評だったくすのき祭のセントポール大聖堂

- 4・10(月)始業式 入学式
- 11(火)対面式
- 15(土)新入生歓迎会
- 17(月)離任式
- 5・9(火)遠足
- 14(日)同窓会総会
- 17(水)PT会、後援会総会 保護者会
- 23(火)中間考査(26日)
- 28(日)開校記念日
- 6・1(木)球技大会(2日)
- 7(水)二、三年、実力考査
- 8(木)三年、実力考査
- 7・7(金)期末考査(12日)
- 14(金)芸術鑑賞会「パイプオルガンとオーケストラ」(所沢ミュージス)
- 20(木)終業式

日本▶阪神淡路大震災。地下鉄サリン事件。オウム真理教、松本智津夫ら逮捕。野茂英雄、大リーグで旋風。
 世界▶フランス、中国の核実験に抗議殺到。ボスニア紛争。チェチェン紛争。イスラエル、ラビン首相暗殺さる。



くすのき祭名物水泳部のシンクロ「川越水族館」は多くの観客でにぎわった

百周年記念事業スタート

七月一日、通算六六回目の準備委員会が開かれ「埼玉県立川越高等学校創立百周年記念事業実行委員会規約」が承認され、準備

立博物館を見学した後、本校に到着した。同窓会室で、校長、生徒会役員、AETのマーク・ゴールドバーグ先生等が出迎え、互いに英語で挨拶を交わした。その後、クラブ活動の見学に移り、体育館では興にのった女子学生がバドミントンに加わる一幕もあった。短時間ではあったが、日本の高校生活の一端に触れ、名残惜しうに去る姿が印象的であった。

専門委員会	PT会・後援会・同窓会委員	校内委員
総務部	◎足立 誠 (後援会) 石山 豊 (同窓会) 鈴木 禰八 (PT会) 吉田 矩康 (同窓会) 荻島 満夫 (後援会) 北沢 紀史夫 (後援会) 黒澤 莊志 (PT会) 斉藤 敏夫 (PT会) 神藤 登 (PT会)	○根岸 登 仲田 勝己 鈴木 和夫 中根 章
事業部	◎馬場 弘 (同窓会) 市川 宗貞 (同窓会) 田中 隆 (同窓会) 北村 平 (PT会) 川西 一祐 (後援会) 山口 悠紀子 (後援会) 梶田 順子 (PT会) 雨宮 忠男 (PT会) 金子 建二 (PT会)	○栗原 進 伊藤 豊 大館 義広 新井 幸男 赤木 秀次
行事部	◎道祖 土武 (PT会) 山根 豊 (同窓会) 高山 孝 (同窓会) 齊藤 博 (後援会) 新谷 紀子 (PT会) 宮野 弘三 (PT会) 大塚 昭三 (P振会)	○吉敷 茂 栗原 和彦 加藤 光昭

百周年記念事業実行委員会専門部会(◎は部会長 ○は校内委員代表)

委員会はその役目を終え、実行委員会が正式に発足した。引き続き第一回実行委員会が行われ、委員長に渋谷健同窓会会長を選任したほか、各委員を決定した。
 実行委員会には記念事業推進のために、総務部、事業部、行事部の各専門部が設けられた。こうして、一九九九(平成一一)年秋の記念式典に向けて、本格的に記念事業がスタートした。

- 9・1(金) 始業式
- 9(土) くすのき祭(10日)
- 14(木) 一三年、実力考査
- 16(土) 三年、実力考査
- 10・2(月) 保護者面談(3日)
- 5(木) 陸上競技大会
- 12(木) オツフエンバツハ青少年来校
- 15(日) 同窓会秋季散策会(志木方面)
- 20(金) 中間考査(24日)
- 11・4(土) 二年、修学旅行(8日)
- 6(月) 三年、実力考査(7日)
- 7(火) 一年、国立科学博物館見学
- 22(水) 水強歩大会
- 12・11(月) 期末考査(14日)
- 16(土) 文化講演会「青年期と性」 村瀬 幸浩氏
- 22(金) 終業式
- 24(日) スキー教室(27日)
- 1・8(月) 始業式
- 23(火) 三年学年末考査(26日)
- 29(月) 一、二年、実力考査
- 2・2(金) 推薦入学試験(面接)
- 28(水) 入学志願者学力検査
- 29(木) 入学志願者面接
- 3・6(水) 予餞会(ピーター・フランク)
- 7(木) 第四八回卒業式
- 8(金) 学年末考査(13日)
- 18(月) 入学説明会
- 22(金) 終業式

募集定員が四百名に削減された。



第49回くすのき祭ポスター
テーマは「脱出不可能！ 知徳一致の迷宮」

本年度より、募集定員が四〇〇名（四〇名、一〇クラス）に削減された。これは、一九六二（昭和三七）年の四〇〇名（五〇名、八クラス）以来二十四年ぶりのことである。募集定員は、その年の高校進学者数の増減に応じて県教育委員会が決定するものである。（左表参照）

本校にあっても、一九六三（昭和三八）年から四年間の戦後ベビーブーム世代の入学時は、募集定員が五〇〇名にまで増加した。その後、その子供たちの入学時にあたり、一九八七（昭和六二）年から三年間は最も定員がふくらんだ時期である（実際の入学人員で見ると、高校一八回生が入学する一九六三年が、五三九名で最多）。前年からはクラス定員が全国的に四五名から四〇名に減員されたが、本校は入学希望者が多いことを理由に、クラス数は一ク

ラス増の一クラスであった。したがって募集定員は一〇名減員の四四〇名であった。本年は、クラス数が従来の一〇クラスに戻り、募集定員が四〇〇名になったものである。

百周年記念事業固まる

十一月十六日に本年度第二回実行委員会が開かれ、記念事業基本案と予算案概要が承認された。予算総額は一億三四〇〇万円余りであり、主な記念事業は左記の通りである。

- 一、図書館全面改築
- 二、記念式典および祝賀会
- 三、記念碑建立
- 四、記念植樹
- 五、記念品、記念グッズの作製
- 六、国際交流の推進

4・8（月）始業式 入学式

20（土）新入生歓迎会

5・10（金）遠足

12（日）同窓会総会

15（水）PT会、後援会総会

21（火）中間考査（～26日）

6・4（火）球技大会（～5日）

14（金）二、三年、実力考査

15（土）三年、実力考査

7・2（火）一年、水泳大会

6（土）期末考査（～10日）

12（金）芸術鑑賞会歌舞伎（国立劇場）

19（金）終業式

9・2（月）始業式

7（土）くすのき祭（～8日）

17（火）一～三年、実力考査

18（水）三年、実力考査

10・3（木）陸上競技大会

21（月）中間考査（～24日）

27（日）同窓会 秋季散策会（東京）

11・4（月）二年、修学旅行（～8日）

保護者会

日本▶ O-157猛威をふるう。北海道で国道トンネル崩落。東京 HIV 訴訟和解。羽生将棋七冠。渥美清死去。
 世界▶ 2002年ワールドカップの日韓共同開催決定。ペルー日本大使公邸で人質監禁事件。英皇太子夫妻離婚。

川越高等学校募集定員の変遷と入学者、卒業生数

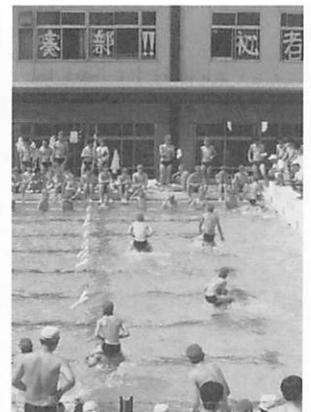
年度	学級定員×学級数	募集定員	入学者数	卒業生数
1950 (昭和25) 年	50名×6学級	300名	300名	284名
1951 (昭和26) 年	50名×6学級	300名	333名	326名
1952 (昭和27) 年	50名×6学級	300名	306名	302名
1953 (昭和28) 年	50名×6学級	300名	321名	307名
1954 (昭和29) 年	50名×6学級	300名	298名	284名
1955 (昭和30) 年	50名×6学級	300名	312名	306名
1956 (昭和31) 年	50名×6学級	300名	312名	309名
1957 (昭和32) 年	50名×6学級	300名	313名	316名
1958 (昭和33) 年	50名×6学級	300名	315名	303名
1959 (昭和34) 年	50名×6学級	300名	313名	308名
1960 (昭和35) 年	50名×6学級	300名	306名	298名
1961 (昭和36) 年	50名×6学級	300名	304名	292名
1962 (昭和37) 年	50名×8学級	400名	432名	425名
1963 (昭和38) 年	50名×10学級	500名	539名	537名
1964 (昭和39) 年	50名×10学級	500名	529名	520名
1965 (昭和40) 年	50名×10学級	500名	520名	519名
1966 (昭和41) 年	50名×10学級	500名	518名	506名
1967 (昭和42) 年	50名×9学級	450名	453名	445名
1968 (昭和43) 年	49名×9学級	441名	445名	445名
1969 (昭和44) 年	48名×9学級	432名	435名	437名
1970 (昭和45) 年	47名×9学級	423名	424名	418名
1971 (昭和46) 年	46名×9学級	414名	416名	410名
1972 (昭和47) 年	45名×9学級	405名	405名	397名
1973 (昭和48) 年	45名×9学級	405名	414名	410名
1974 (昭和49) 年	45名×9学級	405名	408名	407名
1975 (昭和50) 年	45名×9学級	405名	407名	403名
1976 (昭和51) 年	45名×9学級	405名	406名	403名
1977 (昭和52) 年	45名×9学級	405名	403名	400名
1978 (昭和53) 年	45名×10学級	450名	458名	403名
1979 (昭和54) 年	45名×10学級	450名	439名	404名
1980 (昭和55) 年	45名×10学級	450名	457名	457名
1981 (昭和56) 年	45名×10学級	450名	454名	442名
1982 (昭和57) 年	45名×10学級	450名	453名	455名
1983 (昭和58) 年	45名×10学級	450名	462名	450名
1984 (昭和59) 年	45名×10学級	450名	467名	448名
1985 (昭和60) 年	45名×10学級	450名	448名	453名
1986 (昭和61) 年	46名×10学級	460名	471名	460名
1987 (昭和62) 年	47名×11学級	517名	529名	454名
1988 (昭和63) 年	48名×11学級	528名	527名	470名
1989 (平成元) 年	48名×11学級	528名	529名	528名
1990 (平成2) 年	45名×11学級	495名	502名	526名
1991 (平成3) 年	45名×10学級	450名	455名	525名
1992 (平成4) 年	45名×10学級	450名	456名	496名
1993 (平成5) 年	45名×10学級	450名	459名	456名
1994 (平成6) 年	45名×10学級	450名	457名	451名
1995 (平成7) 年	40名×11学級	440名	433名	455名
1996 (平成8) 年	40名×10学級	400名	413名	451名
1997 (平成9) 年	40名×10学級	400名	417名	431名
1998 (平成10) 年	40名×10学級	400名	405名	413名
1999 (平成11) 年	40名×10学級	400名	405名	名
				名
				名

七、記念誌の刊行
 八、川高新聞縮刷複製版の刊行
 九、同窓会会員名簿一八号の刊行
 十、記念講演会、音楽会、美術展、書道展

水泳大会が復活する

七月二日、五年ぶりに水泳大会が復活した。かつては夏休み明けの全校行事として実施されていたが、くすのき祭と定期的に重なることもあって一九九二(平成四)年から中止されていた。しかし、生徒の間には復活を望む声が強く、この年から、一年生の学年行事として、時期を七月にずらして

実施することになったものである。競技を、第一部と第二部にわけ、一部の種目、「川越人足りレー」などレクリエーション的種目、二部は競泳種目とし、水泳の不得手な生徒にも十分に活躍の場を保証したものととなっている。



復活した水泳大会での「川越人足りレー」

- 7 (木) 三年、実力考査(8日)
- 8 (金) 一年、国立科学博物館見学
- 22 (金) 強歩大会
- 12 (火) 期末考査(13日)
- 24 (火) 終業式
- 1 (水) 始業式
- 8 (水) 三年、学年末考査(24日)
- 27 (月) 一、二年、実力考査
- 2 (木) 推薦入学試験(面接)
- 27 (木) 入学志願者学力検査
- 28 (金) 入学志願者面接
- 3 (土) 予餞会(大槻義彦)
- 7 (金) 第四九回卒業式
- 10 (月) 学年末考査(13日)
- 24 (月) 終業式

新体育館の建設工事始まる。

五月二十六日、体育館の取り壊しがようやく始まった。改修の話が持ち上がったから五年目での着工である。

この体育館は一九七〇（昭和四五）年に旧講堂跡に建てられたものである。二十年余りがたち、床のたわみが目立ち始めたため、一九九二（平成四年）年には床の張り替えを県に要望した。時を同じくして県では昭和四十年代に建てられた体育館を順次改修することを決定した。そして、本校には、骨組みだけを残して全面改修する計画が一九九四年に県から提示された。

ところが、阪神淡路大震災が全てを白紙に戻してしまったのである。当初の改修計画では耐震強化が不十分ということに加え、県が新体育館を川越市の防災拠点としたため、計画の全面見直しが行われ、着工が大幅に遅れることとなったのである。



取り壊しがすすむ旧体育館

新体育館は、地下に食糧や水の備蓄庫を備え、ソーラー発電設備を持つ画期的な建物である。緊急時には五〇〇名の避難住民の受け入れを想定している。

一九九九年二月二十六日に竣工し、創立百周年記念式典は新体育館で行われた。



第50回を迎えた「くすのき祭」入場門（ルーマニア国立劇場）

- 4・1（火）第三〇代校長大沢幸夫氏就任
- 8（火）始業式
- 9（水）入学式
- 10（木）対面式
- 18（金）離任式
- 19（土）新入生歓迎会
- 5・9（金）遠足
- 11（日）同窓会総会
- 16（金）PT会、後援会総会 保護者会
- 22（木）中間考査（27日）
- 26（月）体育館解体工事始まる
- 28（水）開校記念日
- 6・3（火）球技大会（2日）
- 12（木）二、三年、実力考査
- 13（金）三年、実力考査
- 20（金）台風のため午後休校
- 7・1（火）一年、水泳大会
- 7（月）期末考査（10日）
- 17（木）芸術鑑賞会演劇「すみれさんが

日本▶ロシアのタンカー日本海で沈没。神戸児童殺傷事件。山一証券自主廃業。臓器移植法成立。
 世界▶英でクローン羊誕生。香港、中国に返還。ダイアナ元英皇太子妃、交通事故死。マザー・テレサ死去。



体育館跡地の発掘作業

第五〇回くすのき祭開かる

九月十三、十四日の両日にわたり、くすのき祭が開催された。今年も、第五〇回という大きな節目の年であった。

くすのき祭(文化祭)の歴史は、一九四八(昭和二三)年の記念展覧会に始まる。これは、本校創立五十周年記念行事の一環として行われたものである。『創立五十年記念誌』によれば、職員、生徒の研究発表や作品はもとより、同窓会員の活動状況を物語る展示や、近隣の小中学校の生徒の書道、

絵画の展示も行った。五月二十八、二十九日の両日にわたり、「市内は勿論伝え聞いた近隣の村々から続々と来観して好評を博した」。「市内各小中学校より先生の引率の下に続々来観、さしもの会場も超満員の盛況であった」とある。

その後、一九四九(昭和二四)年〜一九五一年は九月初旬、五二年は十一月中旬、五三年は十一月初旬、一九五四年は十月下旬、五五年からは九月と、その開催時期は何度か変更され現在に至っている。名称も一九六九(昭和四四)年に「文化祭」から「くすのき祭」に改められた。

クイーンズランド州総督夫妻来校

三月二十五日、オーストラリアのクイーンズランド州からピーター・アーニソン総督夫妻が来校した。

クイーンズランド州は埼玉県と姉妹州提携を結んでいる。埼玉県の招きで来県した総督は、土屋義彦知事との県内視察で川越市を訪れた。一番街、菓子屋横丁、市立博物館などを視察した後、本校に立ち寄った。春休み中ではあったが、音楽部、古典ギター部が美しいハーモニーで歓迎した。

行く(大宮市民会館)

- 19(土)終業式
- 9・1(月)始業式
- 13(土)くすのき祭(14日)
- 19(金)一〜三年、実力考査
- 20(土)三年、実力考査
- 10・2(木)陸上競技大会
- 7(火)保護者面談(9日)
- 19(日)同窓会秋季散策会(毛呂山)
- 21(火)中間考査(24日)
- 11・4(火)二年、修学旅行(8日)
三年、実力考査(5日)
- 5(水)一年、国立科学博物館見学
- 18(火)強歩大会
- 12・9(火)期末考査(13日)
- 24(水)終業式
- 25(木)スキー教室(28日、万座)
- 1・8(木)始業式
- 20(火)三年、学年末考査(23日)
- 26(月)一・二年、実力考査
- 2・2(月)推薦入学試験(面接)
- 25(水)入学志願者学力検査
- 26(木)入学志願者面接
- 3・6(金)予餞会(吉村作治)
- 7(土)第五〇回卒業式
- 9(月)学年末考査(12日)
- 18(水)入学説明会
- 24(火)終業式
- 25(水)クイーンズランド州総督来校

「創立百周年記念図書館」が完成。

六月二十二日、図書館にパワーショベルの爪がかけられた。一九五八（昭和三三）年に建てられ、四十年間にわたって（途中八十周年記念事業で増改築）川高生を見守ってきた図書館が、もうもうと立ちこめる砂埃の中にその姿を消していった。

解体に先立って、蔵書四万六〇〇〇冊の移動が行われた。仮設図書館には必要最小限の本を収めるにとどめ、残りは、校庭隅に建てたプレハブ倉庫と川越小学校体育館二階を借りて収められた。

その後、夏休みいっぱい、跡地の発掘調査が行われた。本校の敷地は川越城跡にあたり、着工にあたっては発掘調査が義務付けられている。炎天の下、ていねいな調査が行われた。

九月に入って、杭打ちが始まった。折しも体育館工事と重なって、本校は工事一色

となった。

工事現場に近い本館で授業を受ける二、三年生にとって、毎日騒音との戦いであった。



解体されていく旧図書館

一九九九年三月十七日、新図書館が竣工。その名も「創立百周年記念図書館」となり、永く生徒の勉学の用に供することとなったのである。新図書館は、延べ床面積一〇四八平方メートル、収容人員は閲覧室八四席、セミナー室二〇席の、鉄筋コンクリート二階建である。閲覧室の一角のマルチメディアコーナーには四台のパソコンが備えられ、インターネットによる情報提供や資料検索



モダンで明るい「創立百周年記念図書館」

- 4・8（水）始業式 入学式
- 13（月）対面式
- 16（木）新入生歓迎会
- 17（金）離任式
- 5・8（金）遠足
- 10（日）同窓会総会
- 15（金）PT会、後援会総会 保護者会
- 22（金）中間考査（27日）
- 28（木）開校記念日
- 6・2（火）球技大会第一日（5日、第二日）
- 11（木）二、三年、実力考査

日本▶長野冬季五輪開催。ワールドカップ初出場。毒入りカレー事件。金融ビッグバン幕開け。黒澤明死去。
 世界▶インド、パキスタン核実験。金大中、韓国大統領に。「ユーロ」通貨統合参加国確定。マグワイア70本塁打。

なども可能になる。



完成間近の新体育館

冬時間が廃止される

本年より、冬時間が廃止され、年間を通して始業時刻を午前八時四十分とすることになった。

昨年までの始業時刻は、四月から十一月十五日までが午前八時四十分、十一月十六日から三月末までが九時十分であった。しかし、冬時間期間中は、放課後の部活動時間の確保や、食堂の定時制への引継ぎ等、様々な問題があり、過去にもその見直しをめぐって何度か議論されたことが職員会議録などにも散見する。

ここで、本校に於ける始業時刻の変遷を見てみたい。戦前は、あまりにも資料が乏しく断片的なことしかわからないが、一九二三(大正一二)年～一九二六(大正一五)

年頃には、夏期、冬期で始業時刻を変えていることがうかがえる。早い時刻には午前七時四十分、遅いものでは九時十分の記載が見られる。また、一九四一(昭和一六)年には七時三十分にも早められている。

戦後は、一九五四(昭和二九)年までは、年間を通して八時三十分始まりであったようである。これが、一九五五(昭和三〇)年四月二十六日の臨時職員会議で日課表の変更が決められ、五月二日より八時十分、十一月二十一日より八時四十分に変更された。この夏期、冬期二本立ての日課表は、この後少しずつ改められながら前年まで続いたのである。

夏期は、始業時刻が八時十分から、十五、二十、二十五、三十、四十分と遅くなり、冬期は八時四十分が、四十五、五十、九時〇五、十分と遅くなってきている。夏時間が、かつての冬時間に追いついてしまうという珍現象が起こっているのである。

始業時刻の変更は、多くは交通機関との関係かと思われるが、こうして見てくると国民の生活が夜型化していることも無縁でないのかもしれない。

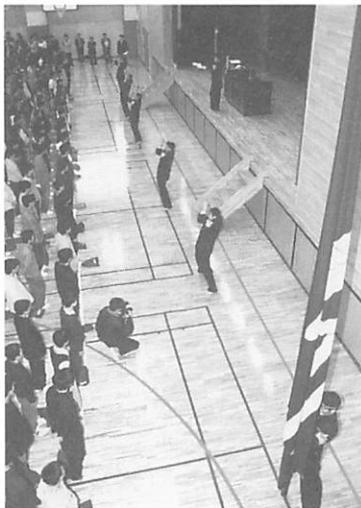
- 12 (金)三年、実力考査
- 30 (火)一年、水泳大会
- 7・6 (月)期末考査(9日)
- 14 (火)芸術鑑賞会 オークストラ演奏鑑賞(所沢・ミューズ)
- 18 (土)終業式
- 9・1 (火)始業式
- 12 (土)くすのき祭(13日)
- 18 (金)一～三年、実力考査
- 19 (土)三年、実力考査
- 30 (水)陸上競技大会
- 10・5 (月)保護者会(7日)
- 22 (木)中間考査(27日)
- 25 (日)同窓会秋季散策会(川島・川越)
- 11・4 (水)二年、修学旅行(8日)三年、実力考査
- 5 (木)強歩大会
- 12・10 (木)期末考査(15日)
- 24 (木)終業式
- 1・8 (金)始業式
- 19 (火)三年、学年末考査(22日)
- 25 (月)一、二年、実力考査
- 2・2 (火)推薦入学試験(面接)
- 25 (木)入学志願者学力検査
- 26 (金)入学志願者面接
- 3・5 (金)予餞会(ルー大柴)
- 6 (土)第五一回卒業式
- 9 (火)学年末考査(12日)
- 24 (水)終業式

川高
フォト
歳時記

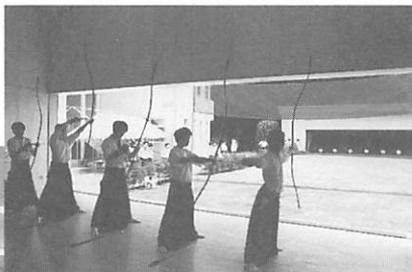
KA
WA
TA
KA
一〇一年目の顔

最近、タクシーに乗って「カワコウへ」と言うと、「カワタカですね」と念を押される。
 応援歌では「カワコウ」と連呼し、卒業生のほとんどは「カワコウ」というのだが、周囲ではいつの頃からか「カワタカ」が一般的になってきているようだ。

101年目の対面式は新体育館で挙行された

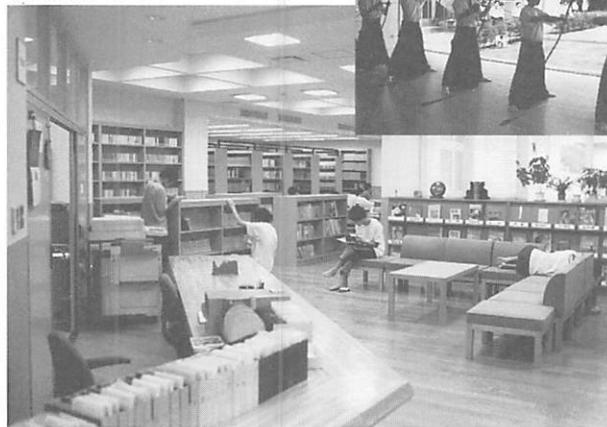


体育館の裏には弓道場も建設された

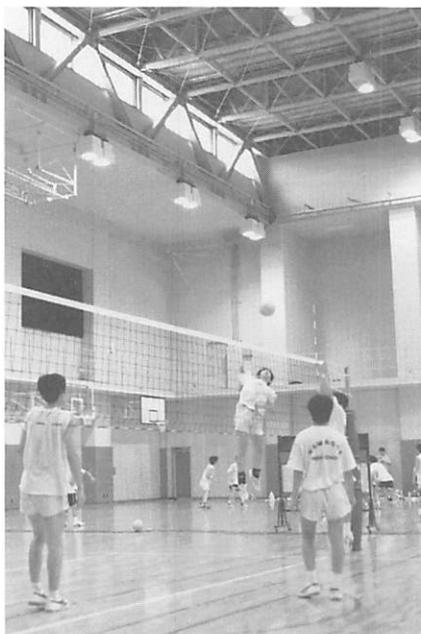


百周年記念校歌碑「未来の手」の建立には作者の関根伸夫氏も立ち会った

新図書館は何をするにも快適だ



アリーナの天井の高さは13.3メートル。それでも生徒の熱気がたちこめる



新食堂は冷暖房完備。昼休みは長蛇の列が出来る



歌舞伎教室。国立劇場に全校生徒が集まった



水泳大会は一年生の学年行事である。
彼らは101年目の入学生だ



卒業アルバム撮影の背景にも新しい施設が入る。彼らは101年目の卒業生となる



101年目の「くすのき祭」の門。
テレビ局の取材もあった



はたしてこれは何代目か。こちらも改修されて
新装なった通用門



生徒も参加して多くの記念行事が行なわれた

百年目の「ぼくらの夢と提言」 川高生

一九九八年九月、全校統一ロングホームルームで、編集部作成の資料「川越中学・川越高校一〇〇年史ダイジェスト」をもとに、現在川越高校に学ぶ者としての将来への夢や希望、あるいはこれからの川越高校への提言などを、全日制、定時制の在校生全員に書いてもらった。

ここには、その中から三七編を選んで掲載した（学年は一九九八年度のもの）。

川高の自由

一年B組 小川 知宏

川越高等学校に入ると、おそらく誰もが、「本当の自由……」について考えさせられるのではないかと思います。私もその一人で、中学時代とは違い、「生徒の力」で物事を実行していくのを実際に見て、正直驚きを隠せませんでした。

確かに、「自由」ではあるのですが、自分の感じてきた「自由」と多少異なるのです。私の「自由」は、自己負担がなく、解放的、言い換えれば、「わがままの自由」。しかし、本校では、自己負担があるが、その分「幸せ」が返ってくる「努力の自由」なのです。最初は、体になじまず、少し不満を覚えましたが、よく考えると、後者の方が前者より「楽しい自由」であると思いました。私はこのように考えています。皆さんはどうでしょうか。

視点を変えて……

一年B組 酒井 亮太

最近のマスコミ報道について納得いかなかった点がある。それは報道の仕方である。最近のマスコミ報道は独り善がりなものが多いと私は感じている。

例えば、廃棄物処理場の建設に反対した人

たちが地方公共団体に抗議をしたニュースで、マスコミは地方公共団体だけが悪者であるかのような言い回しをしていたように私は感じた。しかし、悪いのは地方公共団体だけだろうか。ここで視点を変えて考えると、我々が一番問題があることに気づく。なぜなら、ゴミを出しているのが我々自身だからである。このように、視点を変えれば物事の見方・考え方が変わり、物事の本質を捉えやすくなる。しかし、最近のマスコミ報道は一つの視点だけでその物事の全てを伝えたような報道をしているものが多いと私は考えている。「一つの視点だけで物事を考える」という傾向は、今の川高にも押し寄せていると思う。周りの意見を鵜呑みにしてしまっただけ、それが本当に正しいのか、視点を変えて考えることを忘れている。現代は情報量が多く、その多さのあまりかえって物事を多角的に見ることは難しいかもしれない。しかし、視点を変えることで、人や物事の見方・考え方が変わり、

自分の世界が広がっていくと私は考えている。創立百周年を迎える今日まで川高は多くの変化を遂げてきた。そしてこれからも変化していく、いやしていかねばならないだろう。そのためにも、多角的な視点を持って物事を考えることを私は川高に求めていきたい。

百周年記念に寄せて

一年C組 広田 淳

川越高校に入学して印象的だったのは、校歌だ。三年間歌う歌として、やはりいい歌であることを願った。だから最初に音楽部が歌った時には感動した。もっと感動したのは、クラス(音楽選択)でこの歌を歌った時だ。あんなにすごい合唱をしたのは初めてだった。改めて川越高校はすばらしいと思った。

その後ももちろん何回も歌ったが、歌えば歌うほどますますこの歌が気に入った。何か口に言えないものがこの歌にはあるのだ。僕は吹奏楽部なので校歌は歌わず演奏することになったが、この曲が演奏できることを素直にうれしいと思った。文化祭の後夜祭の時は泣きそうになるくらいだった。

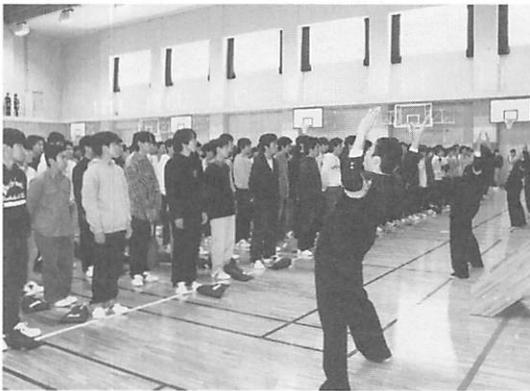
もうこの校歌は九十年の歴史を持っているらしい。そんな素晴らしい川越高校校歌を、

何代も後の後輩にも、同じような気持ちで心を込めて歌ってほしいと思う。

百年目の僕らのこれから

一年E組 赤沼 裕司

僕が必死に受験勉強をしているころの川高のイメージは「自由」であり、それ以上つきつめて考えようとはしなかった。入学後、今の自由は歴代の先輩方の手によってつくられてきたものと知り、僕らはそれに甘えていて



はいけないのでは、と思い始めてきた。

川高の自由は伝統であり、受け継いでゆくべきものだ。では百年の伝統の中で、僕らは何をすべきなのか。明確な答えは見つからないが、僕は自分の意志・考えを持つことが大事だと思っている。

僕は将来、音楽を仕事にしたいと思っている。高校生活は将来のためのステップだ。僕の毎日の一步一步は伝統に助けられている部分が多い。音楽系の部活動が盛んであることもその一つだ。一生懸命がんばって、夢を現実にするのができれば、それは伝統への恩返しになると思っている。自由を受け継ぐ者として、百年の伝統に甘えることなく、新たな一歩のために努力していきたい。

創業守成

一年G組 新井 直之

川越高校の歴史の区切りに中心学年になることができることを誇りに思うと同時に、その歴史をまた一つ積み上げることの責任の重さに恐れさえ感じる。入学して気づいたこと——それは大学進学や成績は生徒の意欲によって左右されるということだ。いわば、義務教育のルール、言い換えれば一本の細い川を

通過し、広い海に解放された一匹の未熟な魚なのである。流れにただ流されるか、自分の意思で前に進むかはその魚次第。多様なことに興味関心をもっている時期だからこそ、明確な目標が必要なのだ。「自由」と言われるこの良き環境の中で、私自身これからどんな高校生活を送ろうかというらしい迷いを抱えている。「百年」という過ぎ去った長い年月が今の川高を形作っていることを忘れてはいけないと思う。部活やくすのき祭など、勉強以外にも力を入れているところが本校の大きな魅力だ。良き伝統はそれとして守り続けて、これからも新しく進化する場であることを望みたい。

川高百年の歴史

一年G組 神庭 亮介

一九九九年から一九九九年までの百年間の川越高校の長い歴史を振り返ると、創立当初から川高生に「自主自立・自由」を重んじる気風があったことがうかがえる。とくに、「一九一八年・厳しい服装検査に抗議の授業ボイコット」という記事からは、当時の川高生の先鋭的な思想を知る事ができる。今日にくらべ、自分の言いたいこともそれほど自由

に言えない時代に、このような行動に踏み切った彼等を後輩として誇りに思う。しかし同時に、それに比べて現代の川高生は、という念をも抱いてしまう。「自由」の意味をはき違え、楽な方へと流されてしまっている。これでは、素晴らしい伝統を築き上げてきた先輩方に申し訳が立たない。無論、全ての人がそうだというわけではない。ただそういう輩が増えてきた、ということだ。

ところで、私は常々思うのだが、現代の高校生はスーパードに皆同じ形で並んでいる野菜のように、横並び一線でまるで個性が感じられない。それに比べると川高生は、形の悪い有機野菜、という感じがする。見た目はともかく、個性派ぞろいで味がある、というわけだ。私はこんな川高が大好きだし、新たな一歩を踏み出すにあたって、さらなる飛躍を遂げてほしいと思う。

冷やしうどんを永遠に！

一年H組 岡安 寿洋

僕は学食をよく利用するが、その中でも最ももうまいと思ったものは、冷やしうどんのたぬきだ。ツルツルと口に入っていくめんどだしのきいたさっぱりとしたつゆ、そしてあの

あげ玉。この三つのマッチ具合は最高だ。あときゅうりやねぎも忘れてはならない。僕はいつもあの冷やしうどんを夏に食べていた。しかしこの間学食について冷やしうどんをたのもうとしたらメニュー表にその名がない。びっくりしておぼちゃんに聞いてみたらもうやってないと言う。僕はなにか大切なものをうばわれたときのあのむなしさのようなものを感じた。僕がどうあがいても来年の夏までまたなくてはならない。そう思ったとき僕は自分の無力さに腹が立った。無力な僕はしかたなく熱いたぬきうどんをたのんだ。うまい。



しかし熱い。汗をかきながら食べるのもうどんの醍醐味だ。しかし僕はこう考えた。熱いうどんを食べているとき、熱いと、うまい、が心の中を駆けめぐっている。しかし冷やうどんを食べているときは、うまい、これだけだ。うまい、以外には何も思わない。うまいものを思いきり、もうはいらないうまいといわんばかりに口につめこむ。そのときの心はうまい、だけ。熱い、とかそんなものはない。ただうまい。これが僕の考えるもう一つのうどんの醍醐味だ。

さあ百周年を記念して、冷やうどんを一年中やってみるのはどうだろう。冬にはらをこわしてでも食う。一年中食う。

新しく踏み出す一歩

一年I組 岡西 甲樹

本校は、今年、長い歴史とともに百周年を迎える。僕は、先日、本校の歴史に関する文書を読み、時代と闘い、自己を模索し川高を築いてきた先輩たちの姿を心の中で強く感じた。

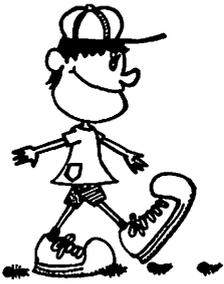
高校紛争などが、まさにその一例だと思っ。現在の自分と社会に目を向け、心の中で葛藤を繰り返し決断と行動をした。そんな姿には

何か僕たちの心を奮い立たせるものがある。

百周年という大きな時代の節目に立った僕たちは、改めてこの伝統を振り返る必要性があると思う。現在の川高は、自由を理念に置いているが、僕たち自身の行動がこれからの川高の伝統を創る以上、一人一人が確固たる考えを持ち、新しい川高を築いていかねばならない。その伝統を胸に刻み、一人一人が新たな一歩を踏み出した時、それは、やがて自信や誇りとなって新たな川高生としての姿を持ちはじめると思う。

百周年は、今の川高生としての自分を見つめ直す契機でもある。頭髮や身にまとうものは皆違うが、校風を彩る川高生としての母校への思いは時を経て受け継がれていく。そして、是非、より一層皆が結束した川高を築き上げていきたい。そんな思いは、この応援歌にも歌われている。「栄光の伝統守り、熱血の闘魂高く、今こそ誇れ」

そして、今、歴史的な新たな一歩を川高は踏み出そうとしている。



カット・佐野大地(美術部)

百年目の大改革

— 思い切ったリニューアルを —

一年J組 新井 健夫

この川高では百年もの間、いろいろなことが「良き伝統」の中にあつた。そして今、川高は二一世紀という、めまぐるしい発展が予想される中に飛びこんでいこうとしているのである。この怒濤の二一世紀を時代に流されずに、しっかりと構え、乗り越えて行くには、「良き伝統」だけではなく斬新な改革が必要である。

その一つとして「川越高校の共学化」がある。これは私の友だちの多くが希望している。その理由としては「女の子がいなくて、あまりにときめきがない!!」(僕もちよっぴり思う)でも僕が共学化を望む真の理由は次のように考えるからだ。現在の社会は男も女も平等で、職場ではパートナー、そして競争相手ともなっている。二一世紀になればなおさらである。こういった状況の中で、高校生という人間形成の過程で最も重要な時に「男しかない生活環境」というのは、これからの社会に相反することではないか。この高校生活で男と女がともに学び、ともに生活

していくことがこれからの新時代、大切なのではないかと。

これを実行に移すことはとても大変だと思うが、この二一世紀に向けての大改革こそが、今、川高に求められていることではなからうか。少なくとも私はそう信じている。

人間を磨く

一年J組 真仁田 聡

僕は、現在、川越高校をわが学び舎とし、人生と学問について学んでいる生徒の一人である。毎日、この場所で朝日をおがみ夕日とともに業を終える。この学校に入学してからはや五か月がたとうとしているが、僕は今のくらしが、とても気に入っている。良い友に囲まれ、傾いた校舎で勉学に励み、思いきり部活動に取り組み、とても充実した毎日を送っているからである。男の友情がそこに見えるからである。

そして、この学校は、生徒一人一人が協力して学校をつくっている。文化祭でも生徒が中心となり運営している。勉強面でも、誰かに強制されて取り組むのではなく、自ら緊張した雰囲気をつくり出している。そのため、全て自分に任せられ自分の判断で行動してい

なければならぬ。いわば自分自身とのたたかいとも言えよう。この自主性を尊重し常に自立を目指す教育方針は、たいへん素晴らしいと思う。そして、それが二一世紀を担う人間になるための段階なのだろう。

僕は、この学校の百年という歴史を汚さぬよう、常に文武両道という精神を念頭において自分という人間を磨いていきたい。

一川高生とつて

二年A組 三村 崇

私は川越高校以外のどの高校にも通ったこととは無い。だが、ここは相当変わったところである。「自由な校風」は百年の歴史の中で、だらしのないものに変化しつつあり、真面目に日々の暮らしを送るのさえずら困難なくらいである。ある人は日夜カードゲームにいきしみ、またある人は教室を仮眠室と誤解しているかのごとく眠る。ここには進学校としての風格のかけらも無いのである。無いのであるが進学校なのである。

それはなぜか。私はこの学校には、良い風格も無いが、悪い風格も無い、すなわち決まりきった風格というものが無いからだと考える。そこが川高の面白いところである。縛ら



れない環境の中で、川高生は自由にやっている。そうして私もこの学校の中で、素晴らしい生き方を見出した。「自分で生活の仕方を考える」それが他校には無い、川高生に課せられた試練であり、同時に魅力でもあるのだろう。

「自主性」の転換

二年C組 有山 法茂

「生徒の自主性の尊重」——入学試験の面接で受験生の多くが答えるように、川高Ⅱ自主性の式は成り立っているようである。

そもそも「自主」とは？ 辞書によれば、「独立して、他から保護を受けないこと」とある。しかし実際のところ、自分も含め「自主」を履き違えているように思われる。

清掃や集会時の整列等々、先生から注意を受けているのをよく見かける。あるいは、何にしても指図されないと動けない生徒もいる。面接で「自主性の尊重云々」と答えた人が、わずか二年程度で自ら「自主」を放棄している。自分では気づかなくても、周囲からそう思われるのは仕方ないことである。

「川高色」に染まり過ぎていたのでは？

川高の志望理由を忘れてしまったのでは？

もう子供ではあるまい。「名ばかり」の自主から『行動』の自主への転換——僕らにはそれが、今、求められている。

心

二年E組 朝倉 崇之

川越高校は本当の意味でトップになりきれないと思う。部活など苦しい場面で、ついあきらめてしまったり、避けてしまったりする。百周年を迎えた今でも、乗り越えられない壁である。心の中にうぬぼれや自負心があり、戦いに負けてもそのくやしさをこまかしている。だから、一度ゼロに立ち返り挑戦者として挑むことも必要ではないか。文武両道をめざすのなら、両方を極めるつもりで挑むべきだと思う。

そのためには、日ごろの生活を意識すべきだ。一つの目標に向かって、毎日を大切にすれば結果が期待できるものになる。伝統をつくるために、下級生の見本となるような行動をする。

川越高校が今まで越えようとせず、また見ようとしなくて回り道をしてきた壁を乗り越えることが、ひと回りもふた回りも成長した川高生をつくるのだと思う。

我が後輩たちへ

二年E組 松岡 大樹

我が埼玉県立川越高等学校が創立百周年を迎えるにあたり、現時点においての、また未来における我が後輩たちに対し、自分が提言したいことはただ一つである。

それは、「過去に感わされるな」ということである。百年、という時間の重み、またその中にある栄光の伝統と歴史は、確かにかけがえがなく、また今を生きる者にとって学ぶべきものを多くもっている。しかし、同時に悪しき習慣や忌むべき過去をも、残念ながら含んでいるのが現実だ。それを、「伝統」の名の下に、良いものも悪いものも全てそのまま鵜呑みにするような愚拳だけはしないで

らいたい。そんなことをするのは、愛校者でも常識人でもない、単なる阿呆である。

どうか諸君には、あくまで自らの考えに基づき、己の信ずる道を邁進していつてもらいたい。そしてそれが、結果的には最も母校のためになると、自分は考えている。

あしたのきみへ

二年E組 向井 浩

僕は小さいころから川高へ行くと父に言っていた。そして父の命が燃えつきた時、それは約束となった。さまざまな苦労があったが無事入学できた時は「これが男と男の約束なのかなあ」としみじみ思った。そんなふうに行きあたりばったりで入学したので最初からとことんつまずいた。これといった目的もなく周りのレベルの高さにあつけにとられる毎日。そして間もなく持病が爆発し、即K.O。目の前が完全にブラックアウトした。

その後はもう苦労の連続であった。とじこもりの生活の中で学校に行けない苦しみはやがてむなしさへと変わっていった。

どす黒い僕の生活を救ってくれたのは何よりもクラスの皆の励ましであった。タイミンク良く素晴らしい治療法にも巡り会えた。僕

のエンジンは音をあげなかった。

川高には苦しみとかむなしさを打ち消す何かがあった。仲間・先生・希望とか。さまざまに支えられ励まされ、僕の中から変なうぬぼれも消えていった。人はひとりじゃ生きられないし、助けを求めることはべつに恥ずかしいことでも何でもない。川高にプラス一年いられることのほうが一年休んだことより僕にとって大きいことなのだと思ふ。父との約束は「川高に合格すること」ではなく、「川高に行くこと」である。何度コースアウトしようが、大破しようが、リタイヤしない限り約束は続いていくのだと思ふ。きのうのきみへ、「よく頑張ったな」多くの仲間達へ、「ありがとう」きょうのきみへ、「あきらめるなよ」そして……、あしたのきみへ、「自分のために生きろよ」



未来への追求

二年F組 佐藤 翔

僕と同年年の川高生はたいがい川高に入ってから百周年のことを知ったと思う。しかし、僕は川高に入る前から、学校案内等で調べて自分が三年生になった時に百周年になることを計算していた。もちろん、川高を志望した理由はそれだけではないが。

そういうわけかどうかわからないけれど、僕は、自分には人一倍、百周年に思い入れがある気がする。川高が自分が三年生の時に百周年だということを知っていて川高に入ったのだから、百周年でやってみたいことがたくさんある。

ところで、百周年とはどういうものだろうか。中には百周年だろうが何周年だろうが同じ一年、という人もいる。僕は百周年というものを考えるとき、次の三つの時間的なものについて考えている。

- ①川高の過去の百年の歴史を振り返る。
 - ②現在の川高をみつめてみる。
 - ③これからの川高の未来を提示する。
- ①はこれが載せられる記念誌のような川高の歴史をまとめるようなことである。②は記

念式典や記念行事のような催しものようなことである。③は……、これは何かむずかしいものがある。後世に残すものとして新体育館、新図書館、というものも考えられるが、もつと精神的なもの、つまり百周年を記念する宣言みたいなもの。仮にそういうものをつくらんとしたらどんなものだろうか。「勉学に励め」「心身を鍛えよ」「愛校心を育てよ」「自主性を持って」等々、川高らしくて非常によい。しかし、このくらいのことではだれだっと思いつくのである。もつといいのがあるのではないか。

今、これを書いている時点でその答えを出すのは早急すぎるかもしれない。百周年の実体が見えてくれば、自然とその答えが見えてくるかも……、いや、そんな妥協をしてはいけない。僕は常に未来への提示を追求しなければならぬような気がする。

川越高校のあり方

二年H組 小林 清貴

創立以来川越高校は時代の流れに大きく影響を受け、またそれに沿って発展し、現在もそれは変わらないことだと思ふ。さて、現在では「高校の発展」と言えばそのパロメータ

「進学実績」が用いられ、一般的にはそれが大きな比重を占めているように思われる。確かに今の世では高学歴の者が社会で認められる風潮がある。したがってその点については「時代の流れ」によるものかもしれない。

しかし私は、今の「時代の流れ」によって先のようなバロメーターを用いることが正しいとは思わない。果たして高学歴の者がどれほど社会で通用しているのか、私は次のような話をよく聞く。「今の若い連中は仕事ができても頭が悪い、学校では型にはまったことしか学習しないから自分の頭で考えて行動できない」と言うのである。これからも斬新な発展を遂げていこうとする川越高校があつたバロメーターを用いることは、このようなことを考えれば適切でない。「真の人格の形成」がこれから重要になってくるはずである。「真の人格」とは、人を思いやり、人が何を思っているのかを考えられる、というところから始まると思う。我が高校には盛んな部活動や生徒会活動、委員会をはじめ、くすのき祭や陸上競技大会等、人と協力することが重要である活動が大いにある。ゆえに「真の人格の形成」には最高の環境であると思う。校歌の中に「教への庭の規模広く」とある。これから

はまさに「広い規模の教育」すなわち勉学のみならず人間としての人間的な生き方、考えの教育という、漠然としていて大きな広がりを持ち、それでいて深く、重要な意味を持つものが必要である。

*

私がこれまで述べてきたことを生徒たちに、というよりむしろ教職員の方々に頭の隅に置いていただいて、川越高校の飛躍的發展に尽力してもらえれば幸いである。

2100報告書

二年H組 小松 孝

川高の百周年から百一年。埼玉県にもようやく海ができました。川高はいまだに男子校で、日本に男子校は三校だけです。八十二年前の大震災で校舎が新しくなつたけど、節電のため相変わらずクーラーがありません。その代わり夏休みが二か月半です。教室には赤白黄色と、色とりどりの頭の人沢山います。生徒の性格は昔のままのようです。一学年に五クラスしかなく、集中室、自由室、歓談室等、意味不明の特別室があつて一五個あります。普通の授業は午前で終わります。幼児の時に記憶力の訓練を受けているのでいいのだそう

です。今学期の午後の授業の科目は月曜から順に、体育、音楽、芸術、映画、講演です。

昨日、体育で突然フルマラソンを走らされました。もちろん完走などできません。音楽はほぼカラオケ教室です。最近では百年位前の曲がはやつてます。映画でもこの前、タイタニックを見ました。受験では、現役合格率が少子化のおかげで上がりました。

川高生とは何者か

二年J組 岩崎 健一

自習時間には学食にA定を食べに行ったり、授業中にはタオルをまくらにして寝たり、ゲームボーイをやつてみたり、黒板の裏にはエロ本を隠してみたりと、非常に好奇心の強い川高生ですが、やるべきことはきちんとやる人がほとんどのように思えます。僕はそこが川高の良い所だと思えます。皆肩の力を抜いてリラックスしているし、校則も厳しくないのうっかりすると流れさそうになります。きちんと元の場所に戻ってきます。

高校生活を通過点とみるか否かは人それぞれでしょうが、川高は万人にフィットする場所でしょう。気を引き締めて積極的に行動すれば充実して過ごせるし、そこそこは過ごし

なければそれでもできます。

強制する要素が少ないというのが川高のよさの一つであり、それを目的に入ってくる人も大勢いるようですが、自由それ自体を目的としては二七川高生で終わってしまいそうない気がします。

カワタカ

二年丁組 小川 裕介

僕は自由を学ぶために川越高校に入った。

中学時代、幾度となく規則について教師と衝突した。「お前たちに自律はムリだ。」結局最後に出るのはいつもその言葉だった。だから知りたかった。自由という環境の中で人がどのような行動をとるのか。

ある教師は言う。「ウチの学校の常識は社会では通用しない。」その通りだ。全真私服、茶髪もヒアスもある。時に自由を履き違え自転車をパクする者もいる。しかしそれでもいいと僕は思う。履き違えてしまうことも本当の「自由」を学ぶために必要なのだ。いつか自分で気がつくしかないのである。確かにそれは難しいことではあるが、与えられた規則と自分で創る規則、どちらが僕らを成長させるであろうか。



自由な校風は「求めれば求めただけの成果が生まれる」という財産をもたらした。自由な発想を糧に、カワタカの伝統の創造的破壊を行っていきたくは今は考えている。

学ぶ喜びを

二年丁組 松崎 慶悟

僕は今、たまたま川越高校が創立百周年を迎える年に在籍しています。それは本当にたまたまであるかもしれませんが、百年間の歴史無くして百周年を迎えることは有り得ないのです。

先日僕は、曾祖父が百年前に川中に入学した者の一人であったことを知りました。しかし、曾祖父は四年生の時に退学してしまっただけです。金銭的な理由で退学せざるをえなかったとのことでした。それから百年経った今、そんな理由で川越高校を去っていく人はほとんどいませんが、昔は学びたくても学べない人がいたという事実を受け止めてほしいと思います。

今、川越高校に在籍している生徒には、もう一度学べる喜びについて考え、その喜びを味わってほしいのです。そして悔いの残らないような高校生活を送ってもらいたいと思います。

ラスコーリニコフよ 目覚めよ

三年A組 大野 圭司

戦後の高度経済成長に支えられた我々の価値基準が、今まさに変わろうとしている。グローバルスタンダード、終身雇用の廃止、高級官僚の腐敗など枚挙にいとまがないが、この激流の時代の将来を担うのは他ならぬ我々若い世代だ。「人生は素晴らしいもので

ある」夢見る若者はこう信じて疑わない。確かに希望に胸ふくらますのは青春の象徴だ。しかしそれが転じて「自分だけは特別」という選良意識にはならないでほしい。見よ。一部の自分を天才と信じ、逮捕されたエリートたちの「なぜ我々に限って……」という空しい叫びを。現在川高内で時々起きている各種の盗難事件やモラルの低下はこれらの萌芽のような気がする。校歌の中に現れる「智を耕して徳を敷く」というくだりは何処へいったのだろう。人々が混迷する中、大衆社会のリーダーシップをとる使命を持つ川高生にはそれにふさわしい賢者の生き方をしてもらいたいものだ。

川越物語第百段「愛校心」

三年A組 荻原 義和

今となつては昔のことだが、平成十年度当時の三年生O氏が「僕達に百周年は関係ないなあ」と言い、川柳を詠んだ。

僕達は 一歩及ばず 白止まり

K氏は感銘を受けたが、S氏が反論して言うには、「愚痴をこぼしつつ卒業するのは気分が悪いものだ。百周年を祝うのもまた一興

ではないか」ということで、O氏とK氏は愚痴るのをやめてしばらく思案した。そして始めにS氏、続けてK氏、O氏と川柳を詠んだ。

くすの木は 百年生きても まだ若い

武蔵野に 散らばり増える 木の実かな

愛校心 それがわが家の 家訓なり

川越高校を愛する美しい心の表れである。

川越高校・川高生の あり方

三年C組 千葉 由樹

明治に始まりこの平成の世の中で百周年をむかえるこの川越高校。物ではない、人の集まりであるこの学校の歴史にはさまざまな思いが刻まれているに違いない。それを我々は伝統と呼び、その中に生きていく。しかし、現代社会における人々の無関心さは川高として例外ではなく、集団での生活の良さ、権利を獲得したことで生じる義務を忘れてしまっているかに見える人もいる。

川越高校＝自由。このイメージでこの学校



を選んだ者の一人である自分も、本当の自由を考えさせられた。今、社会の秩序は破壊されつつあり、自分の生き方を見失った人々の中はあふれている。本当の自分とは何なのか、自分にできることは何か、我々が考えるべきことはそれではないだろうか。情報処理能力ではない、自ら行動へ移すことのできる本当の学力が今求められている。我々川高生はその力を得るために、日々の生活を送るべきではないだろうか。また、川高もそれにふさわしく変わっていくべきである。

川越高校百周年によせて

三年C組 深町 英樹

百年前は、どんな時代であつただろうか？

日本が国際社会に進出して間もないころ、この学校が開校した。歴史的にみて現代にとって最も重要で、複雑でめまぐるしい百年を生きてきたのである。その百年の間に川越高校もさまざまな変化をしてきた。

戦時中は日本の学校のひとつとして軍事訓練をして、戦争に参加していったと知りショックだったが、時代の、日本の先頭にあるべき学校として仕方がないのかもしれない。ただその中であって、長谷川貞平先生のような人物がいたことは誇りに思う。

戦後は戦前の反省を生かし、いかにも川越高校らしい自主的な活動が多くあり、これらが現在の川越高校の基盤となっていたように思える。とくに、川越高校の、個人を尊重する自由な校風は、長い伝統と、質の高い生徒があつてこそできたもので、これに関しては僕の最も誇りとするところである。

川越高校では自分から何かをしていかなければ得るものは少ない。しかし、自分から積極的に活動すれば得るものは多い。ある意味で大学にも近い、スケールの大きな学校である。川越高校で深く考えることも学んだ。これからの人生で重要なものを多く学んだと思う。悪い点も少なくはないと思うが、悪い点を改善していった、これからもこの伝統の校

風を大切にし、その根本精神は皆で協力し守っていききたい。

風に吹かれて

三年D組 武捨 君彦

「時代は動きよるぜよ」と坂本竜馬が言つたとか、言わないとかいう話がある。いずれにせよ、時代は確かに動きよる。ときには激しく、ときには緩やかに。そのうねりを、僕たちも今ひしひしと感じることが出来る。川高^{カワタカ}が百周年という節目を迎えているように、日本という国も、いやもしかすると人間という生きものも大きな岐路に立たされているからかもしれない。川高^{カワタカ}へ変ワツタカ。変わりつつあるし、変わらなくちゃならねえんだ、というのが今そこにある現実だと僕は思う。いささか逆説的な物言いになるけれども、川高にもし良さき伝統などといったものがあるとしたら、それは伝統におもねらないという伝統であると思うから。あらゆるものが僕たちの前に現れ、現れては消えていく。そして二度とは戻ってこない。それなのに僕たちは何を求めているんだろう？ その答えはね、我が友よ、吹きゆく風の中にある。それはいつも風に吹かれて、舞っている。

革命宣言

三年F組 小森 敏治

私にとって川高はとても環境の悪い学校である。まず第一に、駅から非常に離れているということ。重い荷物を背負い歩いて約二十分。はっきり言ってこれだけで一日分のエネルギーを使い果たしてしまふ人ものではないだろうか。これは近年の現役進学率にも影響を与えているであろうと思う。第二に設備が整っていないということ。せめてコンピュター室だけでも作っていただきたい。百年もの伝統があるのだからこそ、こういうふうな設備改善の運動にもっと積極的になるべきである。

百周年を機に過去にこだわらず、未来に向けてのさまざまな取り組みにもっと積極的になる学校に変わってほしい。そのためには、生徒の行動がこの学校全体にもっと影響力を与えるようにならないかと思う。学校は生徒主体の場であるとの認識が自然に学校生活に溶けこんでいることが理想的であると私は思っている。

浦高や熊高が百周年を迎えた時にはどんなことをしたのか。それらを参考にしながら、

全国の学校に衝撃を与えるような事業を起こしたい。我々ならできるとき。あのくすの木の下に団結すれば。

勉強以外の何か

三年F組 戸田 宏明

僕はソフトテニス部に所属している。テニスの歴史の中でもっともすばらしいことといえば、一九四九年の芹沢・岡田組の全国制覇である。しかしその二人の力がすばらしいことは確かだが、その二人だけがすばしいのではない。その年の他の部員たちがいてこそ練習ができたわけであり、一つ上や二つ上の先輩がいて、さらに多くのOBの方たちからいろいろなることを教えてもらい、学びとってこそテニスがうまくなったのである。

自分も三年の時にインターハイに出場することができた。出場できることが決まった時に、やはりみんなの力があってこそこの結果を出せたということ、みんなの力が自分を出場させてくれたんだということを感じた。つまり自分自身の努力が何より大切だと思うが、それ以上に他の人たちの協力、支えがあってこそ自分だということ忘れてはならない。僕もテニス部に入ってテニス以外の多くの



ことを学んだが、高校がただ勉強をするだけ、の場であってはならないと思う。そういった意味で川越高校という場所は、自由な校風に象徴されるように、そういった「勉強以外の何か」がとても多くある所である。高校三年間で勉強だけしかやらなかったというのではあまりにもつまらないし、本当の川越高校の良さというものがわからないと思う。例えば、くすのき祭、生徒会、部活など三年間続けてよかったと思えるものならば何でもいい、この学校はそれを見つけやすい場であって、これからもそういった場の多いすばらしい川越

高校であり続けてほしいと思う。

これからの川高

三年G組 小野 直

尊敬している人がいる。小学生のとき、私たちのクラスの担任だった人だ。彼は、教師というものにかなり反抗的な私が、これまでの人生の中で、唯一心の底から「先生」と呼べるような、それほどまでに素晴らしい人であった。恐らく私だけでなく、彼に教わった人は少なからず私と似たような気持ちを抱いているに違いない。その「先生」は私たち全員を、ひいきなどは一切せず、平等な目で見てくれていた。私たちに、努力して何かをやり遂げるということを、体を張って教えてくれた。そして「自覚と責任」という、当時の私たちにとってはまだ少し難しすぎるような彼が信条としている言葉を、私たちの胸にも刻み込んでくれたのだ。私は中学生のとき、彼が川高の卒業生であることをはじめて知った。そして私自身が川高に入り、この学校から彼のような教師が現れたとしても、それは全然おかしくないな、と感じている。

これから川高は百周年という大きな節目を迎える。私は、川高とは、自由な校風のもと、

彼の言った「自覚と責任」を養っていく学校なのだ、心の底から思っている。そして今の川高からは、「自覚と責任」という部分が失われつつあるのも確かだと思う。

私は、これからの川高にも、「大きな人間」を育てていく学校になってほしいと願う。たとえ社会での立場は小さくても、心は大きな人間を。生徒たちに心の底から「先生」と呼ばれる、彼のような人間を。

百年の歴史と現在の僕ら

三年G組 杉田 裕介

戦前から続く川越高校の歴史もいよいよ創立百年という区切りの年を迎えようとしている。僕は今、先日配布された、「川越中学・高校百年史ダイジェスト」を手元に置いて、この作文を書いている。「日露戦争の勝利に川中生興奮」、「関東大震災に際し、ボランティア活動」、「日中戦争勃発による国民精神総動員運動の波」など、その歴史の重みを感じて項目が随所に見られる。そして何よりも驚かされるのは、かつての川中生、川高生の、そのエネルギーな活動ぶりだ。彼ら

は全力で勉強、運動にそのエネルギーを注ぎ、各部活動のその輝かしい成績、体を張って「自由」を訴えるその姿勢には、本当に畏敬の念を感じる。それに比較して、現川高生である今の我々はどうかだろう。彼らよりも「自分のために使える時間」を多く与えられてはいるが、はたして彼らより「充実した日々」を過ごしているといえるのだろうか。今、自分自身に、この問題を問いかけて見たい。

百周年にあたって

三年H組 土屋 和隆

百周年と一言で言っても、まったく実感のわかない年月である。一世紀もの長い歴史は、諸先輩方の努力により素晴らしい伝統を生み出した。残念ながら我々三年生は百周年に在学していることが出来ない。この百周年は二一世紀への第一歩であり、川越高校にとって大躍進の時である。素晴らしい百周年にして欲しいと思うと同時に、川越高校には地域社会に根付いた、他校よりもっと魅力的な学校になってほしいと思う。

二一世紀は情報氾濫社会になるだろう。コンピュータによって学校教育も変化するにちがいない。しかしコンピュータは人間関係を

薄くしがちである。人間は勉強が出来るだけでは役立たない。人間を測る尺度は偏差値ではなく、人間そのものだ。だから川越高校の生徒は人間関係を大切にしてほしい。そして川越高校の教育方針も、諸先輩方の功績を傷つけないよう、進学先だけにとられず、人間教育に徹してほしいと、心から願うと同時に、この百周年を機に、新たな川越高校をつくり上げていくことを期待している。

くすの木

三年I組 吉田 清隆

この学校にはくすの木がそびえ立つ。私は非常にこの木が好きである。私自身が三年間くすのき祭実行委員を続けてきたことも関係するであろう。また私の通っていた小学校の校庭に同じようにでかい木が立っていたことも何かしらつながっているだろう。なんにせよ、川高のくすの木は素晴らしい。

時の鐘の隣りを通りその道を真っすぐ進み市民会館が右手に見えてくるころ、その下り坂となった道の先に見えてくるもの。青く繁り生き生きと天に向かって伸びるくすの木の姿。川高に来る人は、これに圧倒され、何かしら思うことであろう。

ことなくすの木も、最初にどこから来たものかはつきりせず、樹齢も百歳前後というところである。約百年前に、このくすの木を植えた人はいったいどんな思いでこの木を植えたのであろうか？ このように愛される木になると思っていたのだらうか？ 植樹から約百年。それを知るものは、もはやくすの木のみである。



川越高校に望むこと

三年J組 小川 昌俊

二一世紀の川越高校には、ぜひ実践してもらいたいことがある。それは多方面にわたる人材を育成してほしい、ということだ。

具体的な意見としては、まず生徒を募集する時点で「普通科」以外の科でも生徒を集め

てもらいたい。例えば、将来は芸術大学へ進学することを目的とする「芸術科」。また作家や脚本家を目指す人のための「文学科」。あるいは他校にもあるような「理数科」や「体育科」などもあつてよいだろう。この他にも、いろいろな目標を持った人が集う学校になつてもらいたい。

もちろん、学校の中心として川越高校の看板を背負うのは普通科の生徒である。しかし、いわゆる「一流大学」に進学することを目的としている集団が、他の目標を持つ人と触れあうことも大切なのではないだろうか。また、そうすることによって互いに刺激しあい、励ましあいながら自分を高めてゆくことが可能になるはずだ。

川越高校の卒業生が、多くの分野で一流になる。これが二一世紀に向かう川越高校への自分からの要望である。

もう一度学びたい

定時制二年一組 田中 早苗

私は現在娘とともに川高の定時制で学ぶ、三十九歳の高校二年生です。

私がここに入學するきっかけとなったのは、娘が以前の高校で、悩み病気になる時でした。



た。そのころ、カウンセラーの先生、また中学校のさわやか相談員の先生のアドバイスで自分の人生について振り返って行くうちに、私はカウンセラーの先生に感激してしまったのです。自分の心が少しずつ変化し、自分を見つめ直し、「もう一度学びたい。そして将来私もカウンセラーの先生となって、思い悩む人を助けてあげたい。」という気持ちが沸き、入學となりました。現在、緊張もほぐれ部活動の大会、生徒会等に参加して少し青春して

います。私を知る人はみんな「最近輝やいてるね。」と言ひ、ますますエネルギーが沸いてきます。

ここで学んだことを土台にして、将来社会に役立てる人になりたいと思つています。

人と人との絆

定時制二年一組 佐田 充

一世紀にわたるわが校の歴史を振り返れば、さまざまな人の人生や出来事への思いがうかがえます。同時に、明治時代から私たちの時代までの歴史は、彼らによって担われたものですから、私たちの学校や社会の今あることは、全て彼らの残した成果と思えます。私たちはこのことに感謝するとともに、これからこの時代を造っていく責任と自覚を持つ必要があるでしょう。

川高の歴史と伝統は時代とともに移り変わっていくもの一つではありませんが、私たち生徒自身も変わっていくのです。私は定時制の二年生ですが、ひと口に定時制といつても年齢層はさまざまで、一人一人の生活もさまざまです。しかるに私たちが学校に来る目的には共通しているものがいくつもあります。勉強して卒業することが最大の目的でしょう。

けれども、私が一番強く感じているのは、他にもない、人と人との交流の場ということだと思います。私たちが普段学校生活を送っているとき、さまざまなことがあります。そこで得る最高の収穫は人と人との絆ではないでしょうか。

川高で学んだこと

定時制三年一組 田澤 絵美

私はただひたすら勉強が嫌いなのだ。ろくに中学へも行かなかつた。それは中三の時に半年以上入院していたせいもあるが、川高の定時制の受験を決めたのはやはり受験勉強からの逃げだろう。楽に入学をして、嫌いだつたはずの勉強をしに毎日学校へ通っている。毎日仕事をして、その後学校へ行く。そんな生活をもう三年も続けている。川高に入学してから時間が流れるのがやたらと早いと感じるのは、ここでいろいろな人と会つて、そしてやめていくから。そんな中で自分にとって大きな影響を与えてくれる人と会つて、こういう時に川高に来て良かった、と思うのだ。きっとこの人に会つたためにここへ来たのだ。そして、私が今まで生きてきた「道」みたいなものは間違つてはいなかつたのだ、と確信する。いろんなものを見てきて、これか

らもそうやって成長して行くのだと思う。あと一年で卒業するが、ここで学んだこととにもありたいと思う。

「今まで」と「これから」

定時制三年二組 仲 義之

百周年記念といわれても、我々はたった三年間、本校に所属していただけなので、それほど特別な感慨があるわけでもないが、この百年間に行われてきた学業や部活動の数々の輝やかしい成績には敬意を表したい。

けれどもそれ以上に大きなことは、生徒自身による学校運営の歴史だろう。生徒憲章の成立や制服制度の廃止など、生徒自身によって学校のあり方や、方向性を決めてきたこの歴史は、今後、他の学校でも見習つてほしいと自信をもつていえることである。私はこのような意義深い歴史を持った学校に所属できたことを、ほこりに思つていきたい。

ただ、このような長い歴史を持つ本校でも、日の丸・君が代を筆頭に多くの問題が残っている。これからの川高生には、これらの問題に対して最後まで自分の信念を曲げることなく、議論を続け、よりよい川越高校を作り上げていってほしい。

川高の一年



新入生と父母を、応援団旗と新図書館が出迎える



何度も確かめる。笑顔がこぼれる

あった！ 新川高生誕生の瞬間だ

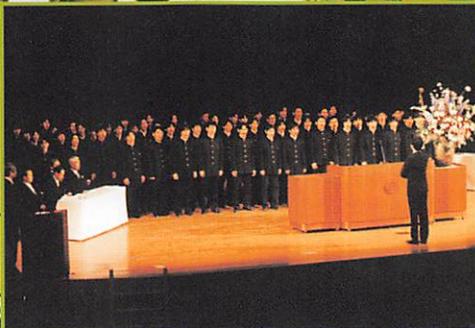


上級生が通る。オレにもあんな日があったな

合格発表

入学手続きの書類をもらう





入学式

体育館の工事中は、市民会館を借りて行われた。音楽部の校歌に入学を実感する

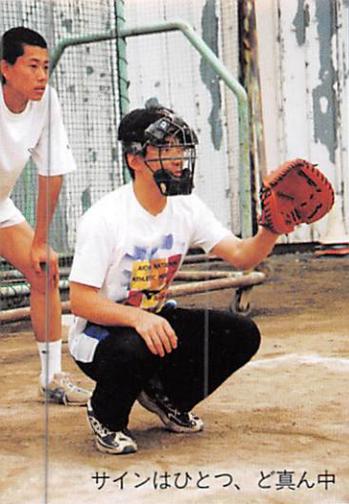


新体育館での対面式(1999)



対面式

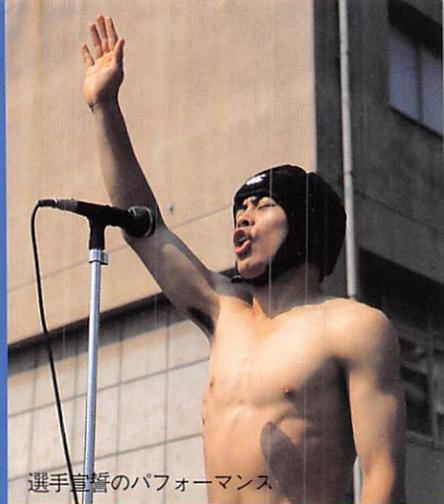
中庭では最後となった対面式(1997)



サインはひとつ、ど真ん中



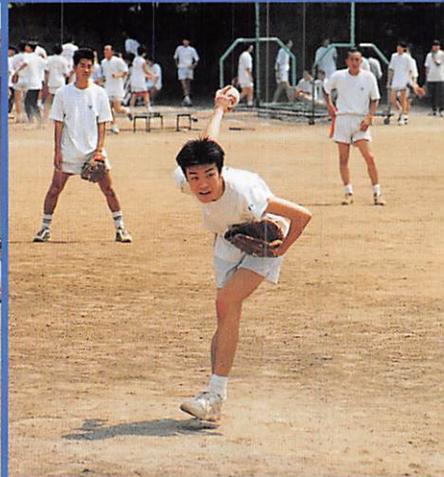
球技大会



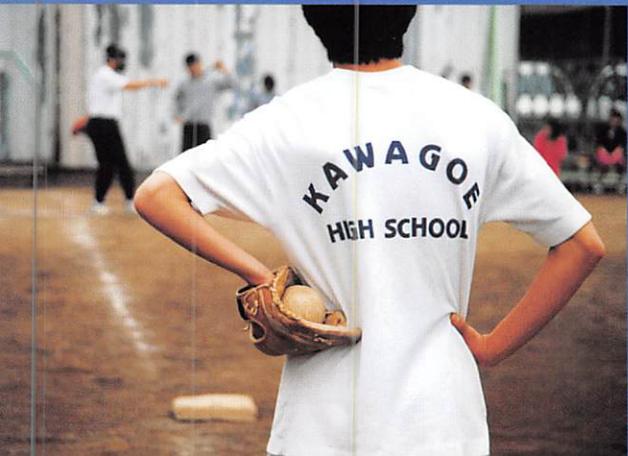
選手宣誓のパフォーマンス



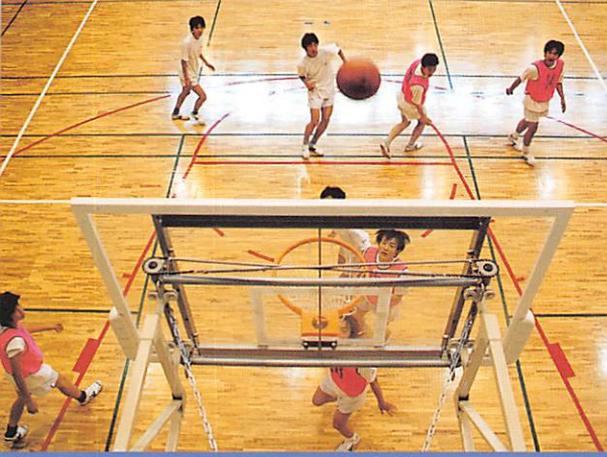
ボールは何処へ？



カッセ！ カッセ！



行事には欠かせぬ応援部



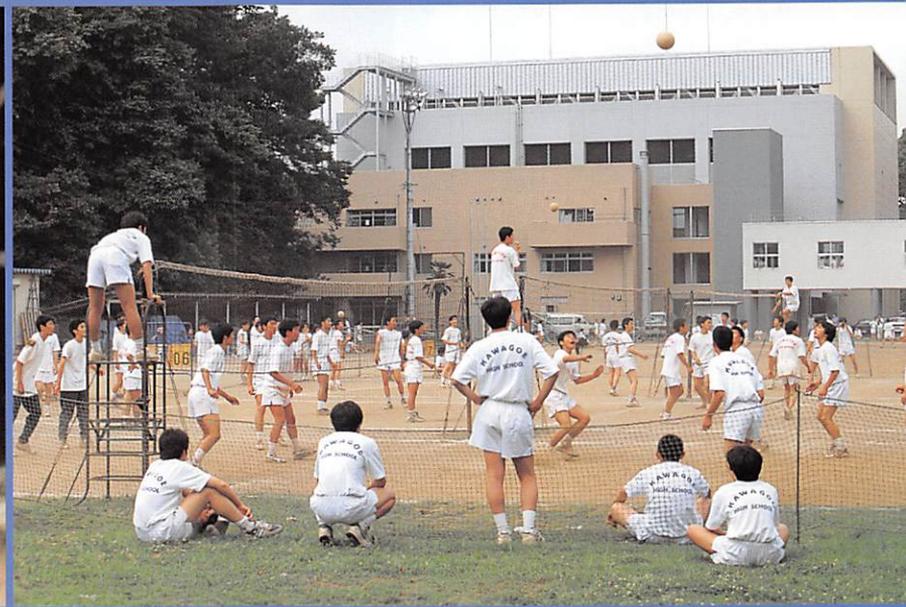
サービスで勝負が決まる



いっけー、はいれー



とるぞ！ サービスエース

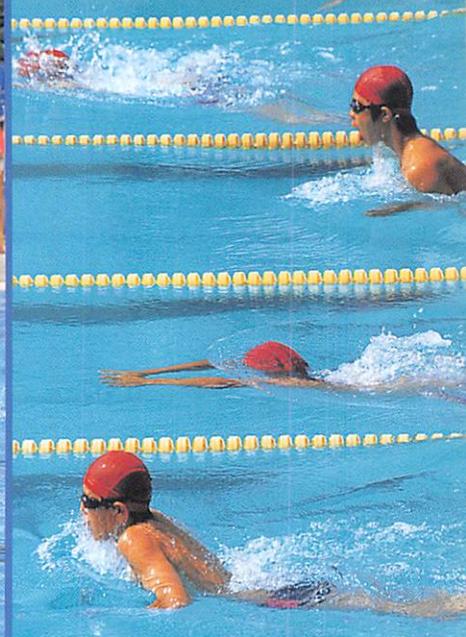


総合優勝だ、ウオオオオ！





レクリエーション種目では笑顔がこぼれる



競泳種目の選手は真剣だ

水泳大会



1996年、水泳大会は一年生の学年行事として復活した

くすのき祭



一般生徒も協力して、門を立てる



ブタベスト西駅(1993)



セントポール大聖堂(1995)



もう一歩! もっす完成だ



急げ! 祭はもうすぐだ



間にうかぶルーマニア国立劇場(1997)



ヴァシリー・ブラゼンマイ寺院(1992)

廃材が姿を変えていく



門に賭けるひと夏の青春



ノイシュバンシュタイン城(1996)



細部にもこだわる



暑さと戦う50日





ブルーモスク (1994)

取り壊し前の記念撮影



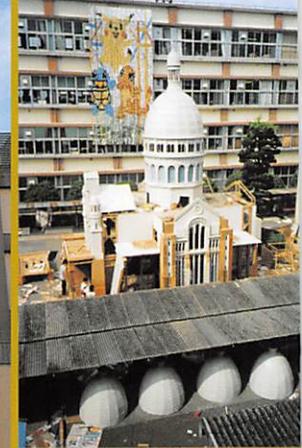
わずか二日で消える門



夕日に映えるサクレクール寺院 (1998)



次第に形が見えてきた



完成が近づく





観客の笑いを誘うコミカルなシンクロのメイ演技



このダイナミックな演技を見よ



呼び込みのターゲットはもっばら女子高生？





盛り上がる中庭ステージ

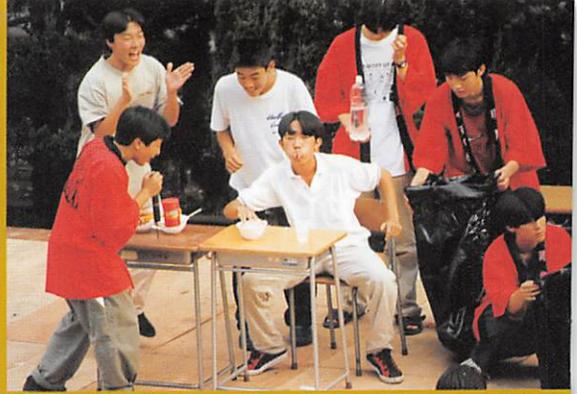
「ハッピーをきた聖者」たちの行進



後夜祭は高校生の解放区



男の戦いに妥協はない



女装こそわがロマン



アカデミックな展示もある



いらっしやいませ



喧噪の中の静寂



陸上競技大会



いったい何を宣誓してるの？



いくぞぉ～。伝統の騎馬戦は雄叫びとともに





秋の「師」走。気持ちばかりが先に行く

会場は川越総合運動公園陸上競技場。思う存分力を出せる



男だぜ。多少の雨でも競技は続く

強歩大会



30キロを走りきる強者も少なくない



ここから歩いて帰るのか



スタートだけは元氣よく



先は長いぞ腹ごしらえだ

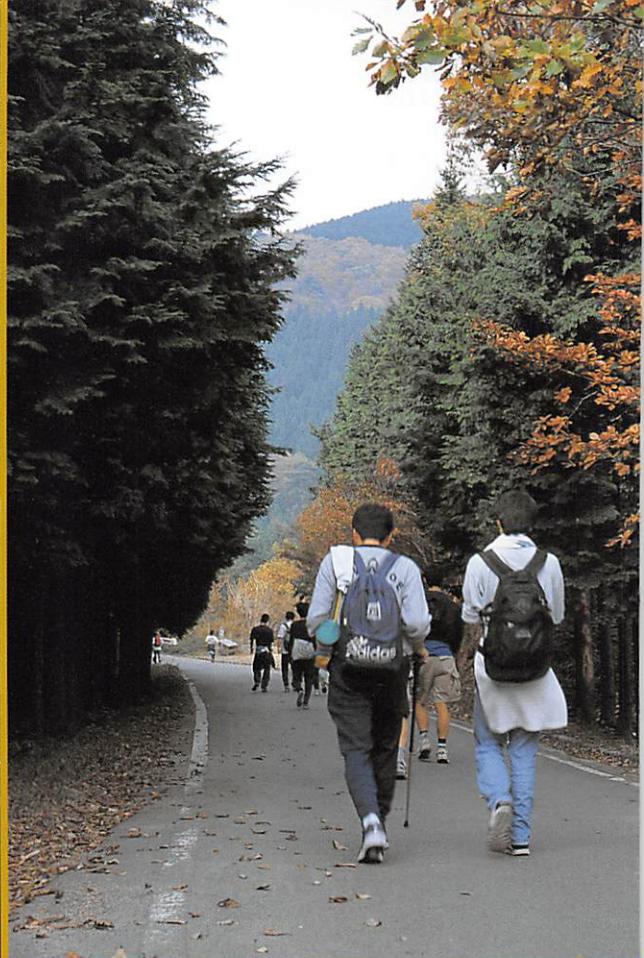


峠の茶屋でひと休み





こちらは健康づくり？



「明日の授業どうする」「フウ……」



チェックポイント通過

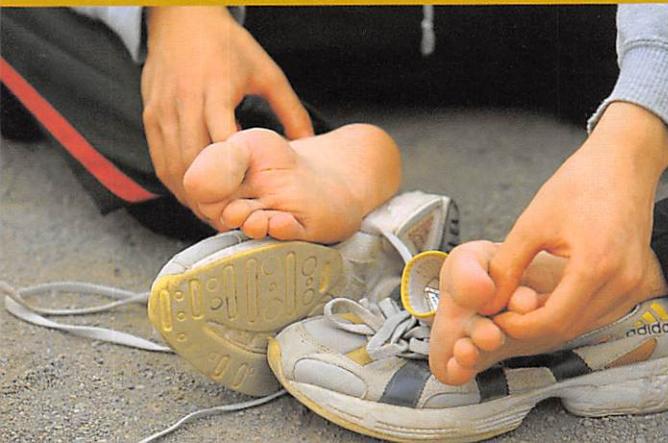


晩秋の奥武蔵に行く

ほめてやりたい、わが足よ



夢に見たゴール





クラス全員が壇上で校歌の大合唱

新体育館で行われた第51回卒業式



卒業式



いつの頃からか行われ始めたパフォーマンスの数々



卒業式終了後、クラス仲間と記念撮影

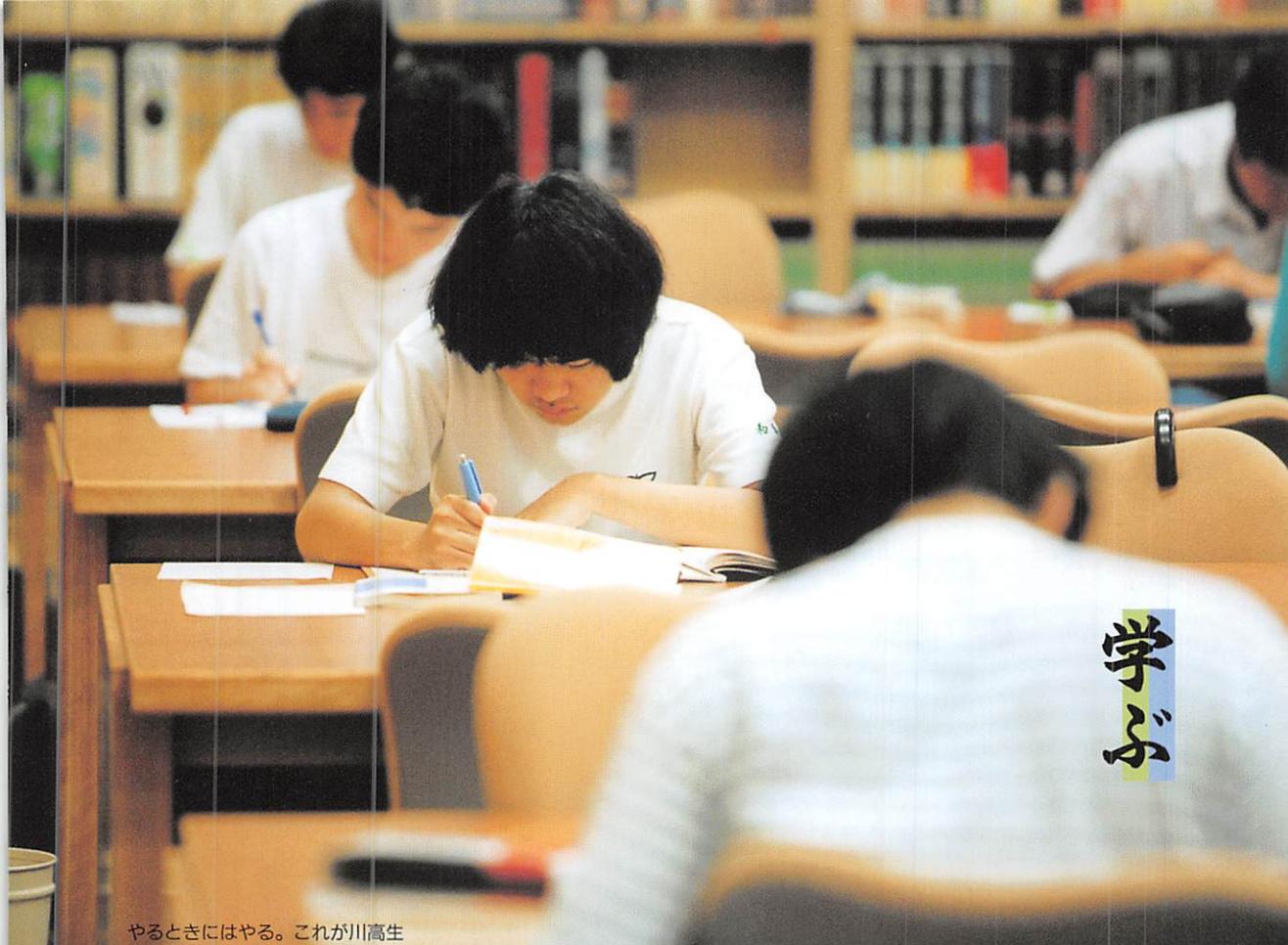


第49・50回卒業式は市民会館で挙行された



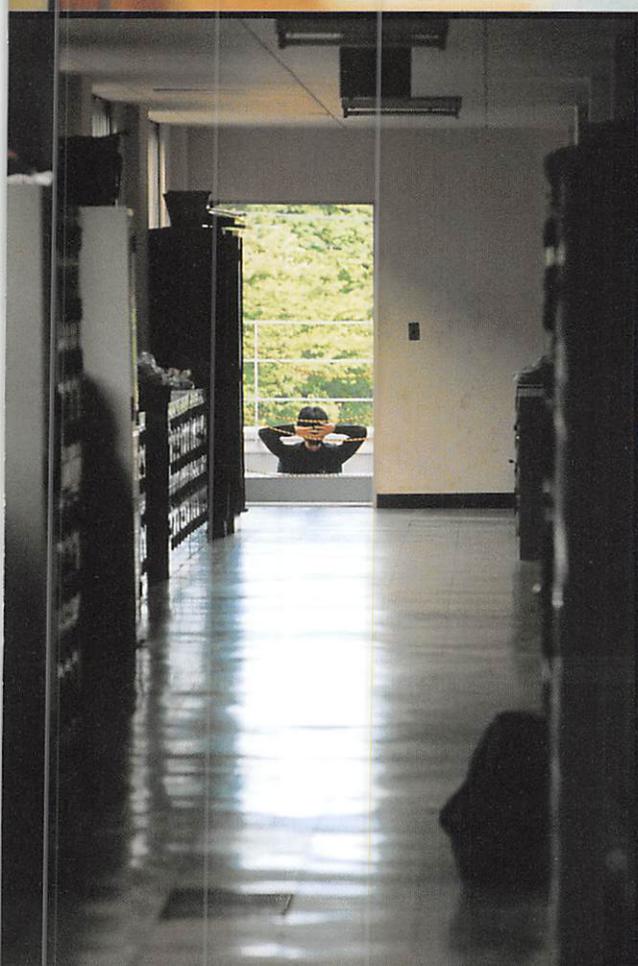
当校三高生受賞





学ぶ

やるときにはやる。これが川高生



ここにはカントもバスツールもいる





今はミシンの悪戦苦闘もある



難問との格闘は昔から生徒の宿命



問題が解けると、スプーンがとまる

語らう



校歌碑前の談笑もすでに川高風景の一部



マウスの操作に話も弾む



よこれた部室もくつろぎの楽園



汗が飛び散る

鍛える



集中する



オレも試合で花開くぞ



気迫がほとばしる



先生がオレに昇るのさ



明日に向かって……跳ぶ！



ときには……休む



新たな伝統に向かって、押す！



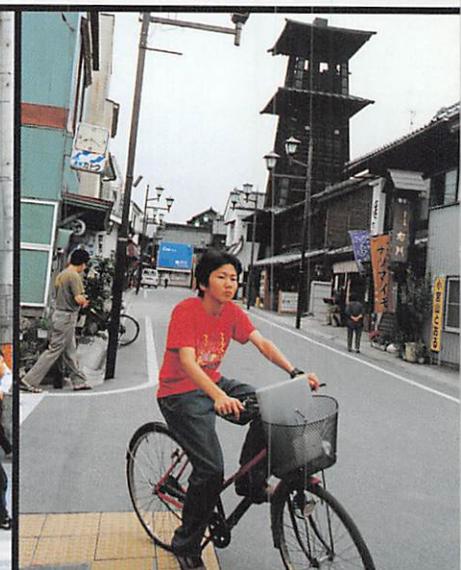
朝川高生のある風景。頭はまだ眠っている



今日もアツイ一日が始まる



校門前は大混雑



時の鐘は“百年通学路”



そして一日が終わる





「おばちゃん、焼きそば大盛りネ」



とおりゃんせ、三芳野天神

川高界隈



テニスコート裏の饅頭屋さん



川越市立図書館。ここでも勉強するのです



川越市民会館。お世話になっています



校章、ボタンはここで買う



川越第一小の校庭。その向こうに体育館



受験書類はここから送付



正面に材木が見えたら左に曲がる



この角を曲がっていくのが通学路



近くの松江町には教会もある



正門からまっすぐいけば蔵の街
旧第八十五国立銀行である



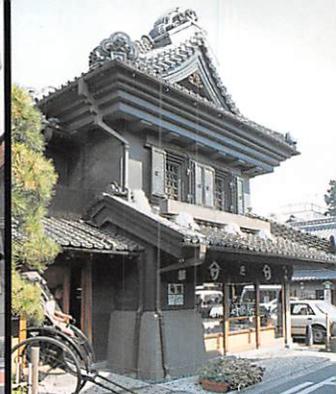
言わずと知れた時の鐘。電線は地中に埋まった



スポーツ店も蔵づくり



大正時代のモダンな建物



蔵づくりの陶器店



刺激的な唐辛子べったりのお煎餅



学校で食べるパンはここで作られる



天明三年創業の和菓子屋さん



かつての劇場はシアターに



七曲がり入り口。左の本屋さんで教科書購入



関東十八檀林の一つ蓮馨寺



本川越駅前スクランブル交差点



川高生御用達?



本川越駅からの通学路



こちらも大きな駅ビルとなった川越駅



本川越駅。今は立派なホテルと駅ビル